

I 24年度自己点検評価報告書 総括表

I 国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためによるべき措置

1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

(1) 収蔵品の収集

【中期目標】国との文化財保護政策との整合性、一体性を保ちつつ機関の設置する博物館各館の役割・任務に沿って収集方針を定め、これに基づき、計画的かつ適時適切な購入と寄贈・寄託の受け入れを進め、体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の充実と保全を図ること。

【中期計画】

- (1)-1 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。また、そのための情報収集を行う。
 (東京国立博物館)
 日本を中心にして広くアジア諸地域にわたる美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。
 (京都国立博物館)
 京都文化を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。
 (奈良国立博物館)
 仏教美術及び奈良を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。
 (九州国立博物館)
 日本とアジア諸地域との文化交流を中心とした、美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。
 (1)-2 収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。

【主な計画上の評価指標】

- 購入、寄贈・寄託の受け入れにより、各館の特色に沿った体系的・通史的にバランスのとれたコレクションを形成すること。

【23年度評価における主な指摘事項】

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
1111	(1)-1 適時適切な収集 各館の収集方針に沿って、鑑査会議等で収集案を作成し、外部有識者からなる買取協議会の意見を踏まえて収集する。また、文化財の散逸や海外流出を防ぐため、内外の研究者、学芸員、古美術商等との連携を図り、迅速かつ確かな情報収集にも努め、それらを収集活動に効果的に反映していく。 (東京国立博物館) 日本を中心として広くアジア諸地域の文化の体系的陳列を目指し、絵画、書跡、彫刻、工芸、考古、歴史資料の中から重点的に購入する。	(1)-1 適時適切な収集 【東京国立博物館】 ・購入件数 5 件 内訳：絵画 3 件、書跡 1 件、漆工 1 件 ・決算額 106,050,000 円 24年度は、絵画 3 件(狩野秀頼筆蔬菜図、鶴鳴図、重要美術品・没倫紹等筆葡萄図)、書跡 1 件(本阿弥光悦筆赤壁賦)、漆工 1 件(朱漆輪花盤)の計 5 件を購入した。	A	順調
1112	(京都国立博物館) 京都文化を中心とした絵画、彫刻、書跡、陶磁器、染織品、漆工芸品、金工品、考古資料、歴史資料の中から重点的に購入する。	【京都国立博物館】 ・購入件数 1 件 内訳：考古資料 1 件 ・決算額 22,000,000 円	B	ほぼ順調

1113	(奈良国立博物館) 仏教美術及び奈良を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等の中から重点的に購入する。	今年度の購入件数は 1 件のみであるが、当館にとって重要な考古資料である、平安時代の記年銘経塚出土品一括資料を購入した。 【奈良国立博物館】 ・購入件数 2 件 内訳：絵画 1 件、書跡 1 件 ・決算額 27,300,000 円 購入により 2 件の文化財が新たな収蔵品として加わった。 ・絵画 紺本著色東大寺曼荼羅 1 幅 室町時代(16世紀) ・書跡 古写經断簡集 1 卷 奈良～平安時代(8～12世紀)	A	順調
1114	(九州国立博物館) 日本とアジア諸国との文化交流を中心とした美術、考古及び歴史・民族資料等の中から重点的に購入する。	【九州国立博物館】 ・購入件数 18 件 内訳：絵画 5 件、書跡 1 件、彫刻 1 件、陶磁 1 件、染織 1 件、考古 3 件、歴史資料 6 件 ・決算額 718,835,000 円 当館のテーマである日本とアジア諸国との文化交流の足跡を示す作品を収集する一方で、日本の王朝文化を象徴する作品として、優れた文化財を 18 件購入した。	A	順調
1121	(1)-2 寄贈・寄託品の受け入れ及びその積極的活用 (4館共通) 1) 寄贈品及び寄託品の受け入れについては、文化庁とも連携を図り、登録美術品制度の活用を進めるなど、積極的に働きかけるとともに、平常展に必要な文化財の寄贈を受け入れる。併せて、継続的寄託及び新規寄託に努力する。	(1)-2 寄贈・寄託品の受け入れ及びその積極的活用 【東京国立博物館】 1) ○寄贈 ・新規寄贈品件数 63 件 内訳：絵画 10 件、書跡 33 件、歴史資料 1 件、東洋絵画 1 件、東洋書跡 1 件、東洋金工 16 件、東洋陶磁 1 件 ○寄託 ・新規寄託品件数 3 件 内訳：絵画 2 件、書跡 1 件 ○登録美術品は 1 件減少した。	A	順調
1122		【京都国立博物館】 1) ○寄贈 ・新規寄贈品件数 86 件 内訳：彫刻 2 件、陶磁 61 件、染織 1 件(12点一括)、考古 22 件 ・今年度寄贈品 86 件のうち考古資料 9 件、陶磁器 26 件の計 35 件は寄託品からの寄贈である。特に考古資料は重要文化財変形方格規矩鏡の寄贈を受けた。陶磁器は、長期寄託者から、来年度の特別展の重要な展示となる寄託品をこの機に寄贈していただけたことになった。 ○寄託 ・新規寄託品件数 73 件 内訳：絵画 28 件、書跡 4 件、彫刻 4 件、陶磁 35 件、漆工 2 件 ・今年度は展示館の建て替え工事中で平常展示はできないが、研究資料として、また特別展覧会での活用が見込まれる。陶磁器は京都の社寺を含む所有者から多数の寄託申し出を受け、清朝陶磁の寄託が飛躍的に増加した。近世絵画は円山派の一括資料 459 点の寄託を受け、京都画壇の資料がさらに充実した。	A	順調

1123	<p>【奈良国立博物館】</p> <p>1) ○寄贈</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規寄贈品件数 1件 内訳：書跡1件 ・寄贈の受け入れは次の1件であった。 書跡1件（紺紙金字五苦章句経 1巻） <p>○寄託</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規寄託品件数 13件 内訳：絵画7件、彫刻3件、工芸3件 ・寄託については、新規に9人の所蔵者から13件の作品の文化財を受け入れた。 絵画7件(重要文化財 板絵著色諸尊曼荼羅図(附.板絵断片 3面) 1面 / 紺本著色高野四所明神像 1幅 / 紙本着色与喜天神祭礼図 1幅 / 紺本著色雨宝童子像 1幅 / 奈良市指定文化財 紙本着色富士参詣曼荼羅図 1幅 / 紺本著色両界曼荼羅 1幅 / 紙本着色高野大師行状図画 10巻) 彫刻3件(重要文化財 木造光背(1号) 1面 / 重要文化財 木造光背(2号) 1面 / 重要文化財 木造光背(39号) 1面) 工芸3件(百万塔 1基 / 奈良県指定文化財 刺繍阿弥陀如来来迎図 1幅 / 小龕三方面仏像 1基) 	A	順調
1124	<p>【九州国立博物館】</p> <p>1) ○寄贈</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規寄贈品件数 3件 内訳：書跡2件、考古1件 <p>○寄託</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規寄託品件数 30件 内訳：絵画10件、陶磁11件、染織1件、考古8件 	A	順調

(2) 適切な管理保存

【中期目標】 収藏品全体を常時、適切な保存及び管理環境下に置くこと。特に、施設の老朽化、耐震対策に計画的かつ速やかに取り組み、収藏品と人の安全を守る施設・設備の整備を図ること。

【中期計画】

(2)-1 国民共有の貴重な財産である文化財を永く次世代へ伝えるため、収藏品の保存・管理を徹底する。
現状を確認の上、写真・管理データを蓄積して、展示・研究等の業務に活かし、博物館活動を充実する。

(2)-2 展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境整備を行う。

【主な計画上の評価指標】

○収藏品を適切に保存・管理するための、写真・管理データを蓄積すること。
○展示場、収蔵庫の老朽化対策や温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施すること。

【23年度評価における主な指摘事項】

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
1211	<p>(2) - 1 収藏品の管理・保存</p> <p>収藏品の保存・管理を徹底するとともに、現状を確認の上、写真・管理データを蓄積して、展示・研究等の業務に活かし、博物館活動を充実する。 (4館共通)</p> <p>1) 収藏品を中心とした保存カルテを作成する。</p> <p>(東京国立博物館)</p> <p>1) 列品存在確認作業（棚卸）を継続して計画的に実施する。</p>	<p>(2) - 1 収藏品の管理・保存</p> <p>【東京国立博物館】 (4館共通)</p> <p>1) 本格修復のための列品調査、対症修復の実施、列品貸与の点検として 1,594 件の保存カルテを作成し、蓄積した。 ・収藏品管理システム「列品管理プロトタイプデータベース」に、作品の保存カルテを表示する機能を追加した。 (詳細は処理番号 4571-3 参照)</p> <p>(東京国立博物館)</p> <p>1) 平成 20 年度末から実施している、収藏品の所在と現状を悉皆的に調査する列品情報整備事業を継続して実施した。</p> <p>2) 旧資料部関係品を整理し、列品として編入するための作業を進めた。</p>	A	順調
1212	<p>2) 歴史資料・和書・古写真・ガラス乾板・館史資料等の旧資料部関係品を整理し、列品として編入活用・公開するための作業を進める。</p> <p>(京都国立博物館、奈良国立博物館)</p> <p>1) 文化財保存修理所を円滑に運用して、文化財の積極的保存を図る。</p>	<p>【京都国立博物館】</p> <p>・年に2回定期的に実施している寄託品の期間継続に伴う点検を実施した。 ・収藏品の貸与記録及び館内の展示記録を継続して行った。 ・寄託制度に関するリーフレットを作成し、3年ごとの寄託継続のお知らせと共に寄託者に送付し、寄託者との良好な信頼関係を維持と、寄託業務に対する理解の増進を図った。 ・収蔵庫備品として、メリヤスウエス（綿布）を導入し、収納箱等の日常清掃に活用した。 (4館共通)</p> <p>1) 貸与に伴う点検時を主体として作成を行っている館蔵品の保存カルテの作成を継続して行った。 (京都国立博物館、奈良国立博物館)</p> <p>1) 文化財保存修理所については、修理工房の巡回を行う等、円滑な運用に努めた。(詳細は処理番号 4562-1 参照)</p>	A	順調
1213		<p>【奈良国立博物館】 (4館共通)</p> <p>1) 保存カルテの作成 ・保存カルテについては、文化財の個別写真が添付されたフォームに統一し、保存</p>	A	順調

1214	<p>(京都国立博物館、奈良国立博物館)</p> <p>1) 文化財保存修理所を円滑に運用して、文化財の積極的保存を図る。</p> <p>(九州国立博物館)</p> <p>1) 博物館科学・保存修復諸室を計画的に運用し、文化財の積極的保存を図る。</p>	<p>修理指導室で作成・保管するシステムの運用が軌道に乗ったことで、127件を順調に作成した。</p> <p>・保存カルテのコンディション評価欄に記入されたA～Eの5段階評価についてデータを集計し、館蔵・寄託品データベースに統合するための準備を進めた。</p> <p>(京都国立博物館、奈良国立博物館)</p> <p>1) 文化財保存修理所の運用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芸芸部と文化財保存修理所において、修理に従事する財團法人美術院、株式会社文化財保存、北村工房の3工房代表者との懇談会である今年度第1回目の文化財保存修理所協議会を24年6月21日に開催し、各工房の修理事業実施状況、修理所施設の維持・管理、工房内の温湿度をはじめとする保存環境改善に関する課題などを討議した。 <p>・館長以下博物館職員が定期的に文化財保存修理所各工房の修理実施状況を視察する修理所巡回を、5回実施した。</p> <p>【九州国立博物館】 (4館共通)</p> <p>1) 収蔵品及び修理完了資料を中心とした保存カルテを作成した。</p> <p>(九州国立博物館)</p> <p>1) 展示品を中心にX線CTスキャナ・3Dデジタイザ・三次元プリンタを用いて非接触で三次元データを取得し、保存状況と構造調査を実施した。測定結果は文化財の予防的保存に役立てると共に展示に反映した。また、保存修復施設1～6を運用し、計画的な保存修理事業を進めた。</p>	A 順調
1221	<p>(2) - 2 施設の環境整備</p> <p>展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境を整備する。</p> <p>(4館共通)</p> <p>1) 収蔵品の生物被害を防止するため、IPM(総合的有害生物管理)の徹底を図る。</p> <p>(東京国立博物館)</p> <p>1) 東洋館の耐震補強改修工事に伴う展示環境の整備を図り、よりよい展示を目指す。</p> <p>2) 本館収蔵庫の整備計画を作成しつつ、既存収蔵庫のセキュリティ強化、環境改善の工事を実施する。</p> <p>3) 収蔵品の保存と展示に関する環境について全館的視野にたって調査研究を進め、環境データの解析・蓄積を行う。</p>	<p>(2) - 2 施設の環境整備</p> <p>【東京国立博物館】 (4館共通)</p> <p>1) 収蔵庫など496地点における生物生息状況を夏季に調査した。また、ゴキブリなどの生活害虫を防除するため、夏季に防虫薬剤を全館に設置した。</p> <p>(東京国立博物館)</p> <p>1) 東洋館の工事完了に伴い、収蔵庫及び展示室内に温湿度測定装置の配置、調湿剤の設置などを行い、環境の安定化を図った。</p> <p>2) 本館2階5号収蔵庫への除塵防黴施工を行い、民族資料収蔵のための環境を整備した。</p> <p>3) 収蔵庫及び展示室など361地点の温湿度を計測し、環境の評価及び処置を実施した。</p>	A 順調
1222	<p>4) 展示場及び収蔵庫における地震対策の再検討と改善を図る。</p> <p>5) 収蔵庫、展示室の温湿度、汚染ガスなど保存環境に関する年次報告書を整備する。</p> <p>6) 輸送中の文化財に生じる振動及び衝撃に関する計測と調査を実施する。</p> <p>7) 特別展示室における空調運転の最適化に関する調査を実施し、さらなる改善を図る。</p> <p>(京都国立博物館)</p> <p>1) 引き続き、平常展示館建替工事を実施する。</p> <p>2) 平常展示館建替事業の一環として建設された東収蔵庫の生物生息防止及び空気環境維持のためのモニタリングを継続的に行い、収蔵品の保存環境の充実を図る。</p> <p>3) 特別展示館（重要文化財 旧帝国京都博物館本館）の耐震調査の結果を基に、地震対策を具体的に検討する。</p> <p>4) 特別展示館の温湿度など、展示・保存環境に関わる調査研究を行う。</p> <p>(奈良国立博物館)</p> <p>1) 展示室及び展示ケースの温湿度管理について、無線LANによるデータ管理システムを更に充実させる。</p>	<p>空気環境に関しては、収蔵庫及び外気など34地点におけるアルデヒド類及び有機酸類などを計測し、蓄積した。これらのデータの解析・評価に基づき、平成館特別展示室の温湿度環境を改善するための空調時間延長等の実験を実施し、効果を検証した。</p> <p>4) 東洋館の工事完了に伴い、展示資料の展示支持具を設計し、地震対策を強化した。</p> <p>5) 収蔵庫、展示室など243カ所の温湿度に關し、3段階に環境を分類（クラスI、II、要注意）した平成24年次報告書を作成した。</p> <p>6) 特別展「中国・王朝の至宝」出品作品の借用の際に、輸送中の梱包ケースにショックタイマーを設置し、輸送環境管理を行った。</p> <p>7) 空調運転の稼働時間を開館直前2時間前から開始し、閉館直後45分延長とともに、展示出入り口の扉シャッターの開閉方式の変更によって、展示室内の温湿度環境の改善を図った。</p> <p>【京都国立博物館】 (4館共通)</p> <p>1) 年間を通じて、収蔵庫での網羅的な昆虫類生息調査を行なった。また、温湿度モニタリングを拡大した。日常清掃のための備品を拡充した。</p> <p>(京都国立博物館)</p> <p>1) 平常展示館建替工事は24年度末に本体工事完了、引き渡しを受けた。</p> <p>2) 東収蔵庫では、空調設備の保全に努めるとともに、日常の環境監視体制を整え、保存環境の維持・改善を図った。</p> <p>3) 特別展示館（旧本館）の地震対策と合わせて行うべき改修計画について委員会審議を行った。</p> <p>4) 特別展示館では、展示ケース内の温湿度モニタリングや昆虫類生息調査等、環境監視体制を強化し、状況に応じて、環境の維持・改善を図った。</p> <p>【奈良国立博物館】 (4館共通)</p> <p>1) 館内の文化財害虫生息状況を把握するため、文化財の保管及び展示にかかる箇所を中心に、昆虫調査用トラップを1ヶ月に1回設置・回収し、調査結果の蓄積・分析を行った。</p> <p>・文化財害虫の生息が確認された展示室・展示ケースを中心に防虫シートを設置し、併せて展示施設の周囲に害虫忌避剤を散布した。</p> <p>・収蔵庫周辺や展示室内、調査室内の衛生環境保持のため、掃除と防塵マット交換を定期的に実施した。</p> <p>(奈良国立博物館)</p> <p>1) 展示室及び展示ケース内の温湿度の管理をすることができる無線LANによるリアルタイムの温湿度管理システムにより、正倉院展のような多数の観覧者がもたらす展示室内の温湿度環境の変化に、科学的データを以て即時に対応した。</p>	A 順調

1224	2) 展示ケース内の温湿度・粉塵量などを継続的に計測し、ケースの調湿性能や気密性能の向上を図る。 3) 収蔵庫及び展示室の適正な温湿度管理の徹底を図る。	2)・展覧会ごとに展示レイアウトに応じて無線 LAN 温湿度センサーを設置し、期間中に得られたデータを展示終了後に分析して報告書を作成した。 ・正倉院展終了直後の 24 年 11 月 13 日に、毎年継続的に実施している展示ケース内の粉塵調査を宮内庁正倉院事務所研究員とともに行った。 3) 展示室内的温湿度については無線 LAN 温湿度管理システムにより 24 時間リアルタイムで状況を把握した。収蔵庫及び文化財保存修理所各工房内については、ロガータイプの温湿度センサーを各 5 カ所程度設置し、定期的にデータの回収、分析を行うことによって温湿度の変化を把握した。 【九州国立博物館】 (4 館共通) 1) 収蔵品の生物被害を防止するため、IPM の徹底を図った。文化財搬入に際し、IPM メンテナンスに基づく収蔵準備作業を実施すると共に、必要に応じて殺虫殺菌処理を実施した。 (九州国立博物館) 1) 常設展示室 70、特別展示室約 30、収蔵庫 30 カ所に温湿度計を設置し、環境データを解析した。また、ダストを調査して収蔵環境の改善を行った。 2) 環境データを解析することで、極めて安定した収蔵庫・展示環境を維持することができた。	A 順調
	(九州国立博物館) 1) 館内の温湿度・空気質など保存環境に関するデータを蓄積する。 2) 全館的視野に立った陳列品の展示・保存環境に係る調査研究を進め、環境データの蓄積・解析を行う。		

(3) 計画的な修理

【中期目標】収蔵品の保存技術の向上に努めること。

【中期計画】

- (3)-1 修理をする収蔵品等は、機構の保存科学及び修復技術担当者の連携の下、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。
- (3)-2 国立博物館の文化財保存修理所の整備・充実に努める。
- (3)-3 収蔵品、寄託品の増加に伴う収蔵スペースの確保及び収蔵品の調査・研究並びに修理に伴う調査・研究のための基本設備の充実を図る。

【主な計画上の評価指標】

- 緊急性の高い収蔵品等から計画的に修理を実施すること。
- 文化財保存修理所の整備・充実のための取組を行うこと。
- 計画的な収蔵スペースの確保及び調査研究のための基本設備充実に向けた取り組みを行うこと。

【23年度評価における主な指摘事項】

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
	(3)-1 収蔵品の修理 ① 計画的な修理及びデータの蓄積 修理、保存処理をする収蔵品等については、外部の専門家等との連携の下、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。 (4 館共通)	(3)-1 収蔵品の修理		

1311-1	1) 作品の応急修理に積極的に取り組み、劣化の予防に努め、緊急性の高いものから 74 件程度（東京：40、京都：10、奈良：9、九州 15）の本格修理を実施する。 (東京国立博物館) 1) 引き続き国宝・重要文化財の中長期修理計画を策定する。 2) 保存修復関係資料（前年度修理実施分）のデータベース化を図る。（70 件程度）	【東京国立博物館】 (4 館共通) 1) 紙本などの修理技術者として保存修復課に 3 名のアソシエイトフェローを配置し、館内で実施する館蔵品の本格修理、応急（対症）修理を本格化させた。作品の劣化予防のために 485 件の応急修理を実施し、緊急性の高いものから 95 件の本格修理を実施した。うち国宝 1 件、重要文化財 3 件は寄付金による本格修理である。 (東京国立博物館) 1) 修理計画立案に向け、国宝・重要文化財を含む 100 件の作品に関して修理仕様の検討を行い、中長期計画策定を行った。 2) ・データベース構築のために 23 年度に本格修理を実施した 106 件の内、修理が完了した 83 件の修理内容についてデジタル化を実施した。東京国立博物館文化財修理報告書 X III を刊行した。 ・収蔵品管理システム「品目管理プロトタイプデータベース」に、作品の本格修理に関する予定及び履歴のデータを管理する機能を追加した。（詳細は処理番号 4571-3 参照）	A 順調
1312-1	(京都国立博物館) 1) 文化財保存修理所修復資料のデータベース化を図る。	【京都国立博物館】 (4 館共通) 1) ・館費による修理に加えて、外部資金として財團の修理助成による修理を 2 件開始した。また、個人から当館に寄せられた文化財修復のための寄付金による書跡の修理を完了した。 ・修理中に修理請負候補者選定委員による工程検査を行い、修理が適正に実施されているかを現場確認した。 ・本格修理実績 13 件 内訳は絵画 3 件、書跡 2 件、彫刻 1 件、漆工 1 件、染織 3 件、金工 1 件、考古 2 件	A 順調
1313-1	(奈良国立博物館) 1) 文化財保存修理所修復資料のデータベース化を図る。	【奈良国立博物館】 (4 館共通) 1) ・館蔵品修理 9 件のうち、新規 7 件、前年度からの継続事業 2 件を実施した。 内訳 絵画 2 件（※うち重要文化財 絹本着色十王図 1 件は 3 カ年継続事業の 2 年目。重要文化財 絹本着色普賢延命像 1 件は 2 カ年継続事業の 1 年目。） 書跡 3 件（※うち重要文化財 紺紙金字一字宝塔法華經 1 件は 2 カ年継続事業の 2 年目。） 彫刻 2 件	A 順調

1314-1	<p>(奈良国立博物館) 1) 引き続き修理の中長期的計画を策定する。 2) 修理資料のデータベース化を図る。 3) 寄託の継続を図る必要性の高い寄託品について修理を実施する。</p> <p>(九州国立博物館) 1) 博物館科学・保存修復諸室の積極的活用を図る。 2) 修理資料のデータベース化の調査を実施する。</p>	<p>工芸 1 件 (※国宝 刺繡駿遊説法図 1 件は 4 カ年継続事業の 1 年目) 考古資料 1 件 (※陶棺 (奈良市西大寺出土) 1 件は 2 カ年事業の 1 年目) ・年度内に 5 件が完了した。 (奈良国立博物館) 1) 平成 22 年度に策定した館蔵品の長期修理計画に基づき、計画通りに館蔵品修理を実施している。 2) 前年度に引き続き、当館紀要『鹿園雑集』に「奈良国立博物館文化財保存修理所 修理一覧(平成 23 年度)」を掲載した。併せて修理報告資料を整理し、データベース化を進めた。 3) 寄託品 4 件について助成を受けて修理を実施した。 【九州国立博物館】 (4 館共通) 1) 館所蔵品を中心に、展示や損傷の程度を勘案して、緊急性の高い文化財 31 件 (本格修理 20 件、応急修理 11 件) を修理した。 (九州国立博物館) 1) 九州はじめとする館外所蔵者負担による文化財修理 22 件のために、当館の保存修復諸施設を積極的に活用した。館費による修理とあわせて 53 件の修理を実施した (施設内修理 47 件、施設外修理 6 件 合計 53 件)。 2) 修理報告書及び修理経過を示す画像データを整理して、データベース化に備えた。</p>	A	順調
1311-2	<p>② 科学的な技術を取り入れた修理 伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れた修理を実施する。 (4 館共通) 1) 紙本作品について、纖維同定を行い、作品の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。 2) 修理前あるいは修理中に、蛍光 X 線分析、X 線透過撮影などの光学的調査を行い、作品の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。</p>	<p>② 科学的な技術を取り入れた修理</p>	A	順調
1312-2		<p>【東京国立博物館】 (4 館共通) 1) 絵画、書跡などの本紙あるいは敷き紙などについて、植物纖維の同定を 32 件 (A-10 先徳図像など) 実施し、本紙の保存に関して検討を行った。 2) 修理前あるいは修理中に、蛍光 X 線分析 40 件 (TJ-2898 刻文匣など)、X 線透過撮影 12 件 (J-9836 増輪など)、高精細デジタルスキャナーによる可視・赤外域の撮影 12 件 (A-1069 檜園屏風など)、テラヘルツ波分析 1 件 (A-1069 檜園屏風) の科学的調査を実施した。これらの結果を構造調査と修理設計に役立てた。 【京都国立博物館】 (4 館共通)</p>	A	順調
1313-2		<p>2) 当館が所蔵する「伎楽面 迦楼羅」(奈良時代・8 世紀) の修理を当館文化財保存修理所内の(財)美術院において平成 24 から 25 年度の 2 カ年にかけて行う。その初年度である 24 年度は修理のための事前調査として、表面の彩色などのような顔料および技法が用いられているかを、美術院とともに精査した。その一環として、彩色部分にポリライト (可視光線の波長領域を変えられる装置) を照射して反射光をデジタル機器で撮影するという科学的な方法を用いた。 【奈良国立博物館】 (4 館共通) 1) 館蔵紫紙金字大方広仏華厳経巻第七十、七大寺日記の修理に際して料紙の纖維分析を実施し、補紙として用いる紙の仕様を決定した。 2) ・館蔵絹本着色十王図の修理に際し、当館光学調査室の機器を用いて肌裏に残る顔料の蛍光 X 線分析を実施した。 ・館蔵絹本着色普賢菩薩像の修理に際し、ポリライトを用いて画面の蛍光画像調査を実施し、補綉の状態確認を行った。 (奈良国立博物館) 1) 当館文化財保存修理所で修理施工された木造彫刻作品 1 件について、京都大学生存圏研究所に委託して樹種同定調査を実施し、その成果を当館研究紀要『鹿園雑集』に掲載した。 2) 古墳出土の鉄器を中心とする館蔵考古資料 1 件の修理に際し、X 線撮影及び蛍光 X 線による材料分析を実施し、修理方針の決定に役立てた。</p>	A	順調
1314-2	<p>(奈良国立博物館) 1) 木造作品について、木材樹種同定の調査を行い、作品の材料の解明及び修理指針の検討に役立てる。 2) 古墳出土の甲冑片、武具等鉄製品、木造彫刻などの X 線撮影及び実測図作成を順次進め、材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。</p>	<p>【九州国立博物館】 (4 館共通) 1) 重要文化財対馬宗家関係資料や朝鮮通信使川御座宣図六曲屏風等の紙本作品 7 件について纖維同定を行った。 2) ・秋草蒔絵衣裳箱について X 線 C T 撮影を行い内部構造と損傷状況を調査した。 ・秋草蒔絵衣裳箱について紫外線蛍光観察とラマン分光分析を行い、修理履歴と修理材料の調査を行った。 ・十一面觀音菩薩立像について X 線 C T 撮影を行い内部構造の調査を行った。</p>	A	順調
1320	<p>(3) - 2 国立博物館の文化財保存修理所の整備・充実に努める。 (機構本部・京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館) 1) 文化財保存修理所に関する規程を整備する。</p>	<p>(3) - 2 国立博物館の文化財保存修理所の整備・充実に努める。 【機構本部・京都・奈良・九州国立博物館】 1) 23 年度より施行の本部規程第 81 号「独立行政法人国立文化財機構文化財保存修理所等の供用及び運営に関する規程」に基づき、文化財保存修理所 (京都国立博物館、奈良国立博物館) 及び文化財保存修復施設 (九州国立博物館) の供用及び運営を行った。また、文化財保存修理所等の整備・充実について引き続き検討した。</p>	A	順調
	<p>(3) - 3 収蔵品、寄託品の増加に伴う収蔵スペースの確保及び収蔵品の調査研究並びに修理に伴う調査研究のための基本設備の充実に向けた検討を行う。</p>	<p>(3) - 3 収蔵品、寄託品の増加に伴う収蔵スペースの確保及び収蔵品の調査研究並びに修理に伴う調査研究のための基本設備の充実に向けた検討を行う。</p>		

【東京・京都・奈良・九州国立博物館】

- (東京国立博物館)
- ・東洋館の収蔵庫改修工事の完了に伴い、表慶館 2 階仮収蔵庫等に収納していた東洋関係の文化財を、東洋館の収蔵庫に移動した。
 - ・資料館 3 階の収蔵庫を整備し、収蔵スペースを確保するための棚を新設した。
 - ・本館 1 階の旧絵画収蔵庫の棚を改修し、本館特 4 仮収蔵庫から漆工品、本館地下収蔵庫から民族資料を移動し、それらの保管環境を大幅に改善した。また特 4 仮収蔵庫から建築模型を本館地下収蔵庫に移動し、保管環境を改善。特 4 を多様な目的に使用できるようにした。
 - ・東洋館 5 階から 150 年史関係資料を資料館へ移動し、調査研究のためのスペースを確保した。
 - ・特 3 仮収蔵庫に棚を増設し、収蔵品の収納を効率化し、展示具収納スペースを確保した。
- (京都国立博物館)
- ・建設中の新平常展示館について、空調フィルターの性能を検討した。また環境モニタリングの計測情報を管理サーバーに蓄積し、一元管理するシステムの設計内容を精査した。また、新設するフィルム保管室の温湿度調整機能について 24 時間空調等の検討を行った。
 - ・デジタルカメラ等撮影機材の導入、及びサーバーの構築を行い、デジタル撮影への移行を進めている。
- (奈良国立博物館)
- ・火災時に収蔵品を毀損する恐れの少ないガス消火設備（ハロンガス）を収蔵庫・調査室に設置した。
 - ・既存の収蔵棚を改造し、より効率的な収納を図った。
 - ・収蔵庫・調査室内壁の断熱を強化し、温湿度環境の向上を図った。

A 順調

定量評価項目	24 年度	23 年度	目標値	評価
文化財の本格修理(件)				
東京国立博物館	95	106	40	S
京都国立博物館	13	10	10	A
奈良国立博物館	9	11	9	A
九州国立博物館	20	19	15	A
文化財修理のデータベース化(件)				
東京国立博物館	83	114	70	A
京都国立博物館	93	118	—	—
奈良国立博物館	70	54	—	—

2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

(1) 展示の充実

【中期目標】 文化財を活用して日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化を国内外へ発信するため、展示、教育活動、広報の充実を図ること。

(1) 展覧事業の充実

我が国の中核的拠点として、展覧事業については常に点検・評価を行うなど改善への取組みを進め、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化を国内外に発信し、これらについての理解促進に寄与するものとなるよう努めること。

①展覧事業の中核である平常展は、歴史・伝統文化についての理解に資するよう、体系的・通史的な展示に努めるとともに、各館の収蔵品を法人全体として有効活用した魅力ある展示を行うこと。また、より多くの方に我が国の歴史・文化財の理解を深めてもらうため、来館者の増加に努めること。さらに海外からの来訪者が必ず訪れる博物館を目指し、魅力ある展示と展示に関する説明を一層充実させること。

②特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行うこと。また、展示方法、解説などについて機構の人的資源を最大限に生かした魅力あるものを提供すること。また、展示内容・展覧環境を踏まえた適切な来館者数の確保に努めること。

③海外に向けても機構の各博物館の収蔵する日本の優れた文化財と優れた人材を活用して、我が国の歴史と伝統文化を紹介する機会の拡充に努めること。

【中期計画】

文化財を活用して日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化を国内外へ発信するため、展示、教育活動、広報の充実を図るとともに、政府の観光政策と連動した観光資源としても活用を図る。

(1) 展覧事業の充実

我が国の中核的拠点として、展覧事業については、常に点検・評価を行い国民のニーズ、学術的動向等を踏まえた質の高いものを実施するとともに、展覧会を開催するにあたっては、開催目的、期待する成果、学術的意義を明確にし、国際文化交流に配慮するなど魅力あるものとする。

また、見やすさ分かりやすさに配慮した展示及び解説や音声ガイド等の導入を行うことにより、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化についての理解を深めるものとなるよう工夫する。

①-1 平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に發揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を実施し、国内外からの来館者の増加を図る。

なお、京都国立博物館においては、耐震化を図るために平常展示館建て替え終了後、国際文化観光都市・京都において京都文化発信の核となる博物館を目指した平常展を平成 26 年度までに開催する。

①-2 展示に関する説明を一層充実させることに努め、作品キャプションについては全てに英語訳を付すとともに、展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語バナネル等を 80% 以上設置する。

②特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。

特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。

【主な計画上の評価指標】

○国民のニーズや学術的動向等を踏まえた質の高いものとすること。

○観覧者の理解が深まるよう展示・解説を工夫すること。

(平常展)

○平展覧事業の中核として、各館の特色を十分に發揮した体系的・通史的な展示とすること。

○作品のキャプションについては、すべてに英語訳を付すこと。

○海外からの来館者向けに、展示テーマごとに外国語の解説バナネル等を 80% 以上設置すること。

(特別展)

○我が国博物館の中核的拠点にふさわしい質の高い展示とすること。

○各館ごとに以下の回数程度の特別展を実施すること。

　　東京国立博物館 3~4 回

　　京都国立博物館 奈良国立博物館 九州国立博物館 2~3 回

○個々の展覧会ごとに、展示内容・観覧環境を踏まえた目標入館者数を定め、それを達成すること。

○展覧会来館者の満足度を把握し、改善を図ること。

○海外において展覧会を開催し、日本の歴史と伝統文化を紹介すること。

【23 年度評価における主な指摘事項】

○今後も、アンケート結果の蓄積・有効活用を図りつつ、来館者増とともに魅力ある展示の実現に向けたより一層の努力が望まれる。

<p>(東京国立博物館) 年3～4回程度 (京都国立博物館) 年2～3回程度 (奈良国立博物館) 年2～3回程度 (九州国立博物館) 年2～3回程度 ③海外からの要請等に応じて、海外において展覧会等を行うことにより、日本の優れた文化財をもとにした歴史と伝統文化を紹介する。</p>			
処理番号	年度計画	主な実績	自己評価
			年度 中期
2111-1	<p>(1) 展覧事業の充実</p> <p>東京、京都、奈良、九州4館それぞれの特色を活かし、国内はもとより、海外からも国立博物館を訪れたくなるような魅力ある平常展や特別展を実施する。</p> <p>①-1 平常展</p> <p>展覧事業の中核と位置づけ、各国立博物館の特色を十分發揮した特集陳列等を実施し、国内外からの来館者の増加を図る。</p> <p>(4館共通)</p> <p>平常展来館者数について、前中期計画期間の年度平均の確保を目指す。</p> <p>(東京国立博物館)</p> <p>ア 定期的な陳列替の実施（年4, 500件程度）</p> <p>イ 陳列総件数 約6, 500件（平成25年1月より東洋館開館）</p> <p>ウ 本館「日本美術の流れ」を始めとする日本美術関係の展示、平成館の日本考古展示の更なる充実を図る。</p> <p>エ 平成24年度の東洋館開館に向け準備を進める。</p> <p>オ 特集陳列</p> <p>平成24年度は140周年記念事業の一環として、過去に寄</p>	<p>【東京国立博物館】</p> <p>(4館共通)</p> <p>平成23年末に引き続いだ東京国立博物館140周年事業を24年度末まで継続し、25年1月には耐震改修を終えた東洋館を公開した。また、耐震改修のため黒田記念館を閉館した。</p> <p>(東京国立博物館)</p> <p>ア 定期的な陳列替を実施し、6,989件の展示替を行った。</p> <p>イ 陳列総件数 9,190件</p> <p>ウ 展示ケースの修理点検、低反射フィルムの貼替、清掃などで保存環境の向上を図った。本館2階の展示ケース壁面の補修や平成館企画展示室の解説掲示パネルの改良を行った。平成館考古展示室においては作品名題鑑の仕様を、より見やすいものに変更した。</p> <p>エ 25年1月2日に東洋館を開館した。展示ケース・照明を改良するとともに、「映像トランク」を設置して展示作品への理解を映像によって補助し、アジアの占い体験コーナーを設置するなど、親しみやすい東洋館を実現した。</p> <p>オ 47件の特集陳列を実施した。このうち20件は「東京国立博物館140周年特集陳列」として、館蔵の名品を紹介するとともに、館の歴史に関わる展示を行った。また</p>	A 順調
2112-1	<p>贈を受けた優品を展示する「秋の特別公開」を開催する他、館史に関連する特集を年間を通じて開催する。また、東洋館が改修工事のため12月まで休館となるため、東洋館展示の代替として、本館においても東洋美術・考古の特集展示を実施する。さらに定着した「博物館に初詣」関連の特集も行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋の特別公開「贈られた名品」（9月15日～9月30日） ・「大正元年 帝室技芸員からの寄贈品」（9月19日～12月9日） ・「宋時代の書（仮称）」（10月2日～11月25日）等 文化庁関係企画 ・「平成24年 新指定 重要文化財」（仮称）（4月23日～5月13日） <p>平成24年に新たに重要文化財に指定される文化財を展示する。</p> <p>(京都国立博物館)</p> <p>平常展示館建替工事に伴い、平常展は休止する。これに替えて、九州国立博物館にて「美のワンダーランド 十五人の絵師」を開催する。（企画協力、7月10日～9月2日）また、博物館・美術館への収蔵品の貸与を積極的に進め、ウェブサイトで情報を公開する。</p>	<p>「東洋の青磁」「尚意競艶」などにおいては東洋の列品を活用した。</p> <p>カ 「平成24年 新指定国宝・重要文化財」を実施した（24年4月28日～5月13日）。また、新指定の重要文化財となった彫刻の一部を、同時期の本館11室においても展示した。</p> <p>【京都国立博物館】</p> <p>(京都国立博物館)</p> <p>平常展示館建替工事にともない、平常展示を休止した。そのため次のように、館外での収蔵品の公開に努めるとともに、貸出作品の情報をウェブサイトで公開した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別展「美のワンダーランド 十五人の京絵師」（九州国立博物館、24年7月10日～9月2日）へ企画協力した。（詳細は処理番号2124-2を参照） ・特別展「国宝の名刀—京都国立博物館と小松コレクション」（ふくやま美術館、24年12月15日～25年1月20日）を開催した。（共催）（詳細は処理番号3412を参照。） ・国内外の博物館・美術館への収蔵品の貸与を積極的に進めた。 <p>【奈良国立博物館】</p> <p>(4館共通)</p> <p>平常展来館者数は、今年度の目標値となっていた前中期計画期間の年度平均を上回った。</p> <p>(奈良国立博物館)</p> <p>ア 名品展においては、24時間空調運転による展示室の快適な保存環境のもとで、多数の優れた作品を展示し、その美を伝えることができた。</p> <p>・西新館 絵画・書跡・工芸・考古部門の名品展</p> <p>昨年度実施した保存修理の内容とその結果だった文化財の姿を紹介する特集展示「新たに修理された文化財」（24年12月26日～25年1月20日 陳列件数11件）を行った。</p> <p>・なら仏像館 彫刻部門の名品展</p> <p>所蔵者である寺院において仏堂の改修、建替等を行う際、堂内に安置されている仏</p>	A 順調
2113-1-1	<p>(奈良国立博物館)</p> <p>ア 活発な収集と新しい資料の発掘により名品展（平常展）の充実を図る。</p> <p>・西新館 絵画・書跡・工芸・考古部門の名品展</p> <p>一昨年度に一新された展示ケースや照明設備は、現在のところ望みうる最上のものと考えられるので、この充実した設備を最大限活用し、より快適な鑑賞環境を提供する。</p> <p>・なら仏像館 彫刻部門の名品展</p> <p>昨年度に実施した展示室および展示ケース内の蛍光灯の</p>		A 順調

	<p>照度と色温度の調整によって、展示作品がより鑑賞しやすい環境が整えられたので、今後とも展示されている優れた仏像等彫刻の美をアピールしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青銅器館 中国青銅器の名品展 国内における屈指の青銅器コレクションの魅力をアピールしていく。 ・特集展示コーナー等を設け、観覧者の関心を喚起する。 	<p>像を当館で保管する機会を利用し、以下のようにこれを特別公開した。 特別公開「金剛寺 降三世明王坐像」(23年10月24日～25年3月31日) 特別公開「定朝様の丈六阿弥陀像」(24年6月26日～25年3月31日) ・青銅器館 中国青銅器の名品展 館が所蔵する中国・商(殷)～漢時代までの青銅器の逸品を展示した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西新館で特集展示「新たに修理された文化財」(24年12月26日～25年1月20日)を開催した。 イ 定期的な陳列替を実施し、465件の陳列替を行った。 ウ 陳列総件数 814件 エ 下記特別陳列を開催し、名品展の充実を図った。 	A	順調
2113-1-2	<p>イ 定期的な陳列替の実施 (年400件程度)</p> <p>ウ 陳列総件数 約700件</p> <p>エ 特別陳列により名品展の充実を図る。 独創的な研究テーマ及び地域に密着した研究テーマによる特別陳列の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・「古事記の歩んできた道—古事記撰録1300年—」(6月16日～7月16日) ・「おん祭と春日信仰の美術」(12月8日～平成25年1月20日) ・「お水取り」(平成25年2月9日～3月17日) </p>	<p>・特別陳列「古事記の歩んできた道—古事記撰録1300年—」(24年6月16日～7月16日) 陳列件数30件 ・特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」(24年12月8日～25年1月20日) 陳列件数50件 ・特別陳列「お水取り」(25年2月9日～3月17日) 陳列件数60件</p> <p>【九州国立博物館】 (4館共通) 平常展来館者数は、前中期計画期間の年度平均を確保できた。</p>	A	順調
2114-1	<p>(九州国立博物館)</p> <p>ア 定期的な陳列替の実施 (年1,100件程度)</p> <p>イ 陳列総件数 約1,700件</p> <p>ウ 文化交流展(平常展)のリニューアルに向けての検討会を実施する。</p> <p>エ トピック展示により、独創的なテーマ及び地域に密着したテーマを掘り下げる(日程はいずれも予定)。 <ul style="list-style-type: none"> ・「横河民輔コレクション 中国陶磁名品展」(関連9、10室 4月25日～9月2日) ・「クレスココレクション印籠展」(仮称)(関連9室 12月18日～平成25年3月10日) ・「江蘇省書画精華展」(関連10、11室 10月23日～12月2日)等 </p> <p>①-2 展示説明の充実 (4館共通)</p> <p>1) 作品キャプションについては全てに英語訳を付す。</p>	<p>(九州国立博物館)</p> <p>ア 定期的かつ計画的に陳列替を実施し、1,195件の陳列替を行った。</p> <p>イ 陳列総件数 2,416件</p> <p>ウ 展示に関する全研究員による検討会により、開館10周年リニューアルに対するある一定の方向性を見出すとともに、館員の共通認識を得ることができた。</p> <p>エ 独創的な着想に基づいたトピック展示・特別公開を12回開催し、新鮮な展示を提供することができた。</p> <p>①-2 展示説明の充実 【東京・京都・奈良・九州国立博物館】 1) 東京国立博物館、奈良国立博物館及び九州国立博物館の展示説明において作品キャプション全てに英語訳を付した。</p>	A	順調
2110-2			A	順調

	<p>2) 展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等を80%以上設置する。</p>	<p>2) 展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等を各館とも80%以上設置した。 (東京国立博物館)展示テーマ数151件のうち、146件(97%)について外国語パネルを設置した。また、68件(46%)については中国語、韓国語での解説も付している。 (奈良国立博物館)展示テーマ数59件のうち、59件(100%)について外国語パネルを設置した。 (九州国立博物館)展示テーマ数47件のうち、41件(87%)について外国語パネルを設置した。また、27件(57%)については中国語、韓国語での解説も付している。</p>		
2120	<p>② 特別展</p> <p>(共同企画)</p> <p>・「ボストン美術館 日本美術の至宝」 (平成23・24年度 東京国立博物館、24年度名古屋ボストン美術館、九州国立博物館・[25年度大阪市立美術館])</p> <p>・日中國交正常化40周年 ※特別展「中国 王朝の至宝」 ※東京国立博物館のみ「東京国立博物館140周年」を付す。 (平成24年度 東京国立博物館、[24・25年度神戸市立博物館、25年度名古屋市博物館、25年度九州国立博物館])</p> <p>(東京国立博物館)</p> <p>平成24年度は創立140周年を記念する展覧会とともに、日中國交正常化40周年を記念し、中国美術を紹介する展覧会を中心実施する。</p> <p>ア 東京国立博物館140周年 特別展「ボストン美術館 日本美術の至宝」(平成24年3月20日～6月10日) 10万点を超える日本美術コレクションから選りすぐりの名品を紹介。 (目標来館者数31万人)</p>	<p>② 特別展 【東京・京都・奈良・九州国立博物館】 (東京国立博物館)特別展を9回開催した。 内訳: 当館開催7回、海外展2回(うち1回特別協力) (京都国立博物館)特別展を5回開催した。 (奈良国立博物館)特別展を3回開催した。 (九州国立博物館)特別展を4回開催した。</p> <p>・「ボストン美術館 日本美術の至宝」 東京国立博物館での開催については、処理番号2121-1を参照。 九州国立博物館での開催については、処理番号2124-4を参照。 ・日中國交正常化40周年 特別展「中国 王朝の至宝」 東京国立博物館での開催については、処理番号2121-5を参照。 九州国立博物館での開催は、平成25年度の予定</p> <p>【東京国立博物館】</p> <p>ア 東京国立博物館 140周年 特別展「ボストン美術館 日本美術の至宝」</p>	A	順調
2121-1		<p>・会期 平成24年3月20日(火)～6月10日(日) (73日間)</p> <p>・会場 平成館特別展示室第1～4室</p> <p>・主催 東京国立博物館、ボストン美術館、NHK、NHKプロモーション、朝日新聞社</p> <p>・後援 外務省、アメリカ大使館</p> <p>・協賛 損保ジャパン、大日本印刷、トヨタ自動車、みずほ銀行、三井物産</p> <p>・協力 日本航空、日本貨物航空</p> <p>・作品件数 92件</p> <p>・来館者数 540,382人(目標310,000人・達成率174.3%)</p>	A	達成

2121-2	<p>イ 日中国交正常化40周年 東京国立博物館140周年 中国美術館精品展（仮称）（7月12日～8月26日予定） 中国国内最大級の規模である中国美術館（北京市）の約60,000点のコレクションから精選された近現代美術を紹介。 (目標来場者数4万人)</p> <p>・入場料金 一般 1,500円(1,300円／1,200円)、大学生 1,200円(1,000円／900円)、高校生 900円(700円／600円) 中学生以下無料 * ()内は前売り及び20名以上の団体料金 ・アンケート結果 満足度 74% 明治期にアメリカに渡り、これまで日本ではまとまつたかたちで展示することで、極めて多くの来館者を得ることができた。</p> <p>イ 日中国交正常化40周年 特別展「中国山水画の20世紀 中国美術館名品選」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会 期 平成24年7月31日(火)～8月26日(日) (25日間) ・会 場 本館特別5室 ・主 催 文化庁、中華人民共和国文化部、東京国立博物館、中国美術館 ・後 援 日本国際貿易促進協会、日本中国文化交流協会、日中友好議員連盟、一般財団法人日中経済協会、社団法人日中協会、公益財団法人日中友好会館 ・特別協力 毎日新聞社 ・作品件数 50件 ・来館者数 18,415人(目標40,000人・達成率46.0%) ・入場料金 一般 600円(500円)、大学生 400円(300円) * ()内は20名以上の団体料金 ・アンケート結果 満足度 92% 20世紀山水画の代表作を厳選して展示することで、これまであまり注目されてこなかった中国近現代絵画の動向と日本絵画との関わりをわかりやすく紹介することができ、目標来館者数を達成することはできなかったが、来館者においては極めて高い満足度をもたらすことができた。 <p>ウ 日中国交正常化40周年 東京国立博物館140周年 生誕100年記念 特別展「青山杉雨の眼と書」（7月18日～9月9日） 書壇に一時代を画した書家・青山杉雨の主要作品を一堂に公開。 (目標来館者数8万人)</p> <p>・入場料金 一般 1,400円(1,200円／1,100円)、大学生 1,100円(900円／800円)、高校生 800円(600円／500円) 中学生以下無料 * ()内は前売り／20名以上の団体料金 ・アンケート結果 満足度 64% 書家収集の中国美術を展示することで、それらがどのように実作に影響を与えたのかを示すことができ、あわせて中国書法を深く研究した青山作品の技量の高さを示すことができた。</p>	B	ほぼ順調
2121-3	<p>ウ 日中国交正常化40周年 東京国立博物館140周年 生誕100年記念 特別展「青山杉雨の眼と書」（7月18日～9月9日） 書壇に一時代を画した書家・青山杉雨の主要作品を一堂に公開。 (目標来館者数8万人)</p> <p>・入場料金 一般 1,400円(1,200円／1,100円)、大学生 1,100円(900円／800円)、高校生 800円(600円／500円) 中学生以下無料 * ()内は前売り／20名以上の団体料金 ・アンケート結果 満足度 64% 書家収集の中国美術を展示することで、それらがどのように実作に影響を与えたのかを示すことができ、あわせて中国書法を深く研究した青山作品の技量の高さを示すことができた。</p> <p>ウ 日中国交正常化40周年 東京国立博物館140周年 生誕100年記念 特別展「青山杉雨の眼と書」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会 期 平成24年7月18日(水)～9月9日(日) (48日間) ・会 場 平成館特別展示室第1～4室 ・主 催 東京国立博物館、読売新聞社 ・企画協力 謙慎書道会 ・作品件数 369件(うち参考資料11件) ・来館者数 51,327人(目標80,000人・達成率64.2%) ・入場料金 一般 1,400円(1,200円／1,100円)、大学生 1,100円(900円／800円)、高校生 800円(600円／500円) 中学生以下無料 * ()内は前売り／20名以上の団体料金 ・アンケート結果 満足度 64% <p>書家収集の中国美術を展示することで、それらがどのように実作に影響を与えたのかを示すことができ、あわせて中国書法を深く研究した青山作品の技量の高さを示すことができた。</p>	B	ほぼ順調
2121-4	<p>ニ 東京国立博物館140周年 古事記1300年・出雲大社大遷宮特別展「出雲—聖地の至宝」（10月10日～11月25日） 『古事記』編纂1300年の節目の年に、出雲大社の宝物をはじめとする貴重な文化財を紹介。 (目標来館者数5.5万人)</p> <p>・入場料金 一般 800円(700円)、大学生 600円(500円)、高校生 400円(300円) 中学生以下無料 * ()内は前売り及び20名以上の団体料金 ・アンケート結果 満足度 68% 出雲大社より出土した「宇豆柱」や島根で発掘された大量の青銅器群と社寺に伝わった名宝を紹介したこと、出雲独自の文化の姿を示すことができた。</p> <p>ニ 東京国立博物館140周年 古事記1300年・出雲大社大遷宮 特別展「出雲—聖地の至宝」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会 期 平成24年10月10日(水)～11月25日(日) (41日間) ・会 場 本館特別5・4室 ・主 催 東京国立博物館、島根県、島根県立古代出雲歴史博物館、NHK、NHKプロモーション、読売新聞社 ・後 援 文化庁 ・特別協力 出雲大社、島根県神社庁 ・作品件数 38件(うち、国宝3件、重要文化財16件、島根県指定文化財7件)その他、参考出品6件 ・来館者数 137,646人(目標55,000人・達成率250.2%) ・入場料金 一般 800円(700円)、大学生 600円(500円)、高校生 400円(300円) 中学生以下無料 * ()内は前売り／20名以上の団体料金 ・アンケート結果 満足度 68% <p>出雲大社より出土した「宇豆柱」や島根で発掘された大量の青銅器群と社寺に伝わった名宝を紹介したこと、出雲独自の文化の姿を示すことができた。</p>	S	達成
2121-5	<p>オ 日中国交正常化40周年 東京国立博物館140周年 特別展「中国王朝の至宝」（10月10日～12月24日） 歴代王朝の都などの文物を通して、新たな中国文明像をひもとく。 (目標来館者数2.5万人)</p> <p>・入場料金 一般 1,500円(1,300円／1,200円)、大学生 1,200円(1,000円／900円)、高校生 700円(500円／400円) 中学生以下無料 * ()内は前売り／20名以上の団体料金 ・アンケート結果 満足度 66% 中国歴代の王朝の都・中心地域に注目して、それぞれの代表的な文物を対比・対決させながら展示したこと、各時代各地域の文物の特質を明らかにすることことができた。</p> <p>オ 日中国交正常化40周年 東京国立博物館140周年 特別展「中国王朝の至宝」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会 期 平成24年10月10日(水)～12月24日(月・休) (66日間) ・会 場 平成館特別展示室第1～4室 ・主 催 東京国立博物館、中国文物交流中心、NHK、NHKプロモーション、毎日新聞社、朝日新聞社 ・後 援 外務省、中国国家文物局、中国大使館 ・協 力 全日本空輸、東京中国文化センター ・作品件数 168件(うち、一级文物99件)その他、参考資料3件 ・来館者数 141,507人(目標250,000人・達成率56.6%) ・入場料金 一般 1,500円(1,300円／1,200円)、大学生 1,200円(1,000円／900円)、高校生 700円(500円／400円) 中学生以下無料 * ()内は前売り／20名以上の団体料金 ・アンケート結果 満足度 66% <p>中国歴代の王朝の都・中心地域に注目して、それぞれの代表的な文物を対比・対決させながら展示したこと、各時代各地域の文物の特質を明らかにすることことができた。</p>	B	ほぼ順調
2121-6	<p>カ 東京国立博物館140周年 特別展「飛騨の円空—千光寺とその周辺の足跡」（平成25年1月12日～3月31日） 飛騨千光寺所蔵の円空仏を中心に、岐阜に伝わる代表的な円空仏を展示紹介。 (目標来館者数10万人)</p> <p>・入場料金 一般 1,500円(1,300円／1,200円)、大学生 1,200円(1,000円／900円)、高校生 700円(500円／400円) 中学生以下無料 * ()内は前売り／20名以上の団体料金 ・アンケート結果 満足度 74% 中国時代の王都の都・中心地域に注目して、それぞれの代表的な文物を対比・対決させながら展示したこと、各時代各地域の文物の特質を明らかにすることことができた。</p> <p>カ 東京国立博物館140周年 特別展「飛騨の円空—千光寺とその周辺の足跡」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展覧会名 東京国立博物館140周年 特別展「飛騨の円空—千光寺とその周辺の足跡」 ・会 期 平成25年1月12日(土)～4月7日(日) (74日間) ・会 場 本館特別5室 ・主 催 東京国立博物館、千光寺、読売新聞社、NHK、NHKプロモーション ・特別協力 高山市、高山市教育委員会 	A	順調

2121-7	<p>キ 日中国交正常化40周年・東京国立博物館140周年特別展「書聖 王羲之」(平成25年1月22日～3月3日) 書聖と崇められる王羲之の書の実像に迫る。 (目標来館者数18.5万人)</p> <p>○目標来館者数の合計102万人(海外展、他館での開催展を除く。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 後援 岐阜県 作品件数 46件 来館者数 190,122人(目標100,000人・達成率190.1%) (うち24年度169,578人、25年度20,544人) 入場料金 一般900円(800円)、大学生700円(600円)、高校生400円(300円) 中学生以下無料 *()内は前売り・20名以上の団体料金 アンケート結果 満足度86% 飛騨・千光寺のほぼすべての円空仏61体を一挙に公開するとともに、高山市内の14の寺社が所蔵するあわせて100体を一堂に紹介したこと、多彩な円空仏の造形の特質を示すことができた。 	B ほぼ順調
2122-1	<p>ア 特別展覧会「王朝文化の華 一陽明文庫名宝展」(4月17日～5月27日) (目標来館者数3万人)</p> <p>五撰家の一つである近衛家に伝えられた典籍・古文書などを収めている陽明文庫の名品を一堂に展示する。</p> <p>(京都国立博物館)</p>	<p>【京都国立博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> 会期 平成25年1月22日(火)～3月3日(日) (36日間) 会場 平成館特別展示室第1～4室 主催 東京国立博物館、毎日新聞社、NHK、NHKプロモーション 特別協力 朝日新聞社 後援 外務省 特別協賛 大和ハウス工業 協賛 あいおいニッセイ同和損保、トヨタ自動車、日本写真印刷、ゆうちょ銀行 協力 内田洋行、全日本空輸、東京中国文化センター、二松学舎大学、毎日書道会 作品件数 163件(うち、国宝7件、重要文化財9件、重要美術品1件) 来館者数 152,523人(目標185,000人・達成率82.4%) 入場料金 一般1,500円(1,300円／1,200円)、大学生1,200円(1,000円／900円)、高校生900円(700円／600円) 中学生以下無料 *()内は前売り／20名以上の団体料金 アンケート結果 満足度68% 本展によって、新発見資料等とともに、国内外に所蔵される王羲之の名品を通して、王羲之が歴史的に果たした役割を再検証することができた。 	A 順調
2122-2	<p>イ 特別展覧会「古事記1300年 出雲大社大遷宮 大出雲展」(7月28日～9月9日) (目標来館者数5万人)</p> <p>古事記編纂1300年、出雲の古社、関わりの深い古寺の宝物と、出雲の重要な遺跡から出土した品々を一堂に紹介し、出雲神話と出雲大社の成り立ち、古代・中世の出雲人がはぐくんだ神と仏への祈りのかたちを展望する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 会期 平成24年4月17日～5月27日 (37日間) 会場 京都国立博物館特別展示館(旧本館)全室 主催 京都国立博物館、陽明文庫、NHK京都放送局、NHKプラネット近畿、読売新聞社 作品件数 140件(うち国宝9件、重要文化財6件) 来館者数 101,006人(目標30,000人) 入場料金 一般1,300円、大高生900円、中小生400円 	S 順調

2122-2	<p>イ 特別展覧会「古事記1300年 出雲大社大遷宮 大出雲展」(7月28日～9月9日) (目標来館者数5万人)</p> <p>古事記編纂1300年、出雲の古社、関わりの深い古寺の宝物と、出雲の重要な遺跡から出土した品々を一堂に紹介し、出雲神話と出雲大社の成り立ち、古代・中世の出雲人がはぐくんだ神と仏への祈りのかたちを展望する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 会期 平成24年7月28日～9月9日 (38日間) 会場 特別展示館(旧本館)全室 主催 京都国立博物館、島根県立古代出雲歴史博物館、NHK京都放送局、NHKプラネット近畿、読売新聞社 作品件数 202件(うち国宝17件、重要文化財41件) 来館者数 79,218人(目標50,000人) 入場料金 一般1,300円、大高生900円、中小生400円 アンケート結果 満足度85% 平成24年は『古事記』が編纂されてから1300年という記念すべき年であった。本書は上・中・下の三巻からなるが、上巻は「神話」の時代について書かれ、その三分の一が出雲地方を舞台としている。本展覧会はまさに『古事記』1300年という記念の年にふさわしい、神話の舞台「出雲」にスポットをあてた展覧会であった。 	S 順調
2122-3	<p>ウ 特別展覧会「宸翰 天皇の書 一御手(みて)が織りなす至高の美」(10月13日～11月25日)(目標来館者数2万人)</p> <p>宸翰の発生から現在にいたるまでを通覧することを柱に、「書」の王者たる宸翰の魅力を展望する。</p>	<p>【特別展覧会「宸翰 天皇の書 一御手(みて)が織りなす至高の美」】</p> <ul style="list-style-type: none"> 会期 平成24年10月13日(土)～11月25日(日) (38日間) 会場 京都国立博物館特別展示館(旧本館)全室 主催 京都国立博物館 共催 每日新聞社、NHK京都放送局 協力 日本書堂 作品件数 144件(うち国宝17件、重要文化財66件、重要美術品11件) 来館者数 24,699人(目標20,000人) 入場料金 一般1,200円、大高生800円、中小生400円 アンケート結果 満足度88% 奈良時代の聖武天皇から、昭和時代の昭和天皇にいたるまで、「宸翰」と称される歴代天皇の書及び関連作品144件を紹介した初の試み。通史的に展示を行うことにより、各時代を彩った天皇の個性豊かな文字、時代とともに変遷する書風、日本美術における書の独自性を明らかにした。来館者アンケートからは、こうした「時代に流されない」企画を望む声が多くみられ、さまざまな理由から自主企画展の開催が困難となりつつある昨今、博物館の主導する調査研究がいかに重要であるかを内外に示したといえる。 	A 順調
2122-4	<p>エ 特別展観「国宝 十二天像と密教法会の世界」(平成25年1月8日～2月11日)</p>	<p>【特別展観「国宝 十二天像と密教法会の世界】</p> <ul style="list-style-type: none"> 会期 平成25年1月8日(火)～2月11日(月・祝) (31日間) 	A 順調

2122-5	<p>京都国立博物館所蔵国宝「十二天像」「山水屏風」などを中心にして、平安時代以来、宮中で正月に行われた国家の安寧を祈る後七日御修法などの密教法会の世界を紹介する。</p> <p>(目標来館者数 2万人)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・会 場 京都国立博物館特別展示館（旧本館）1～8室 ・主 催 京都国立博物館 ・作品件数 71 件（うち国宝 14 件、重要文化財 16 件、重要美術品 3 件） ・来館者数 25,216 人（目標 20,000 人） ・入場料金 一般 1,000 円、大高生 700 円、中小生無料 ・アンケート結果 満足度 88% ・新発見初公開作品 3 件、寺外初公開 17 件（仁和寺御経蔵聖教のうち守覺法親王仁和寺御流関係聖教） ・新知見 1 件（当館及び出光美術館所蔵山水屏風残闕各二幅が当初一具であったことを示し、初同時公開を行った） <p>朝日新聞社の共催により、朝日放送の後援を得て過去の同社のアーカイブを再編集使用することで安価に会場映像を作成することができ、好評を得た。特別展覧会とは異なる特別展観という形式ではあるが、特別展覧会に遜色ない会場設備、展示内容を充実することができた。</p> <p>オ 特集陳列「成立 800 年記念 方丈記」（平成25年1月8日～2月11日）</p> <p>鴨長明が建暦二年（1212）三月に執筆し、鎌倉時代を代表する隨筆として知られる『方丈記』の成立800年を記念し、大福光寺本『方丈記』（重文）を中心に関連する資料を展示する。</p> <p>○目標来館者数 の合計 12万人</p>	A 順調
2123-1	<p>(奈良国立博物館)</p> <p>ア 御遠忌800年記念特別展「解脱上人貞慶 一鎌倉仏教の本流一」（4月7日～5月27日）</p> <p>解脱上人貞慶（1155-1213）は鎌倉時代の高僧で、寺院の復興や仏教の再生に尽力した。800年遠忌にあたる今年、貞慶の生涯とその魅力をゆかりの品々で大観する。</p> <p>(目標来館者数 3万人)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・会 期 平成 25 年 1 月 8 日（火）～2 月 11 日（月・祝）（31 日間） ・会 場 京都国立博物館特別展示館（旧本館）9～10 室 ・主 催 京都国立博物館 ・作品件数 18 件（うち国宝 2 件、重要文化財 11 件、重要美術品 2 件） ・来館者数 25,216 人（特別展覧「国宝 十二天像と密教法会の世界」と一体でカウント） ・入場料金 一般 1,000 円、大高生 700 円、中小生無料 ・アンケート結果 満足度 88% <p>大福光寺本の全文が鑑賞できるように、巻首から巻末からまでの全体を展示した。全体は18件であるが、鴨長明の出自や撰述書など鴨長明自身に関わる資料5件、信仰の様子に関連した資料7件、漢字片仮名交じり文という表記方法に関連した資料6件で構成した。18件のうち、国宝2件、重文11件、重要美術品2件という豪華な内容となつた。</p> <p>【奈良国立博物館】</p> <p>ア 御遠忌 800 年記念特別展「解脱上人貞慶 一鎌倉仏教の本流一」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会 期 平成 24 年 4 月 7 日（土）～5 月 27 日（日）（45 日間） ・会 場 奈良国立博物館 東新館・西新館（第 1 室） ・主 催 奈良国立博物館、神奈川県立金沢文庫、読売新聞社 ・後 援 文化庁、奈良県、奈良市、木津川市、NHK 奈良放送局 ・協 賛 きんでん、大和ハウス工業、非破壊検査 ・協 力 日本香堂、財団法人仏教美術協会 ・作品件数 129 件（うち国宝 3 件、重要文化財 58 件） ・来館者数 24,317 人（目標 30,000 人） ・観覧料金 一般 1,200 円、大高生 800 円、小中生 500 円 	B 順調
2123-2	<p>イ 「頼朝と重源 一東大寺再興を支えた鎌倉と奈良の絆一」（7月21日～9月17日）</p> <p>大勧進重源の指揮のもと、源頼朝をはじめ多くの人々の支援により成し遂げられた東大寺の鎌倉復興。中世の幕開けを告げたこの大事業の軌跡を、東大寺や鶴岡八幡宮に伝わった文化財によってたどる。</p> <p>(目標来館者数 5万人)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果 満足度 81% <p>鎌倉時代の仏教については、浄土・禪・法華などの新仏教を中心に語られる傾向があるが、本特別展を通じて、解脱上人貞慶の存在の重要性とその魅力を多くの方々に知ってもらうことができた。</p> <p>イ 「頼朝と重源 一東大寺再興を支えた鎌倉と奈良の絆一」（7月21日～9月17日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会 期 平成 24 年 7 月 21 日（土）～9 月 17 日（月・祝）（52 日間） ・会 場 奈良国立博物館 東新館・西新館 ・主 催 奈良国立博物館、東大寺、鶴岡八幡宮、朝日新聞社 ・共 催 NHK 奈良放送局 ・後 援 文化庁、神奈川県、鎌倉市、奈良県、奈良市 ・作品件数 112 件（うち国宝 16 件、重要文化財 54 件） ・来館者数 41,985 人（目標 50,000 人） ・観覧料金 一般 1,200 円、大高生 800 円、小中生 500 円 ・アンケート結果 満足度 88% <p>東大寺再興を成し遂げた先人たちの偉業を再認識し、繰り返し再興が遂げられてきたわが国の歴史について考え、思いを致す貴重な機会となつた。</p>	B 順調
2123-3	<p>ウ 「第 6 4 回正倉院展」（予定）</p> <p>正倉院宝庫に伝わる宝物約 70 件を展示。（目標来館者数 18万人）</p> <p>○目標来館者数 の合計 26万人</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果 満足度 77% <p>ガラス作品及び関連資料が多く出陳されており、奈良時代におけるガラスの生産技術、需要、用途などが具体的に分かれる展示となつた。あわせて聖武天皇ご遺愛の遊戯具がまとめて展示され、奈良朝の宮中における遊びや暮らしの様子がうかがえた点に特徴があり、例年以上にテーマ性を持っていた。</p> <p>【九州国立博物館】</p> <p>ア 「平山郁夫 シルクロードの軌跡」（4月3日～5月27日）</p> <p>日本画家平山郁夫の画業の足跡と文化財保護活動を紹介。</p> <p>(目標来館者数 5万人)</p>	A 順調
2124-1		<p>ア 「平山郁夫 シルクロードの軌跡」（4月3日～5月27日）</p> <p>日本画家平山郁夫の画業の足跡と文化財保護活動を紹介。</p> <p>(目標来館者数 5万人)</p>	S 順調

2124-2	<p>イ 「美のワンダーランド 十五人の京絵師」(仮称) (7月10日～9月2日) 江戸時代の絵画史の流れを京都の地に焦点を絞って紹介。 (目標来館者数 6万人)</p> <p>・会期 平成24年7月10日(火)～9月2日(日) (49日間)</p> <p>・会場 九州国立博物館 特別展示室</p> <p>・主催 九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、TNCテレビ西日本</p> <p>・特別協力 京都国立博物館</p> <p>・作品件数 49件(国宝1件、重要文化財11件、重要美術品4件)</p> <p>・来館者数 75,415人(目標60,000人)</p> <p>・入場料金 一般1,300円、高大生1,000円、小中生600円</p> <p>・アンケート結果 満足度84%</p> <p>日本画家で文化勲章受章者の平山郁夫(1930～2009年)の生涯を、62年に及んだその画業、研究材料として美知子夫人とともに蒐集した優れた美術品コレクション、そして消滅の危機に瀕している各地の文化遺産や美術品を国際協力によって保護しようとした文化財保護活動の3つの侧面から紹介する展覧会である。</p>	A	順調
2124-3	<p>ウ 「ベルリン国立美術館展」(10月9日～12月2日) ドイツ、ベルリンの美術館群が所蔵する絵画、彫刻の名品を通してヨーロッパ美術の400年を学ぶ。 (目標来館者数 10万人)</p> <p>・会期 平成24年10月9日(火)～12月2日(日) (51日間)</p> <p>・会場 九州国立博物館 特別展示室</p> <p>・主催 九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、RKB毎日放送、NHC長崎放送、RKK熊本放送、OBS大分放送、MRト宮崎放送、MBC南日本放送、tysテレビ山口、TBS</p> <p>・作品件数 108件</p> <p>・来館者数 224,324人(目標100,000人)</p> <p>・入場料金 一般1,500円、高大生1,000円、小中生600円</p> <p>・アンケート結果 満足度 83%</p> <p>独創性あふれる個性的な表現者たちが競い合うように作品を制作した、18世紀の京都を代表する15名の絵師に光をあてた。当時の魅力的な絵画世界の広がりを総合的に紹介するため、京都国立博物館の企画協力を得て、同館の所蔵品・寄託品を中心に49件(国宝1件、重文11件)を集めて展示了。とくに近年、関心の高い伊藤若冲の晩年の代表作である仙人掌群鶴図模(大阪・西福寺)などの優品を九州で初めて展示了。</p>	S	順調
2124-4	<p>エ 「ボストン美術館 日本美術の至宝」(平成25年1月1日～3月17日)</p> <p>・会期 平成25年1月1日(火・祝)～3月17日(日) (66日間)</p> <p>アメリカ、ボストン美術館の所蔵品を通して、海を渡ったすぐれた日本美術について紹介する。(目標来館者数 6万人)</p> <p>○目標来館者数 の合計 27万人</p> <p>・会場 九州国立博物館 特別展示室</p> <p>・主催 九州国立博物館・福岡県、ボストン美術館、NHK福岡放送局、NHKプラネット九州、西日本新聞社</p> <p>・作品件数 46件</p> <p>・来館者数 236,725人(目標60,000人)</p> <p>・入場料金 一般1,500円、高大生1,000円、小中生600円</p> <p>・アンケート結果 満足度 89%</p> <p>質量ともに充実した、ヨーロッパ美術の400年を紹介する九州初の本格的な西洋美術展で、来館者の満足度は極めて高かった。アルプス山脈の南北の美術を比較することができた。</p> <p>エ 「ボストン美術館 日本美術の至宝」</p>	S	順調

2131-1	<p>③ 海外展 (東京国立博物館) 1) 海外展「仏教美術と宮廷の美」(平成24年2月17日～4月8日) 会場: ヒューストン美術館(アメリカ) 東京国立博物館所蔵の日本美術の優品を精選し展示。</p> <p>・会場 東京国立博物館 特別展示室</p> <p>・主催 東京国立博物館・ヒューストン美術館、NHK福岡放送局、NHKプラネット九州、西日本新聞社</p> <p>・作品件数 26件(うち国宝1件、重要文化財2件、重要美術品1件)</p> <p>・来館者数 18,629人</p> <p>ヒューストン美術館において、日本美術の常設展示室開室を機に、東京国立博物館所蔵品の宮廷の美術及び仏教美術の優品を紹介したことで、古来より受け継がれる日本の美意識を伝えることができた。</p> <p>2) 海外展「天下一の翡翠色を持つ青磁」(10月16日～12月16日) 会場: 国立中央博物館(韓国)(特別協力・東京国立博物館) 高麗青磁の美しさを紹介し、高麗時代の工芸文化における芸術的価値と歴史的意義に注目。</p> <p>・会場 韓国国立中央博物館企画展示室</p> <p>・主催 韓国国立中央博物館</p> <p>・特別協力 東京国立博物館</p> <p>・作品件数 299件(うち、国内作品20件、東京国立博物館所蔵品3件)</p> <p>・来館者数 43,800人</p> <p>韓国に所在する作品とともに日本に伝わる作品を展示して、高麗青磁の工芸の美と歴史的な価値を紹介したことで、高麗時代の陶磁文化をより立体的に理解してもらうとともに、高麗青磁の鑑賞機会の拡大を図ることができた。</p>	A	順調
2131-2		A	順調

定量評価	24年度	23年度	目標値	評定
【平常展】平常展来館者数(人)				
東京国立博物館(23年度より黒田記念館を含む)	416,430	324,597	362,470	A
京都国立博物館	—	—	—	—
奈良国立博物館	145,914	130,839	118,032	A
九州国立博物館	460,525	358,366	380,690	A
【平常展】陳列替件数(件)				
東京国立博物館	6,989	4,914	4,500	S
京都国立博物館	—	—	—	—
奈良国立博物館	465	481	400度	A
九州国立博物館	1,195	1,373	1,100	A
【平常展】陳列総件数(件)				
東京国立博物館	9,190	7,394	6,500	A
京都国立博物館	—	—	—	—
奈良国立博物館	814	1,092	700	A
九州国立博物館	2,416	2,417	1,700	A
【平常展】外国語パネルの設置(%)				
東京国立博物館	97%	96%	80%	A
京都国立博物館	—	—	—	—
奈良国立博物館	100%	89%	80%	A
九州国立博物館	87%	94%	80%	A
【特別展】開催回数(回)				
東京国立博物館	9	7	3~4	S
京都国立博物館	5	6	2~3	S
奈良国立博物館	3	3	2~3	A
九州国立博物館	4	5	2~3	A
【特別展】入館者数(人)				
東京国立博物館	1,231,922	—	1,020,000	A
①「ボストン美術館 日本美術の至宝」	540,382	—	310,000	S
②「中国山水画の20世紀 中国美術館名品選」	18,415	—	40,000	C
③「青山杉雨の眼と書」	51,327	—	80,000	C
④「出雲一聖地の至宝」	137,646	—	55,000	S
⑤「中国 王朝の至宝」	141,507	—	250,000	C
⑥「飛驒の円空—千光寺とその周辺の足跡—」	190,122	—	100,000	S
⑦「書聖 王羲之」	152,523	—	185,000	B

京都国立博物館	230,139	—	120,000	S
①特別展覧会「王朝文化の華 一陽明文庫名宝展ー」	101,006	—	30,000	S
②特別展覧会「古事記1300年 出雲大社大遷宮 大出雲展」	79,218	—	50,000	S
③特別展覧会「宸翰 天皇の書 一御手(みで)が織りなす至高の美ー」	24,699	—	20,000	A
④特別展観「国宝 十二天像と密教法会の世界」	—	—	—	—
⑤特集陳列「成立800年記念 方丈記」	25,216	—	20,000	A
奈良国立博物館	304,321	—	260,000	A
①「解脱上人貞慶 一鎌倉仏教の本流ー」	24,317	—	30,000	B
②「賴朝と重源 一東大寺再興を支えた鎌倉と奈良の絆ー」	41,985	—	50,000	B
③「第64回正倉院展」	238,019	239,581	180,000	A
九州国立博物館	646,511	—	270,000	S
①「平山郁夫 シルクロードの軌跡」	110,047	—	50,000	S
②「美のワンダーランド 十五人の京絵師」	75,415	—	60,000	A
③「ベルリン国立美術館展」	224,324	—	100,000	S
④「ボストン美術館 日本美術の至宝」	236,725	—	60,000	S
【海外展】来館者数(人)				
東京国立博物館				
①海外展「仏教美術と宮廷の美」(アメリカ・ヒューストン美術館)	(18,629)	—	—	—
②海外展「天下一の翡翠色を持つ青磁」(韓国・国立中央博物館)	(43,800)	—	—	—

(2) 教育活動の充実

【中期目標】

日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解促進に寄与するよう、子どもから成人まで、対象に応じた多彩な学習機会の提供を実施し、ボランティアを育成し、教育活動の充実に努めるとともに、次代の博物館事業を担う人材育成に寄与すること。

【中期計画】

(2) 教育活動の充実

日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解促進に寄与するよう、機構の人的資源・物的資源・情報資源を活用した教育活動を実施する。

- ① 学校・社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。
- ② 教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化等により博物館支援者の増加を図る。
- ③ 大学との連携事業、各種セミナー、インターンシップ等の実施を通じて人材育成に寄与する。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
2211-1	<p>(2) 教育活動の充実</p> <p>日本の歴史・伝統文化及びアジア諸地域の歴史・文化の理解促進を図り、国立博物館としてふさわしい教育普及事業を実施する。</p> <p>① 学習機会の提供 (4館共通)</p> <p>1) キャンバスマンバーズ（学校法人会員制度）による大学等との連携を継続して実施する。</p> <p>2) 東京国立博物館</p> <p>1) 日本の歴史・文化及びアジア諸地域の歴史・文化の理解促進を図るために教育普及の先導的事業を実施する。本館20室を教育普及スペース「みどりのライオン」と位置づけ、適宜、小講堂等も活用し、内容に応じた環境を設定しながら事業を展開する。</p>	<p>(2) 教育活動の充実</p> <p>① 学習機会の提供</p> <p>【東京国立博物館】 (4館共通)</p> <p>1) 国立博物館と大学等との連携を図り、歴史・伝統文化に対する理解促進に寄与し、博物館が所蔵する文化財を核とした学ぶ場を提供することができた。加入校数38校、団体利用を含み17,905名の学生が本制度を利用し入館した。(処理番号2211-2)</p> <p>(東京国立博物館)</p> <p>1) 総合文化展鑑賞の手がかりとして、展示や作品に関連した企画実施を通じ、伝統文化の理解促進に寄与し、伝統文化への興味関心をより高めることができた。教育普及スペース「みどりのライオン」は、本館20室にて24年12月末まで計画通り実施し、その後工事による閉室に伴い規模を縮小して実施した。「みどりのライオン」の会場を本館20室から本館19室及び本館地下へ移動するための工事であり、再開時（25年度内の予定）には、展示室に</p>	A	順調

2211-2	<p>○ファミリー向け教育普及的展示企画「親と子のギャラリー」の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特集陳列「親と子のギャラリー 日本美術のつくり方 III」(7月24日～9月2日) <p>○体験型プログラムの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特集陳列「親と子のギャラリー 日本美術のつくり方 III」など、総合文化展（平常展）に関連した一般向け及びファミリー向けのギャラリートークやアクティビティを実施する。 ・本館20室「みどりのライオン」において、ハンズオン体験コーナー「日本のもようでデザインしよう」を継続して実施する。 ・正月企画「博物館に初もうで」に関連して、ワークシートを用いたアクティビティを実施する。 <p>○教育的展示及びイベント「博物館でお花見を」(平成24年3月20日～4月15日)の実施</p>	<p>近い本館地下にレクチャースペース、ワークショップスペース、かねてより要望の多い学校用ロッカー（予約制）を確保し、学校単位での利用等がより一層期待できるものである。</p> <p>○特集陳列「親と子のギャラリー 日本美術のつくり方 III」を実施し、本館の展示作品を「つくり方」という切り口で分かりやすく伝えることができた（24年7月24日～9月2日）</p> <p>○体験型プログラムの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合文化展関連の一般向け及びファミリー向けギャラリートークを4回実施した。（24年8月2日、10日、21日、31日） ・「みどりのライオン」は、24年4月1日より25年1月14日まで本館20室にて実施し、その後バネル展示のみを本館特別4室にて継続した。ハンズオン体験コーナー「日本のもようでデザインしよう」は24年12月23日まで実施し、その後は休止した。 ・正月企画「博物館に初もうで」関連のワークシートを用いたアクティビティを実施した。（25年1月2日、3日） <p>○「博物館でお花見を」(24年3月20日～4月15日)では会期中「花見で一句」には293の投句があり、6名が入選。また、鑑賞ガイド、スタンプラリー、ボランティアによるガイドツアーなどを関連事業として行った。</p> <p>○特別展の鑑賞手引きとしてジュニアガイドの制作、配布を行った。</p> <p>2)学校との連携事業を計画通り実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールプログラムを実施し、児童生徒に対し目的、学年、人数などに応じたプログラムを提供することで、充実した鑑賞体験の提供に寄与した。また、伝統文化への興味関心を高め、理解を促した。 ・職場体験として、26校86人を受け入れた。 ・全国高等学校美術・工芸教育研究会所属教員のための研修（共催：東京藝術大学）は24年7月25日～27日の3日間で開催し、39名が参加した。展示のみならず博物館への理解を深め、利用について検討するきっかけとなる研修を提供した。 ・教員鑑賞会・ガイダンスは5回実施し、計874人が参加した。 	A	順調
	<p>2)学校との連携事業を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールプログラム（鑑賞支援・体験型プログラム等）を継続して実施する（小・中・高校生対象）。 ・職場体験の受け入れを継続して行う（中・高校生対象）。 ・全国高等学校美術・工芸教育研究会所属教員のための研修を継続して実施する。 			
	<p>3)教員鑑賞会・ガイダンスを継続して実施する。</p> <p>3)文化財について分かりやすく理解するための列品解説・月例講演会・記念講演会・連続講座・教育普及イベント等を継続して実施する。 (講演会等の目標) 参加者数 計7,830人（実施回数77回程度）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演会 参加者数3,500人（実施回数20回程度） ・列品解説等 参加者数4,000人（実施回数55回程度） ・連続講座 参加者数 250人（実施回数 1回程度） ・公開講座 参加者数 80人（実施回数 1回程度） 			

2212-1		【京都国立博物館】 (4館共通) 1)キャンバスメンバーズを継続し、大学と連携(30校)した。 (京都国立博物館) 1)展示・収蔵品に関連する講演会「土曜講座」(16回・2,682人)及び記念講演会(1回・215人)を開催した。 2)一般向け教育普及事業として「夏期講座(文学と美術III)」を開催した。(24年8月1日～8月3日)(1回3日・213人) 3)京都市内4美術館・博物館連携の「京都ミュージアムズ・フォー連携講座」を土曜講座と合同で開催した(1回・119人) ○「社会科教員のための向上講座」を実施した。(24年10月24日・40人) 4)小中学生向け展示解説「少年少女博物館くらぶ」を実施し、ワークシートを館内で常時配布した。(2回・85人)(処理番号2212-1) 5)展示品解説シートとして博物館ディクショナリーを作成し、館内で配布、メールマガジンでの配信を行った。(1回) ・京都市内の小中学校へ高精細デジタル複製による美術品を題材とする訪問授業を行った。(8回・参加児童613人) ・展覧会内容の理解を深めるための一般向け鑑賞ガイドを作成し、館内で配布した。(2回) ・「留学生の日」を実施した。(24年11月4日)(処理番号2212-1)	A	順調
2212-2	(京都国立博物館)	1)展示・収蔵品に関連する講演会「土曜講座」を開催する。 2)一般向け教育普及事業として「夏期講座」を開催する。 3)京都市内4美術館・博物館連携の「京都ミュージアムズ・フォー連携講座」を行う。 4)小中学生向けに展示解説を行う「少年少女博物館くらぶ」を実施する。 5)展示品解説シートとしての博物館ディクショナリーを作成し、館内で配布する。併せてメールマガジンでの配信を行う。 (講演会等の目標) 参加者数 計2,760人 (実施回数17回程度) ・土曜講座 参加者数2,000人 (実施回数15回程度) ・夏期講座 参加者数 570人 (実施回数1回(3日間)程度) ・「京都ミュージアムズ・フォー連携講座 参加者数 190人 (実施回数1回程度)	A	順調
2213-1		【奈良国立博物館】 (4館共通) 1)キャンバスメンバーズへの入会及び更新を積極的に進めてきた結果、本年度までで入会校数は27校、大学との連携を継続した。 (奈良国立博物館) 1)小中学校との連携 ・奈良県内の小中学校22校に対してメールマガジンの配信を行った。 『奈良国立博物館だより』は、奈良市内の全小中学校への郵送配布を行った。 ・世界遺産学習事業は、奈良市内小学校5年生35校、合計2,428名に対して実施した。 ・中学生の職場体験を3校6人受け入れた。 2)講座等の開催 ・仏教美術等に関するサンデートークを定期的に実施する。	A	順調
2213-2	(奈良国立博物館)	1)小中学校との連携 ・奈良県内の小中学校にメールマガジンを配信する。 ・奈良市内の公立小中学校に博物館だよりを送付する。 ・奈良市内の小学校5年生を中心に、幼稚園児から中学3年生までを対象に奈良市教育委員会と連携して世界遺産学習を実施する。 ・中学生の職場体験学習を受け入れる。 2)講座等の開催 ・仏教美術等に関するサンデートークを定期的に実施する。	A	順調

2214-1	(九州国立博物館)	・特別展等に際してシンポジウム、フォーラム及び公開講座等を開催する。 ・一般向け教育普及事業として夏季講座を開催する。 ・特別陳列に因み、伝統的行事を体験する催しを実施する。 ・文化財保存修理所の一般公開を行い、文化財保存の意義についての啓蒙に努める。 (講演会等の目標) 参加者数 計2,600人 (実施回数25回程度) ・特別展等講座 参加者数1,500人 (実施回数12回程度) ・夏季講座 参加者数 500人 (実施回数1回程度) ・サンデートーク 参加者数 600人 (実施回数12回程度) 3)奈良市教育委員会と連携して教員の研修を受け入れる。 4)地下回廊のタッチパネル式学習端末機で名品のハイビジョン映像等を公開する。 5)地下回廊で仏像模型及びパネルを用いて、文化財に関する情報を継続的に公開する。		
2214-2		2)学校教育との連携事業を実施する。 ・職場体験(中学生)の受け入れを実施 ・ジュニア学芸員(高校生)事業の実施 ・博物館活用の促進を図るため、教員研修の場の設置		

	<ul style="list-style-type: none"> ・学校貸出キット「きゅうぱっく」の貸し出しの実施 		
2214-3	<p>3) シンポジウムを開催する。</p> <p>4) 特別展記念講演会を開催する。</p> <p>5) 文化交流展、特別展に関連した教育普及事業を実施する。</p> <p>6) ギャラリートークを随時実施する。</p> <p>7) 文化施設等へ講師を派遣する。</p> <p>8) 特別展の内容に親しみをもたせ、より良く理解するためのワークショップを開催するとともに、文化交流展示の内容とも連携した事業展開を行う。</p> <p>9) 放送大学の面接授業を実施する。 (講演会等の目標) 参加者数 計3,100人(実施回数54回程度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別展記念講演会 参加者数 600人(実施回数 4回程度) ・講演及びシンポジウム 参加者数1,300人(実施回数10回程度) ・ミュージアムトーク 参加者数1,200人(実施回数40回程度) 	<p>し、3日間の体験研修を実施した。また、高等学校長期社会体験派遣研修員に係わる高等学校教員1名に対し、3ヵ月間の体験研修を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育における「きゅうぱっく」及び博物館の活用に関する教員研修会を計4回実施した。 ・学校貸出キット「きゅうぱっく」の貸出を引き続き行い、56件の貸出を行った。 <p>3)国際シンポジウム「あじわい尽くすベトナム」を開催した。(11月18日開催) (詳細は処理番号3214参照)</p> <p>4)今年度は特別展記念講演会を5回開催した。</p> <p>5)今年度は講演会等を45回開催し、連続講座も開催した。また、展示内容と連動したパスツアーを企画、開催し、好評を得た。</p> <p>6)定期のミュージアムトークを52回開催し、展示だけでは伝わらない博物館活動の内容を紹介し、好評を博している。</p> <p>7)文化施設等へ講師を派遣した。(福岡市 アクロス・文化学び塾等)</p> <p>8)文化交流展、特別展に関連した教育普及事業としてワークショップ等を行った。</p> <p>9)放送大学の面接授業を実施した。「美術工芸品に見る文化交流の諸相」24年11月10日、11日)(処理番号 2214-2)</p>	A 順調
2221-1	<p>②-1 ボランティア活動の支援 【東京国立博物館】</p> <p>(東京国立博物館)</p> <p>1) 館内案内、各種教育事業及びイベント等の補助活動、館内案内等の充実を図る。</p> <p>2) 点字パンフレット、触知図、盲学校対応プログラム等による視覚障がい者対応、手話やコミュニケーションボード等による聴覚障がい者への博物館案内等、バリアフリー活動を実施する。</p> <p>3) 自主企画グループによる各種ガイドツアー等を継続して実施する。</p> <p>4) ボランティアの自主性を活かし、ボランティアデーなどにおいてボランティアの企画立案によるプログラムの充実を図る。</p>	<p>②-1 ボランティア活動の支援 【東京国立博物館】</p> <p>(東京国立博物館)</p> <p>1)館内各所での案内・みどりのライオン体験コーナー・紹介コーナー、東洋館オアシスでの活動、職場体験の補助の他、イベント班とワークショップ班による、年間を通じた各種イベント・ワークショップの補助活動を実施。また、各活動実施のための研修会・解説会を実施した。</p> <p>2)年通で触知図やコミュニケーションボード等を用いたバリアフリー活動を実施。バリアフリー対応により、盲学校を含む視覚障害者対応、点字パンフレットの印刷、自主企画グループにより手話通訳付きのガイドを実施した。</p> <p>3)全13の自主企画グループによるガイドツアー等の活動を実施し、新たに2グループの立ち上げ準備を行った。また、研究員による、ボランティア活動のための研修会を実施した。</p> <p>4)通常の自主企画グループの活動の他に留学生の日・ボランティアデー・博物館でお花見をなどの活躍の場を設け、より自主性を持った活動を行え</p>	A 順調

	<p>5) 東京藝術大学学生ボランティアによる活動を継続して実施する。</p>		
2222-1	<p>(京都国立博物館)</p> <p>1) 調査・研究支援ボランティアを受け入れ、各種事業活動の充実を進める。</p> <p>2) 大学生・大学院生ボランティアを育成し、小中学校への訪問授業を実施する。</p> <p>3) 「京都・らくご博物館」において、大学生をボランティアとして起用する。</p>	<p>るよう支援した。また、ボランティアデーではボランティア活動PR隊を募集し、ボランティアの企画立案によるボランティア活動紹介を実施した。</p> <p>5)総合文化展の作品解説をするギャラリートーク班5人と、制作工程模型班1人による活動を行った。</p> <p>【京都国立博物館】</p> <p>(京都国立博物館)</p> <p>1)収蔵品調査及び社寺調査の補助のため、調査・研究支援ボランティアを受け入れた。(21人)</p> <p>2)・京都市内の小中学校への訪問授業等を実施した。(8回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学生・大学院生ボランティア「文化財ソムリエ」を対象としたスクーリングを実施した。(20回) <p>3)「京都・らくご博物館」において、大学生をボランティアとして起用した。</p> <p>【奈良国立博物館】</p> <p>(奈良国立博物館)</p> <p>1)ボランティア新制度発足により、世界遺産グループ、解説グループ、サポートグループの各グループで新たな制度に基づく活動をスタートさせる。</p>	A 順調
2223-1	<p>2) ボランティアの資質向上を目的に、研修を実施する。</p> <p>3) 勉強会等によって、ボランティア同士のグループ別学習の充実を図る。</p>	<p>2)ボランティア全員に対して、名品展研修を毎月実施し、また特別展、特別陳列の開催ごとに展覧会担当者による展示内容の研修を実施した。ボランティア全員に全ての展覧会図録を配布し、解説と自己鍛錬のための学習資料とした。</p> <p>正倉院展の会期中に、ボランティアによる講堂解説を実施した。この事業に関しては、教育室がスライド資料と原稿を作成し、ボランティア室が約1ヵ月間の練習の立会と指導をした。</p> <p>3)ボランティアのグループ別に、毎月の勉強会を実施し、運営の指導に当たった。</p> <p>ボランティアによる自主企画プログラムの企画立案にあたり、学芸部や総務課の協力を得ながら、ミーティングの立会と指導をし、プログラムを実施した。</p> <p>【九州国立博物館】</p> <p>(九州国立博物館)</p> <p>1)第3期ボランティアを中心とした主体的な活動を重視することによって、活動意欲の向上、活動の活性化・充実、そして市民視点の活動の創造等が</p>	A 順調
2224-1			A 順調

	理部会、サポート部会、学生部会の充実を図る。 2) ボランティアに対し資質向上を目的に基礎研修・専門研修を実施する。 3) ボランティア同士のグループ別学習の充実を図る。	行われた。 2)ボランティア自身の企画・実施による研修等を積極的に実施することで、活動の資質の向上や活性化、発展が行われた。 3)イベントやワークショップ等の実施においては、ボランティアの主体性・自主性を尊重した取り組みを行った。		
2221-2	②-2 博物館支援者の増加 (4館共通) 企業との連携及び友の会活動等の会員制度の活性化を図る。 1) 会員制度によるリビーターの拡大に努める。 2) 会員制度利用者を対象とした事業を実施する。 3) 企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。 4) 公共交通機関等とのタイアップによる広報の充実に努める。 5) 展覧会事業への企業からの各種支援（協賛・協力）を募る。 (東京国立博物館・奈良国立博物館) 1) 賛助会員制度の継続・拡充を図る。 2) 地域、企業との連携・拡充を図る。	②-2 博物館支援者の増加 【東京国立博物館】 (4館共通) 1)入会時のプレゼント、イベント料金の割引を実施した。 2)賛助会員を対象に、感謝会ならびに特別展毎に特別鑑賞会を開催した。 3)地域との連携、PRにより認知度向上に努めた。 4)JR、地下鉄など総合文化展、特別展のポスターの掲示に協力を図るなど、広告活動に努めた。また、上野ミュージアムウイークでは、そのPRとして山手線内各駅を中心に首都圏の駅への冊子の配置についてJRに協力いただいた。 5)特別展「ボストン美術館 日本美術の至宝」において、三菱商事株式会社と共に「障がい者内覧会」を実施した。 (東京国立博物館・奈良国立博物館) 1)企業へのPR活動を積極的に行い、新規会員を増加させた。 2)・日本大学共催で「柳瀬荘アート・教育プロジェクト」を開催した。 ・上野ミュージアムウイーク（上野のれん会との共催）、上野の山文化ゾーンフェスティバル（台東区との共催）及び東京・春・音楽祭（東京・春・音楽祭実行委員会との共催）等、地域連携事業に参加した。	A	順調
2222-2	 (京都国立博物館・奈良国立博物館)	【京都国立博物館】 (4館共通) 1)「友の会」事業（24年4月より「パスポート」へ名称変更）を継続し、リビーターの拡大に努めた。 2)「友の会」会員（24年4月より「パスポート」へ名称変更）を対象とした事業を実施した。 3)企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努めた。 4)公共交通機関等とのタイアップによる広報の充実に努めた。 5)22年度に設置した「ミュージアム・パートナー」制度について引き続き周知している。 (京都国立博物館・奈良国立博物館)	A	順調
2223-2	1) 支援団体等が行う文化財の鑑賞会・見学会等に協力する。 (東京国立博物館・奈良国立博物館) 1) 賛助会員制度の継続・拡充を図る。 2) 地域、企業との連携・拡充を図る。 (京都国立博物館・奈良国立博物館) 1) 支援団体等が行う文化財の鑑賞会・見学会等に協力する。 (奈良国立博物館) 1) 支援団体等との連携により施設を活用したイベント等を実施し、博物館支援の輪を広げる。 2) 支援団体等と連携し、展覧会の充実を図る。	1)支援団体（社団法人清風会）が行う鑑賞会（4回）・見学会（5回）・会報（4回）の解説・執筆及び、総会の開催に協力した。また、地域・機関との連携事業に協力した。 【奈良国立博物館】 (4館共通) 1)パスポート会員 会員数 2,486 人（一般 2,397 人、学生 65 人、家族 24 人） 2)会員に夏季講座を優先的に受講できるようにした。 3)株式会社日本香堂提供のラジオ番組で、展覧会のPRを行った。 4)西日本旅客鉄道株式会社、近畿日本鉄道株式会社、阪神電気鉄道株式会社とタイアップし、特別展の広報を行った。 5)他の主催者と連携し、企業等からの協賛・協力を募った。 (東京国立博物館・奈良国立博物館) 1)賛助会員 29 団体 39 人（特別支援会員：5 团体、特別会員：5 団体、一般会員（個人）：39 人、（団体）：19 団体） 2)観光関連業界と連携し顧客層の開拓を行った。 奈良の観光イベント「ムジークフェストなら2012」、「ライトアッププロムナード・なら2012」、「なら燈花会」、「ならファンタージア YAMATO 新話」、「なら瑠璃絵」に対して協力した。 (京都国立博物館・奈良国立博物館) 1)支援団体等が主催する講演会等に会場を提供了。 (奈良国立博物館) 1)支援団体等が主催する展覧会の解説付の鑑賞会の実施に協力した。	A	順調
2224-2	 (九州国立博物館) 1) 近隣地域の諸団体や支援団体等と連携したイベントの実施及び広報活動の充実を図る。	2)特別展の実施に際して企業等からの協力金を得て特別展の充実を図った。 【九州国立博物館】 (4館共通) 1)「友の会」等の会員制度を継続して実施した。 2)「友の会」会員を対象に、季刊情報誌「アジアージュ」、トピック展示チラシ等の送付を行った。 3)企業等と連携し、広報活動を行った。 4)特別展においては、公共交通機関等とのタイアップにより広報活動を実施した。 5)展覧会事業への企業からの各種支援を得た。 (九州国立博物館) 1)支援団体や近隣地域と連携したイベントを実施し、広報活動の充実を図った。	A	順調

	<p>③ 大学との連携 (東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館) 1) インターンシップを継続して実施する。</p> <p>(東京国立博物館) 1) 東京藝術大学との連携事業を継続して実施する (大学院生対象)。</p> <p>2) キャンバスメンバーズへの教育連携事業を実施する。</p>	<p>③ 大学との連携 【東京国立博物館】 (東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館) 1) 博物館学芸員を目指す学生の学習意欲の喚起及び高い職業意識の育成を目的として、大学院生を対象にインターンシップを募集し、17 大学 23 名を受け入れた。それぞれ学芸研究部・学芸企画部の 10 部署で 10~30 日間の活動を行った。 (東京国立博物館) 1) 東京藝術大学の学生ボランティアを募集し、ギャラリートーク班5名、制作工程模型班1名が活動した。ギャラリートーク班では大学院生と当館研究員が連携して準備を行い、総合文化展の解説を行った。制作工程模型班では館蔵の国宝「紅白芙蓉図」の制作工程模型の展示・教育普及事業 (ギャラリートーク・ワークショップ) を行った。 2) キャンバスメンバーズ加入校の学生を対象に、博物館の歴史、保存修復、博物館情報、教育普及事業等について当館の職員が実例を交えた解説を実施。また、キャンバスメンバーズ加入校の学芸員志望学生を対象として、作品の取り扱い等博物館実務全般について演習・実習を実施した。(詳細は処理番号 2211-2 及び統計表 2-(2)-②を参照)</p> <p>【京都国立博物館】 (京都国立博物館) 1) 京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座を担当する。</p>	A	順調
2232	<p>(京都国立博物館) 1) 京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座を担当する。</p>		A	順調
2233	<p>(東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館) 1) インターンシップを継続して実施する。 (奈良国立博物館) 1) 奈良女子大学及び神戸大学との連携講座を継続して実施する。</p> <p>2) 奈良教育大学・奈良市教育委員会と連携して世界遺産学習のプログラム開発を検討する。</p>	<p>【奈良国立博物館】 (東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館) 1) 立命館大学から 3人の学生をインターンシップとして受け入れた。 (奈良国立博物館) 1) 奈良女子大学大学院人間文化研究科博士後期課程に学芸部研究員1名を客員准教授として派遣し、日本古典資料論の講義を行った。授業の内容は古典資料講読を中心とし、受講生は前期6人、後期4人であった。 • 神戸大学大学院人文学研究科の連携講座文化資源論に、学芸部研究員 2 人を客員教授と客員准教授として派遣し、文化資源論の講義を行った。受講した学生は同研究科の修士課程、博士課程の大学院生 7 人であった。 2) 奈良教育大学・奈良市教育委員会との世界遺産学習プログラムの開発は、昨年度に科学研究費が獲得され、3年間を一つの目処として、検討を行つた。 • 25 年 1 月 27 日(日)、奈良市教育センター及びなら 100 年会館 を会場として、「第3回世界遺産学習全国サミット in なら」を文部科学省・奈良</p>	A	順調

	<p>(東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館) 1) インターンシップを継続して実施する。</p> <p>(九州国立博物館) 1) 博物館実習生の受け入れを実施する。</p>	<p>市教育委員会・奈良教育大学等と共同で開催し、当館学芸部長らによる世界遺産学習リレートーク「次の世代を担う子どもたちへ」及び子供達による世界遺産学習発表会を行つた。</p> <p>【九州国立博物館】 (東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館) 1) 当館の保存修復施設を利用して地域大学との協業を図る短期インターンシップ研修プログラムを実施した。</p> <p>(九州国立博物館) 1) 博物館実習生の受け入れを実施した。 博物館実習生を 15 大学 21 人(男 3 人、女 18 人)、計 10 日間受け入れた。(うちキャンバスメンバーズ校は 5 大学 10 人)</p>	A	順調																																																																																																																													
2234		<table border="1"> <thead> <tr> <th>定量評価項目</th> <th>24 年度</th> <th>23 年度</th> <th>目標値</th> <th>評定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学習機会の提供 講演会等参加者数(人)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>東京国立博物館</td> <td>13,193</td> <td>12,664</td> <td>7,830</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>講演会</td> <td>6,952</td> <td>8,224</td> <td>3,500</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>列品解説</td> <td>5,805</td> <td>3,963</td> <td>4,000</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>連続講座(夏期講座)</td> <td>303</td> <td>380</td> <td>250</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>公開講座</td> <td>133</td> <td>97</td> <td>80</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>京都国立博物館</td> <td>3,150</td> <td>1,450</td> <td>2,480</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>土曜講座</td> <td>2,682</td> <td>1,199</td> <td>2,000</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>記念講演会</td> <td>215</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>夏期講座</td> <td>213</td> <td>193</td> <td>190</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>社会科教員のための向上講座</td> <td>40</td> <td>58</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>京都ミュージアムズ・フォーラン携講座(土曜講座に含む)</td> <td>(119)</td> <td>(158)</td> <td>(190)</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>奈良国立博物館</td> <td>3,454</td> <td>3,006</td> <td>2,600</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>特別展等講座</td> <td>2,172</td> <td>1,839</td> <td>1,500</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>夏季講座</td> <td>438</td> <td>522</td> <td>500</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>サンデートーク</td> <td>844</td> <td>645</td> <td>600</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>九州国立博物館</td> <td>8,354</td> <td>7,833</td> <td>3,100</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>特別展記念講演会</td> <td>966</td> <td>1,500</td> <td>600</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>講演及びシンポジウム</td> <td>4,918</td> <td>4,592</td> <td>1,300</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>ミュージアムトーク</td> <td>2,470</td> <td>1,741</td> <td>1,200</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>学習機会の提供 講演会等実施回数(回)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>東京国立博物館</td> <td>126</td> <td>112</td> <td>77</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>講演会</td> <td>31</td> <td>32</td> <td>20</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>列品解説</td> <td>90</td> <td>76</td> <td>55</td> <td>S</td> </tr> </tbody> </table>	定量評価項目	24 年度	23 年度	目標値	評定	学習機会の提供 講演会等参加者数(人)					東京国立博物館	13,193	12,664	7,830	S	講演会	6,952	8,224	3,500	S	列品解説	5,805	3,963	4,000	A	連続講座(夏期講座)	303	380	250	A	公開講座	133	97	80	S	京都国立博物館	3,150	1,450	2,480	A	土曜講座	2,682	1,199	2,000	A	記念講演会	215	—	—	—	夏期講座	213	193	190	A	社会科教員のための向上講座	40	58	—	—	京都ミュージアムズ・フォーラン携講座(土曜講座に含む)	(119)	(158)	(190)	C	奈良国立博物館	3,454	3,006	2,600	A	特別展等講座	2,172	1,839	1,500	A	夏季講座	438	522	500	B	サンデートーク	844	645	600	A	九州国立博物館	8,354	7,833	3,100	S	特別展記念講演会	966	1,500	600	S	講演及びシンポジウム	4,918	4,592	1,300	S	ミュージアムトーク	2,470	1,741	1,200	S	学習機会の提供 講演会等実施回数(回)					東京国立博物館	126	112	77	S	講演会	31	32	20	S	列品解説	90	76	55	S		
定量評価項目	24 年度	23 年度	目標値	評定																																																																																																																													
学習機会の提供 講演会等参加者数(人)																																																																																																																																	
東京国立博物館	13,193	12,664	7,830	S																																																																																																																													
講演会	6,952	8,224	3,500	S																																																																																																																													
列品解説	5,805	3,963	4,000	A																																																																																																																													
連続講座(夏期講座)	303	380	250	A																																																																																																																													
公開講座	133	97	80	S																																																																																																																													
京都国立博物館	3,150	1,450	2,480	A																																																																																																																													
土曜講座	2,682	1,199	2,000	A																																																																																																																													
記念講演会	215	—	—	—																																																																																																																													
夏期講座	213	193	190	A																																																																																																																													
社会科教員のための向上講座	40	58	—	—																																																																																																																													
京都ミュージアムズ・フォーラン携講座(土曜講座に含む)	(119)	(158)	(190)	C																																																																																																																													
奈良国立博物館	3,454	3,006	2,600	A																																																																																																																													
特別展等講座	2,172	1,839	1,500	A																																																																																																																													
夏季講座	438	522	500	B																																																																																																																													
サンデートーク	844	645	600	A																																																																																																																													
九州国立博物館	8,354	7,833	3,100	S																																																																																																																													
特別展記念講演会	966	1,500	600	S																																																																																																																													
講演及びシンポジウム	4,918	4,592	1,300	S																																																																																																																													
ミュージアムトーク	2,470	1,741	1,200	S																																																																																																																													
学習機会の提供 講演会等実施回数(回)																																																																																																																																	
東京国立博物館	126	112	77	S																																																																																																																													
講演会	31	32	20	S																																																																																																																													
列品解説	90	76	55	S																																																																																																																													

		連続講座(夏期講座)	1	1	1	A
		公開講座	4	3	1	S
	京都国立博物館	19	15	17	A	
	土曜講座	16	13	15	A	
	記念講演会	1	—	—	—	
	夏期講座	1	1	1	A	
	社会科教員のための向上講座	1	1	—	—	
	京都ミュージアムズ・フォーラム連携講座(土曜講座に含む)	(1)	(1)	(1)	A	
	奈良国立博物館	29	28	25	A	
	特別展等講座	16	15	12	A	
	夏季講座	1	1	1	A	
	サンデートーク	12	12	12	A	
	九州国立博物館	102	89	54	S	
	特別展記念講演会	5	7	4	A	
	講演及びシンポジウム	45	39	10	S	
	ミュージアムトーク	52	43	40	A	

(3) 快適な観覧環境の提供

【中期目標】国民に親しまれ、他の館の見本となる施設を目指し、来館者の立場に立った観覧環境の整備や観覧料金及び開館時間の弾力化などの利用者の要望を踏まえた管理運営を行い、来館者の期待に応えること。

【中期計画】

国民に親しまれる施設を目指し、来館者の立場に立った観覧環境の整備や利用者の要望を踏まえた管理運営を行う。
①施設のバリアフリー化、各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。
②一般来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。調査結果から来館者のニーズを把握し、観覧料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。また、施設の収容力に応じた来館者数を確保するとともに、混雑時の対応を含め利用者に配慮した運営を行う。
③ミュージアムショップやレストラン等のサービスについては利用者の意見を収集し、改善する。

【主な計画上の評価指標】

○施設のバリアフリー化を進めること。
○利用者のニーズを踏まえ、観覧料金や開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行うこと。
○利用者の意見を踏まえ、ミュージアムショップやレストラン等のサービスを改善すること。

【23年度評価における主な指摘事項】

○今後は、アンケート回収率を上げる工夫を行うとともに、利用者のニーズを踏まえた開館時間の弾力化など、より積極的な取り組みが望まれる。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
	(3) 快適な観覧環境の提供	(3) 快適な観覧環境の提供		

2311-1	① 施設・設備等の充実 (4館共通) 1) 特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、来館者に対するサービスの向上を図る。	① 施設・設備等の充実 【東京国立博物館】 (4館共通) 1) 全ての特別展で音声ガイドを実施し、来館者サービスの向上を図った。特別展『書聖 王羲之』の音声ガイドでは、加賀美幸子（元 NHK アナウンサー）のナビゲーター一起用等が好評を博し、貸出率が 25.0% となった。 (東京国立博物館) 1) 25年1月2日東洋館のリニューアルオープンに際し、案内・誘導サイン・注意事項等を4ヵ国語（日・英・中・韓）により整備した。 2) 「東京国立博物館140周年特集陳列 館蔵仏像名品選」の影刻の露出展示において、LED光源の小型スポットライトを特注した照明器具を仏像の展示照明として利用することで、展示効果を高めた。 ・東洋館の展示リニューアルにおいて、新たに LED光源を使用した展示照明器具を採用した。 (中期計画記載事項) ○施設のバリアフリー化として、黒田記念館の障がい者用エレベーター、段差解消機及び多目的トイレ設置の改修工事を進めた。また、表慶館に障がい者用エレベーター及び多目的トイレ設置の改修工事を進めた。 3) 平成22年度末から23年度にかけて実証実験を行なったスマートフォン端末を用いた館内ガイドをもとに、個人の端末にダウンロード可能なAndroid版スマートフォンアプリ「トーハクなび」を24年4月に公開した。さらに、25年1月にはAR（拡張現実感）技術を利用した演劇仕立てのコースガイド、蒔絵や陶磁などの伝統工芸の制作工程や絵巻の扱い方、屏風の表裏などをお手元で体験いただける体験型コンテンツを目玉とした本館2階のコースガイドを追加するバージョンアップを行なった。バージョンアップ版公開にあわせて25年1月22日～3月3日の期間、端末の貸出サービスを実施した。また、既に iOS 対応として日本語版が公開されダウンロード可能となっていた法隆寺宝物館30分ナビの英語版を25年2月、新たに公開した。 4) 障がい者の方のための点字版パンフレット等を引き続き配布する。 5) 「総合案内パンフレット」(7ヵ国語：日、英、中、韓、仏、独、西)「フロアガイド」(4ヵ国語：日、英、中、韓)の制作・配布する。 6) 本館2階「日本美術の流れ」の展示を外国人に理解してもらうために、より基礎的な解説を盛り込んだ3ヵ国語(英、中、韓)のカラーパンフレットを継続して制作・配布した。展示テーマと主な展示作品の解説を収録した日本語版は展示替えに応じ	A	順調
2311-2	3) 総合文化展における音声ガイドの導入について検討する。 4) 障がい者の方のために点字版パンフレット等を引き続き配布する。 5) 「総合案内パンフレット」(7ヵ国語：日、英、中、韓、仏、独、西)「フロアガイド」(4ヵ国語：日、英、中、韓)の制作・配布する。 6) 本館2階「日本美術の流れ」の展示を外国人に理解してもらうために、より基礎的な解説を盛り込んだ3ヵ国語(英、中、韓)のカラーパンフレットを継続して制作・配布する。			

2312	<p>(京都国立博物館)</p> <p>1) 快適な観覧環境を提供するための平常展示館の建替プログラムを継続して推進する。</p> <p>2) 館内案内リーフレット(6ヵ国語: 日、英、中、韓、仏、西)を継続して制作・配布する。</p>	<p>て更新・配布した。また、総合文化展の見学のポイントを示し、鑑賞と理解を促す子供向けワークシート「本館見学マップ」「暮らしの道具 今昔」「日本の伝統もよう」の3種を制作・配布した。</p> <p>○託児サービスを試行した。(25年1月～2月、9回)</p> <p>【京都国立博物館】 (4館共通)</p> <p>1) 特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、来館者に対するサービスの向上を図った。</p> <p>(京都国立博物館)</p> <p>1) 快適な観覧環境を提供するための平常展示館の建替工事の本体工事完了、引渡を受けた。引き続き、外構工事、展示ケース製作工事、展示製作工事等を実施する。</p> <p>2) 昨年度に製作した館内案内リーフレット(6ヵ国語: 日、英、中、韓、仏、西)を継続して配布した。</p> <p>(中期計画記載事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建替中の平常展示館において施設のバリアフリー化を実現すべく検討を進めた。 	A 順調
2313	<p>(奈良国立博物館)</p> <p>1) 快適な観覧環境を提供するための展示施設の計画的な整備を実施する。</p> <p>2) 誘導サイン及び展示照明を整備し、より快適な観覧環境を確保する。</p> <p>3) 正倉院展の際に託児所を設置する。</p> <p>4) なら仏像館における音声ガイドの導入について検討する。</p> <p>5) 市販のゲーム機等を利用した子供向けの解説の作成について検討する。</p> <p>6) ウェブサイトで展覧会の混雑状況・待ち時間の速報を行う。</p> <p>7) 館内案内リーフレット(7ヵ国語: 日、英、中、韓、仏、独、西)を継続して制作する。</p> <p>8) なら仏像館の会場案内図、展示リストを作成する。</p>	<p>1) 特別展において音声ガイドを活用した情報提供を行い、来館者に対するサービスの向上を図った。</p> <p>(奈良国立博物館)</p> <p>1) 快適な観覧環境を提供するための展示施設の計画的な整備を実施した。</p> <p>2) 誘導サイン及び展示照明を整備し、より快適な観覧環境を提供した。</p> <p>3) 正倉院展の会期中に、託児所を開設し、多くの利用者がいた。</p> <p>4) なら仏像館における音声ガイドの導入について検討した結果、新ボランティア制度が24年4月から発足し、解説ツアーを実施することに伴い、音声ガイドと重複するところがあるため、解説ツアーの実施状況を受けて再度検討することになった。</p> <p>5) 市販のゲーム機等を利用した子供向けの解説の作成について検討した結果、費用対効果等の観点から行わないこととなった。</p> <p>6) ウェブサイトで展覧会の混雑状況・待ち時間の速報を行った。</p> <p>7) 館内案内リーフレット(7ヵ国語: 日、英、中、韓、仏、独、西)を継続して制作した。</p> <p>8) なら仏像館の会場案内図、展示リストを作成・配布した。</p> <p>(中期計画記載事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設のバリアフリー化により、車椅子の方や高齢者、障がい者の利用にも配慮した観覧環境を提供している。 	A 順調

2314-1		【九州国立博物館】 (4館共通)	A 順調
2314-2	<p>(九州国立博物館)</p> <p>1) 快適な観覧環境を提供するための展示施設等の調査・分析及び検討を進める。</p> <p>2) 来館者にとって分かりやすい展示室内サインを開発し、快適な鑑賞環境を提供する。</p> <p>3) 館内案内リーフレット(7ヵ国語: 日、英、中、韓、仏、独、西)を継続して制作する。</p> <p>4) 文化交流展示室の展示を、日本文化に初めて接する海外の来館者にも理解しやすいような、外国語のパンフレットを刊行する。</p> <p>5) 英語・中国語・韓国語版の文化交流展示室のマップを継続して制作する。</p>	<p>1) 特別展等において展覧会の内容のより深い理解を助けるための音声ガイドを実施した。</p> <p>(九州国立博物館)</p> <p>1) 展示ケースの定期点検を行った上、グラフィック・サイン等のリニューアルを図り、わかりやすく、適切な鑑賞環境を提供した。</p> <p>2) エントランスの丸看板に主要なトピック展示や季節感を表すことによって、新鮮な展示をアピールした。</p> <p>3) 館内案内リーフレット(7ヵ国語: 日、英、中、韓、仏、独、西)を継続して作成・配布した。</p> <p>4) トピック展示等で図録に英語を逐語訳で付し、海外の来館者に対応した。</p> <p>5) 文化交流展示室では引き続き、英語・中国語・韓国語版のマップを展示替に応じて更新し、作成・配布した。</p> <p>(中期計画記載事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設のバリアフリー化、研修等の実施等を通じて、快適な観覧環境の提供を行った。 	A 順調
	<p>② 来館者満足度調査及び利用者に配慮した運営 (4館共通)</p> <p>1) 来館者のニーズを引き出すため来館者調査を実施し、その結果を改善に活かす。</p> <p>2) 混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を行い、実際の混雑に対しては、収容力に応じた入場者数の調整、陳列品の配置及び音声ガイドの解説場所の工夫等を行い、展覧会場の快適な環境維持に努める。</p>	② 来館者満足度調査及び利用者に配慮した運営	
2321		【東京国立博物館】 (4館共通)	A 順調
2322		<p>1) タッチパネルアンケート(特別展、総合文化展)の実施 平成館、本館で開催された全ての特別展及び本館での総合文化展でアンケートを実施し、その結果で環境改善に努めた。</p> <p>2) 「ボストン美術館展」期間中の混雑対応や、「中国王朝の至宝展」の手荷物検査による安全保持等を行い、展覧会場の快適な環境維持に努めた。</p> <p>【京都国立博物館】 (4館共通)</p> <p>1) 来館者アンケートを実施し、その結果を改善に生かした。</p> <p>2) 混雑時には入場制限を行い、来館者の安全の確保、快適な観覧環境の維持に努めた。</p>	A 順調

2323	(京都国立博物館・奈良国立博物館) 1) 特別展等に向け、専門家の展覧会評を求め、広報誌等に掲載する。 (京都国立博物館) 1) モニターを委嘱し、提言を受け、博物館運営に反映する。	(京都国立博物館・奈良国立博物館) 1) 特別展等に向け、専門家の展覧会評を求め、『京都国立博物館だより』に掲載した。 (京都国立博物館) 1) 小学校・中学校・高等学校の教員、ミュージアムぐるっとバス関西加盟店の職員及びキャンバスメンバーズ加盟校の学生へモニターを委嘱し、提言を受けた。館内で情報を共有し、展覧会を含めた博物館運営に反映した。 【奈良国立博物館】 (4館共通) 1) 来館者のニーズを引き出すため来館者にアンケートを実施し、その結果を改善に活かした。 2) 混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を行い、実際の混雑に対しては、収容力に応じた来館者数の調整、陳列品の配置及び音声ガイドの解説場所の工夫等を行い、展覧会場の快適な環境維持に努めた。 (京都国立博物館・奈良国立博物館) 1) 特別展「解脫上人貞慶」に向け、専門家の展覧会評を『奈良国立博物館だより』82号に掲載した。 【九州国立博物館】 (4館共通) 1) 来館者のニーズを引き出すため、文化交流展示及び各特別展で来館者調査を実施した。 2) 混雑が予想される展覧会（「ベルリン国立美術館展」、「ボストン美術館展」）について、入場規制、展示レイアウトの工夫をし、展覧会場の快適な環境維持に努めた。 (中期計画記載事項) ・来館者のニーズ等を把握するため、識者や市民代表などの外部委員による懇話会を開催した。	A	順調		
2324	(京都国立博物館・奈良国立博物館) 1) 特別展等に向け、専門家の展覧会評を求め、広報誌等に掲載する。	(京都国立博物館・奈良国立博物館) 1) 特別展等に向け、専門家の展覧会評を『奈良国立博物館だより』82号に掲載した。 【九州国立博物館】 (4館共通) 1) 来館者のニーズを引き出すため、文化交流展示及び各特別展で来館者調査を実施した。 2) 混雑が予想される展覧会（「ベルリン国立美術館展」、「ボストン美術館展」）について、入場規制、展示レイアウトの工夫をし、展覧会場の快適な環境維持に努めた。 (中期計画記載事項) ・来館者のニーズ等を把握するため、識者や市民代表などの外部委員による懇話会を開催した。	A	順調		
2331	③ ミュージアムショップやレストラン等館内環境の充実 ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、利用者サービスの向上に努める。 (4館共通) 1) オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供するなど、サービス向上に努める。	③ ミュージアムショップやレストラン等館内環境の充実 【東京国立博物館】 ○レストランでは、正月にヒマラヤ岩塩パウダーのプレゼントやフルーツゼリーのサービスを行い、また特別展に合わせたメニューを提供する等、サービスの向上に努めた。 ○ミュージアムグッズについてはその都度、東京国立博物館運営協力会と協議を重ね、新たな商品の開発に貢献した。	A	順調		
2332	(東京国立博物館) 1) ミュージアムショップの企画公募などを通じ、利用者のサービス向上に努める。 2) 140周年を記念して新グッズの開発を進める。	○本館及び東洋館のミュージアムショップの大規模改装が行われた。 (4館共通) 1) ・ショップの今年度主力事業として重文「夏秋草図屏風」の原寸大及び 50%サイズのレプリカを作成し、販売した。 ・東洋館リニューアルオープンに伴う絵はがきや切手シートを作成し、販売した。 (東京国立博物館) 1) ミュージアムショップの企画公募を実施し、一般財団法人東京国立博物館協力会が選定された。 2) 140周年を記念して、グッズを新規に製作し、販売した。 【京都国立博物館】 (4館共通) 1) 新規にオリジナルグッズを作成し、また展覧会に応じた関連商品、関連書籍等を取り揃え、サービスの向上に努めた。 (京都国立博物館) 1) レストラン利用者にアンケート調査を実施し、アンケートの集計結果をレストラン外部委託業者に提示し、さらなる接客サービスの向上に努めた。 【奈良国立博物館】 (4館共通) 1) オリジナルグッズ（元気が出る仏像シリーズ）の商品をミュージアムショップで販売し、サービスの向上に努めた。 (奈良国立博物館) 1) 25年1月2日に来館された方に正月サービスとして非売品のバッヂを、正倉院展のオータムレイアウトの観覧券を購入した方に非売品のしおりを配布した。 2) 仏教美術に関する図書の販売の充実を図った。 3) より快適な環境を提供できるよう、レストランのリニューアルを行った。	A	順調		
2333	(京都国立博物館) 1) レストラン利用者にアンケート調査を行いサービス向上に努める。	(京都国立博物館) 1) レストラン利用者にアンケート調査を実施し、アンケートの集計結果をレストラン外部委託業者に提示し、さらなる接客サービスの向上に努めた。 【奈良国立博物館】 (4館共通) 1) オリジナルグッズ（元気が出る仏像シリーズ）の商品をミュージアムショップで販売し、サービスの向上に努めた。 (奈良国立博物館) 1) 25年1月2日に来館された方に正月サービスとして非売品のバッヂを、正倉院展のオータムレイアウトの観覧券を購入した方に非売品のしおりを配布した。 2) 仏教美術に関する図書の販売の充実を図った。 3) より快適な環境を提供できるよう、レストランのリニューアルを行った。	A	順調		
2334	(奈良国立博物館) 1) ノベルティグッズを作成し、来館者に配布するなどのサービスを行う。 2) 仏教美術に関する図書の販売の充実を図る。 3) より快適な環境を提供できるよう、メニューを含めレストランのリニューアルを検討する。	(奈良国立博物館) 1) ノベルティグッズを作成し、来館者に配布するなどのサービスを行う。 2) 仏教美術に関する図書の販売の充実を図る。 3) より快適な環境を提供できるよう、メニューを含めレストランのリニューアルを検討する。	A	順調		
	(九州国立博物館) 1) 特別展に関連した特別メニューを提供するなど、サービスの向上に努める。	(九州国立博物館) 1) レストランでは、特別展に関連したメニューを期間限定で提供した。				
		定量評価項目	24年度	23年度	目標値	評定
	リーフレット等（カ国語） 東京国立博物館 京都国立博物館		7 6	7 6	7 6	A A

		奈良国立博物館 九州国立博物館	7 7	7 7	7 7	A A
--	--	--------------------	--------	--------	--------	--------

(4) 文化財情報の発信と広報の充実

【中期目標】文化財情報の蓄積と発信の充実に努めるとともに、展示及び各種事業に関し、積極的な広報に努めること。

【中期計画】

(4) 文化財情報の発信と広報の充実

- ①収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、永く後世に記録を残すために、データ整備及びデジタル化を推進する。また、整備したデータを公開するウェブサイトなどの公開システムの充実を行う。公開データの件数は継続的に増加させる。
収蔵品等に関するデジタル化件数は、その都度目標を設定する。
- ②美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、情報の発信と、レファレンス機能を充実させる。
- ③展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容、学術的な意義を踏まえて広報計画を策定し、情報提供を行う。
- ④広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用及びスマスマメディアとの連携強化等により、積極的な広報を行う。
- ⑤ウェブサイトアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る。

【主な計画上の評価指標】

- 収蔵品等に関するデジタル化目標件数を定め、それを達成すること。
- また、公開データ件数を増加させること。
- 報資料を収集し、レファレンス機能を充実させること。
- 計画的な広報・情報提供を行うこと。
- ウェブサイトアクセス件数の向上を図ること。

【23年度評価における主な指摘事項】

- 収蔵品等のデジタル化も順調に進展しており、今後のコンテンツ構築の一層の進展を期待する。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
2411	<p>(4) 文化財情報の発信と広報の充実</p> <p>① デジタル化の推進 (4館共通)</p> <p>1) 収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びインターネットでの公開を継続して行う。</p> <p>2) 収蔵品の国宝・重要文化財について、5ヵ国語（日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語）の説明を付したデジタル高精細画像（「国宝」）を継続して公開する。</p> <p>3) 約7,000件（東京：1,000、京都：2,000、奈良：3,000、九州：1,000）の収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施する。</p>	<p>(4) 文化財情報の発信と広報の充実</p> <p>① デジタル化の推進</p> <p>【東京国立博物館】 (4館共通)</p> <p>1) デジタル画像を資料館及びインターネットで公開した。</p> <p>2) 国宝・重要文化財の高精細画像（e国宝）を継続して公開した。また、22年度より提供している iOS アプリ「e国宝」に加え、Android アプリ版を開発し、公開した。 (25年2月)</p>	A	順調

2412	(東京国立博物館) 1) 外部への公開を見据えた「列品管理プロトタイプデータベース」（学芸業務支援システム）の構築を進め、博物館機能の充実を図る。 2) 収蔵品に関する基本情報のデータ化及びデータ整備を引き続き推進する。 3) 収蔵品の和書のデジタル化を実施し、公開に向けてデータを整備する。 4) 法隆寺献納宝物について、5ヵ国語（日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語）の説明を付したデジタル高精細画像（「法隆寺献納宝物デジタルアーカイブ」）等の提供を法隆寺宝物館にて継続して実施する。	<p>3) 既存フィルムはほぼ全てデジタル化済みであり、24年度新規フィルム撮影のほぼ全てにあたる776枚をデジタル化した。 (東京国立博物館)</p> <p>1) 「列品管理プロトタイプデータベース」を改善し、作品の修理予定・履歴の管理機能を追加した。</p> <p>2) 収蔵品情報のデータ化とデータ整備を推進した。</p> <p>3) 収蔵品の和古書について7,083カット、また所蔵する洋古書について1,881カットのデジタル撮影を行い、公開に向けてデータを整備した。</p> <p>4) 「法隆寺献納宝物デジタルアーカイブ」を法隆寺宝物館にて継続して提供した。 ・東京国立博物館情報アーカイブの運用を継続し、収蔵品、調査研究成果等の情報公開の充実を図った。</p> <p>(中期計画記載事項) ○データ整備及びデジタル化を引き続き推進した。また画像管理システムを改善するとともに、公開データを随時更新・追加した。</p> <p>【京都国立博物館】 (4館共通)</p> <p>1) 収蔵品のデジタルデータを作成し、文化財情報システム及び公開収蔵品データベースの登録を随時行い、当館デジタルアーカイブ及び公開情報サービスを行った。</p> <p>2) 収蔵品の国宝・重要文化財について、5ヵ国語（日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語）の説明を付したデジタル高精細画像（e国宝）を継続して公開した。</p> <p>3) 収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を継続し、2,732件実施した。 (京都国立博物館)</p> <p>1) 重要文化財高精細画像公開システム「KNM GALLERY」にて平成21年度より公開している6ヵ国語（日本語、英語、韓国語、スペイン語、フランス語、中国語）による解説について、内容及び表示方法等について修正を行った。</p> <p>(中期計画記載事項) ・収蔵品データベースで公開する画像は昨年度より検索できる件数を201点増加させた。</p> <p>【奈良国立博物館】 (4館共通)</p> <p>1) 収蔵品データベースと画像データベースの公開により、来館者及びインターネットでの情報提供を継続して行った。</p> <p>2) 国宝・重要文化財のデジタル高精細画像（e国宝）を継続して公開した。</p> <p>3) 収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施した(4,924件)。 (奈良国立博物館)</p> <p>1) 館内の収蔵品情報システムを更新するとともに、公開用の収蔵品データベースにも</p>	A	順調
2413	(奈良国立博物館) 1) 収蔵品について情報の整備を継続して実施し、収蔵品データベ		S	順調

2414	<p>ースの充実を図る。</p> <p>2) 画像データベースの個別データを約2,000件追加更新する。</p> <p>3) 修理記録・古写真・ガラス乾板等の整理とデジタル化を推進し、運用方法について検討する。</p> <p>4) 仏教美術資料研究センターのウェブサイト（蔵書検索）の開設と、利用案内パンフレットの作成を実施して、仏教美術情報の公開・普及を図る。</p> <p>(九州国立博物館)</p> <p>1) 収藏品に関するコンテンツを順次追加し、デジタルアーカイブの充実を図る。</p> <p>2) 海外調査で撮影した写真やビデオを展示や教育普及事業で活用するための整備を行う。</p>	<p>継続して情報を蓄積し、画像、解説文、文献情報を充実させた。</p> <p>2) 画像データベースの個別データを13,402件追加更新した。このうち公開データは4,326件（23年度は2,104件）。</p> <p>3) 「美術院彫刻等修理記録」の整理とデータ作成を継続して行い、学芸部内でデータベースを閲覧できる環境を整備した。</p> <p>4) 仏教美術資料研究センターのウェブサイトを運営し、蔵書、論文データの更新を行い内容の充実に努めた。利用案内パンフレットを更新し、建物見学の際に配布するなどして施設の普及を図った。</p> <p>(中期計画記載事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開データを4,326件（昨年度は2,104件）追加更新した。 <p>【九州国立博物館】 (4館共通)</p> <p>1) 九州国立博物館収蔵品デジタルアーカイブの拡充を図り、館内及びインターネットで収蔵品情報を発信している。</p> <p>2) 新たに収蔵された文化財情報のデジタル高精細画像（e国宝）による公開に向けて、準備を進めている。</p> <p>3) 1,450件の収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施した。</p> <p>(九州国立博物館)</p> <p>1) 昨年度から開始した九州国立博物館内に設置した収蔵品デジタルアーカイブ公開の利便性を向上するため、当該機器の性能を高めた。また、今年度新たに11件の収蔵品情報と、昨年度掲載分収蔵品の1件の画像として新たに750枚のデジタル画像の追加を行った。</p> <p>2) 今年度は海外での撮影を行わず、既存の資料の資料整理を行った。</p> <p>(中期計画記載事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・九州国立博物館収蔵品デジタルアーカイブの公開データを増加した。（新規追加作品11件、写真追加作品1件） 	A	順調
	<p>②博物館関係資料の収集及び発信、レファレンス機能の強化</p> <p>美術史・考古学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館・美術館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図る。また、資料の登録や検索・利用については、最新の情報処理技術を用いた、活用しやすいシステムを開発する。</p> <p>(4館共通)</p> <p>1) 約9,500件（東京：3,000、京都：3,000、奈良：3,000、九州：500）の収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備する。</p>	②博物館関係資料の収集及び発信、レファレンス機能の強化		
2421	<p>(東京国立博物館)</p> <p>1) 資料館において、美術史等の情報及び資料を一般に広く公開するため、図書管理システム及び画像管理システムを軸とした図書資料、画像資料などのデータ整備を推進し、レファレンス機能とサービスの充実を図る。</p> <p>2) 法隆寺宝物館において、観覧者向け図書コーナーサービスを継続実施する。</p> <p>3) 調査・研究・教育などに有益な情報及び関係資料を収集・蓄積する。</p> <p>4) 資料館の機能の拡充に向け、施設・設備の見直しを含めた、利用計画を策定する。</p>	<p>【東京国立博物館】 (4館共通)</p> <p>1) 本年度は9,556件の収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備した。</p> <p>(東京国立博物館)</p> <p>1) 資料館における美術史等の情報・資料の公開のため、図書資料等のデータ整備を推進した。</p> <p>資料館において資料の閲覧、複写及びレファレンスサービスを継続して実施した。漢籍を中心とした13000冊を超える選及入力及び開架図書の充実と配置換を行い、さらにライブラリーニュースなどによる情報発信や、特別展会場における関連図書リストの配布など資料館の認知度を高める活動を行った結果、資料館利用者数は前年度にくらべ大幅に増加した。(4,828人。参考：23年度3,385人) また、所蔵資料の紹介を含む「東京国立博物館資料館案内2012」を作成した。</p> <p>2) 法隆寺宝物館において、観覧者向け図書コーナーサービスを継続した。</p> <p>3) 博物館の調査研究、展示等の業務を支援し一般利用者の利用に供するため、関連する図書及び関係資料を収集した。</p> <p>収集件数：購入図書454冊、寄贈・交換図書4,423冊、館蔵品等の写真資料9,556枚</p> <p>4) 閲覧室の配置換えを実施して書架を増設し、和書以外にも洋書・中国語・韓国語図書、他館の展覧会カタログなどを配架して開架図書の充実につとめた。東京国立博物館関連図書コーナーや特別展関連図書コーナーは閲覧カウンター前にまとめて利用の便宜を図った。また、館内配布物やポスター、チケットなどの収集・保存・公開に向けた取り組みを実施した。</p>	S	順調
2422		【京都国立博物館】 (4館共通)	A	順調
2423		【奈良国立博物館】 (4館共通)	A	順調

	<p>(奈良国立博物館)</p> <p>1) 図書情報システム及び写真情報システムによる資料整備と情報蓄積を推進し、内外の利用者に対してサービスの充実を図る。</p> <p>2) 仏教美術資料研究センターの耐震補強工事完了をうけて、利用者に対し利便性向上を図るために、資料配置を見直し、資料の有効的な活用と効率的な運用について検討し、実施する。</p>	<p>件)。</p> <p>(奈良国立博物館)</p> <p>1)図書情報システム及び画像情報システムによる情報蓄積を推進し、仏教美術資料研究センター及びインターネットにおける情報公開を充実させた。「日本美術院彫刻等修理記録」の整理を進め、学芸部内でデータベースを閲覧できる環境を整えた。</p> <p>2)仏教美術資料研究センターの工事完了をうけて、新しい平面プランと利便性に配慮した資料の配置を行い、一部の資料の移動を実施した。通常の施設・資料公開にとどまらず、アーカイブズ学、建築学関係の専門家の見学・研修の受け入れを複数回行った。</p>	
2424	<p>(九州国立博物館)</p> <p>1) 対馬宗家文書データベースの効率的な運用を検討し、実施する。</p> <p>2) 博物館資料（収蔵品、図書、写真など）データベースにおける業務の効率化に向けて、現行業務システムを全面的に見直し、より充実した第2次業務システム構築を目指す。</p>	<p>【九州国立博物館】</p> <p>(4館共通)</p> <p>1)2,142件の収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備した。</p> <p>(九州国立博物館)</p> <p>1)対馬宗家文書データベースの効率的な運用のため、システムについて整備した。具体的には固有名詞データと、その固有名詞データの表記のゆれに対応する一覧を作成し、検索システムを新たに作ることにより検索の精度を向上させ、さらに専門的知識を持たない一般人でも容易に検索が可能となるよう改修を行った。</p> <p>2)図書資料データベースについては、運用の効率化を図るために新たな機能を追加し、画像については収蔵品データベースの拡充にあわせて、収蔵品画像データの準備を進めた。</p>	A 順調
2430	<p>③ 広報計画の策定と情報提供</p> <p>(機構本部)</p> <p>1) 機構の概要、年報を作成する。</p> <p>2) 機構本部ウェブサイトを運用し、法人情報の提供を行う。</p> <p>(4館共通)</p> <p>1) 年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。</p>	<p>③ 広報計画の策定と情報提供</p> <p>【本部事務局】</p> <p>(機構本部)</p> <p>1)『独立行政法人国立文化財機構概要 平成24年度』を24年7月に発行し、PDF版をウェブサイトに掲載した。 『独立行政法人国立文化財機構年報 平成23年度』を25年1月に発行し、PDF版をウェブサイトに掲載した。</p> <p>2)機構本部ウェブサイト(http://www.nich.go.jp/)の運用を継続した。随時掲載情報の追加更新を行い、広く一般に向けた法人情報の提供を行った。</p>	A 順調
2431	<p>(東京国立博物館、奈良国立博物館)</p> <p>1) 広報・宣伝制作物の企画・制作・配布等を行う。</p>	<p>【東京国立博物館】</p> <p>(4館共通)</p> <p>1)年間スケジュールリーフレットを制作し(35,000部)、送付及び館内配布した。</p> <p>(東京国立博物館、奈良国立博物館)</p> <p>1)『東京国立博物館ニュース』(隔月刊、号外)、「博物館でお花見を」「秋の特別公開」</p>	S 達成

	<p>(東京国立博物館)</p> <p>総合文化展の活性化に重点をおいた広報活動を行う。</p> <p>1) 本館2階「日本美術の流れ」のテーマ解説及び主な展示作品の解説をまとめ、展示替ごとに更新する日本語パンフレットを継続して作成し、配布する。</p> <p>2) 平成25年1月の東洋館リニューアルオープン及び開館140周年に開連した広報展開の企画・運営を行う。</p>	<p>「博物館に初もうで」他各種広報印刷物を制作・配布した。</p> <p>(東京国立博物館)</p> <p>1)「日本美術の流れ」パンフレットに関しては処理番号2311-2を参照。</p>	
2432		<p>2)東京国立博物館140周年「ブンカのちからにありがとう」及び「東洋館リニューアルオープン」のキャンペーンを行った。</p> <p>【京都国立博物館】</p> <p>(4館共通)</p> <p>1)年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行った。</p>	A 順調
2433	<p>(東京国立博物館、奈良国立博物館)</p> <p>1) 広報・宣伝制作物の企画・制作・配布等を行う。</p> <p>(奈良国立博物館)</p> <p>1) 広報活動を多面的に行うため、広報の外注化を引き続き検討する。</p> <p>2) 広報業務を一元化するとともに、戦略的な広報体制を整備する。</p> <p>3) 特別展の際に、タクシー・ホテル等関係者に対する内覧会を実施し、タクシー・ホテル等利用者への広報活動を展開する。</p> <p>4) 地元の観光協会を通じて観光客への広報活動を展開する。</p> <p>5) 地元の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動の展開を図る。</p> <p>6) 文化大使を引き続き任命し、広報活動を行う。</p> <p>7) 写真・映像の撮影等に場所提供を含め協力することにより博物館の認知度を高める。</p>	<p>【奈良国立博物館】</p> <p>(4館共通)</p> <p>1)24年5月～25年5月の展覧会日程を記載したリーフレットの初版を5月に5,000部、一部改訂版を10月に30,000部作成し、配布した。</p> <p>(東京国立博物館、奈良国立博物館)</p> <p>1)それぞれの展覧会の特性や意義に応じた広報の方針、及び印刷物の部数を議論する広報戦略委員会を、6回実施した。</p> <p>(奈良国立博物館)</p> <p>1)広報業務の一部（ポスター・チラシ等の発送）については外注化した。</p> <p>2)ポスター・チラシの発送先の一元管理を行い、鉄道の駅貼りやバス広告などの広報の可能性を検討した。</p> <p>3)特別展では、タクシー・ホテル等関係者に対する内覧会を実施、タクシー・ホテル等の利用者への広報活動を行った。</p> <p>4)奈良市観光協会への入会をはじめ、積極的に地元観光業界に対し広報活動を展開するとともに情報収集に努めた。</p> <p>5)奈良県が後援する観光イベントへの積極的な協力や、奈良県ビジターズビューローとの連携等、地域の観光団体等と連携した広報活動を展開した。</p> <p>6)文化大使の任期満了にともない、次期候補者の選考を行った。</p> <p>7)新聞社や鉄道会社の広報誌、地元のタウン情報誌等の写真撮影協力やテレビ局に対して放送のための映像撮影協力をを行い、博物館の認知度を高めた。</p>	A 順調
2434		<p>【九州国立博物館】</p> <p>(4館共通)</p>	A 順調

	<p>(九州国立博物館)</p> <p>1) 特別展の実施に伴う広報・宣伝材料を制作する。特に特別展の内容理解を促進するための番組を制作・TV放映する。</p> <p>2) 現在及び過去や将来的展示リストを検索・紹介し、新鮮な展示情報を情報発信するためのウェブデータベースを整備する。</p> <p>3) 地元の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動を展開する。</p> <p>4) 九州観光推進機構を通じた海外への広報・営業活動を開拓する。</p> <p>5) 文化交流展示室からの積極的な情報発信を図るために、ポスター・ちらし・ウェブコンテンツの活用を一層、促進する。</p>	<p>1) 年間スケジュールリーフレット「九州国立博物館 展示スケジュールのご案内」の制作・配布を行った。(5,000部)</p> <p>(九州国立博物館)</p> <p>1) 特別展「平山郁夫展」、「美のワンダーランド」、「ベルリン国立美術館展」等でTV番組を制作・放映した。</p> <p>2) 今年度、ウェブデータベースシステムを改修して使用の利便性を向上させると同時に、館内のものであるが公開・運用を開始した。</p> <p>3) 1,000万人達成記念セレモニーにおいて太宰府観光協会と連携した広報活動を実施した。また、トピック展示ポスター掲示、展示・イベントスケジュールチラシの設置など観光協会と連携した広報活動を実施した。</p> <p>4) 九州観光推進機構を通じ海外のメディアに博物館の紹介を行った。</p> <p>5) ポスター・チラシによる広報効果を上げるために、広報依頼目的の後援を積極的に募った。</p> <p>○広報事務局と協力して来館者マーケティングを実施し、交通広告に注力した上で来館者増を図った。</p>	
2441	<p>④ 広報印刷物、ウェブサイト等の活用及びマスメディアとの連携強化等による積極的な広報活動 (4館共通)</p> <p>1) マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を開拓する。</p> <p>2) ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行う。</p> <p>3) メールマガジンを配信する。</p>	<p>④ 広報印刷物、ウェブサイト等の活用及びマスメディアとの連携強化等による積極的な広報活動</p>	S 達成
2442	<p>(東京国立博物館)</p> <p>1) 「東京国立博物館ニュース」の編集・発行・配布を行う。(年6回)</p> <p>2) ウェブサイトでは、ブログや投票などの博物館の顔が見えるコンテンツの充実を図る。また、東洋館リニューアルオープンに際した新コンテンツを制作する。</p>	<p>【東京国立博物館】 (4館共通)</p> <p>1) マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を開拓した。</p> <p>2) ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行った。</p> <p>3) メールマガジンを配信した。(32回)</p> <p>(東京国立博物館)</p> <p>1) 『東京国立博物館ニュース』の編集・発行・配布を行った。(年7回 ※東洋館リニューアル号外含む)</p> <p>2) 140周年ブンカのちからにありがとうキャンペーンに伴う「140周年ありがとう」ブロゴ」を設置し、計140名のスタッフによる感謝の思いを発信した。(更新数114回)</p> <p>・東洋館リニューアルに伴うコンテンツを付加し、ウェブサイトの充実を図った。</p>	A 順調
2443-1	<p>(京都国立博物館)</p> <p>1) 「博物館だより」、「Newsletter」(英文)を年4回発行する。</p> <p>2) 地域等が主催する各種の委員会に参加・連携し、広報活動を開拓する。</p> <p>3) 京都市内4館美術館博物館で連携し、共通の展覧会情報パンフレットを作成・配布する。</p> <p>4) 既刊の博物館ディクショナリーをウェブサイトに掲載し、新刊をメールマガジンにて配信し、利用者の拡大を図る。</p> <p>5) 収蔵品貸与情報をウェブサイトにて公開する。</p>	<p>報に努めた。</p> <p>2) ウェブサイトによる情報提供(日本語・英語)、及び、モバイルサイトによる情報提供を行った。</p> <p>3) メールマガジンを配信した。(12回)</p> <p>(京都国立博物館)</p> <p>1) 『京都国立博物館だより』、「Newsletter」の発行・配布を行った。(各4回)</p> <p>2) 東山南部地域の社寺やホテル等と連携し、展覧会チケットが割引券となる地域マップ付チラシを作成し、広報活動を開拓した。</p> <p>3) 京都市内4館(京都国立博物館、京都国立近代美術館、京都府文化博物館、京都市美術館)の連携協力の提携を結び、共通の展覧会情報パンフレットを作成・配布した。</p> <p>4) 既刊の博物館ディクショナリーをウェブサイトに掲載し、新刊をメールマガジンにて配信し、利用者の拡大を図った。</p> <p>5) 収蔵品貸与情報をウェブサイトにて公開した。</p>	順調 A
2443-2	<p>(奈良国立博物館)</p> <p>1) 特別展及び名品展の魅力や文化財情報を満載した「博物館だより」を発行する。(年4回)</p> <p>2) ウェブサイトの外国語版の充実を図る。</p> <p>3) 奈良県立美術館、入江泰吉記念奈良市写真美術館と立ち上げた奈良トライアングルミュージアムズで連携し、集客増に繋がる広報活動を開拓する。</p> <p>4) 東大寺、春日大社などの寄託社寺及び賛助会員企業と連携し、特別展等の割引特典付きチラシを配布する。</p> <p>5) マスコミからの取材申し込みを積極的に受け入れ、展覧会、博</p>	<p>【奈良国立博物館】 (4館共通)</p> <p>1) 年間を通じて文化財の魅力を紹介する新聞連載や、テレビ番組「奈良国立博物館 仏教美術の殿堂」の放映の他、各特別展等の開催に合わせて、マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を開拓した。</p> <p>2) 特別展や公開講座等の企画ごとに、また展示替えごとにウェブサイト及びモバイルサイトを更新し、最新の情報提供を行った。</p> <p>3) メールマガジンを毎月1回配信した。</p> <p>(奈良国立博物館)</p> <p>1) 名品展や特別展の紹介に加え、文化財情報を満載した季刊誌『奈良国立博物館だより』を発行した。(4回)</p> <p>2) ウェブサイトの英語版に関して、すべての内容や用語の見直しを行った。適切な美術用語、新しい施設名称、外国人にも分かり易い表現などを積極的に採用し、アクセス数の集中する正倉院展の会期前まで修正を完了した。</p> <p>3) 奈良トライアングルミュージアムズとして、6月から12月にかけて古事記編纂1300年記念企画として3館連携リレー展示、3館リレー東京セミナーを6回(7・8・11・12・25年1・2月)実施、9月に奈良県による九州観光プロモーションへ参加、11月に3館リレー巡回展を開拓した。</p> <p>4) 東大寺、春日大社の協力を得て、体験型のイベントを行った。冬季の集客を図るため割引券を作成し、観光案内所及び市内の宿泊施設に配布した。</p> <p>春日大社の共催により同社において1日限定無料(一部割引)券を配付し、おん祭の広報と館の認知度アップに繋がった。</p> <p>5) 特別展、特別陳列等の開催にあたっては、報道発表、プレスレビューを実施、取</p>	A 順調

2444	<p>物館活動への理解・促進を図る。</p> <p>6) 季刊誌『奈良国立博物館だより』の PDF 版をウェブサイトに継続して掲載する。</p> <p>7) 英語による展覧会チラシを作成し、外国人観光客誘致のための情報発信を行う。</p> <p>(九州国立博物館)</p> <p>1) ウェブサイトで提供する博物館情報の充実を図るとともに、利用者の利便性を考慮した情報の発信に努める。</p> <p>2) 「九州国立博物館季刊情報誌アジアージュ」を発行する。(年4回)</p>	<p>材にも積極的に対応した。</p> <p>6) 季刊誌『奈良国立博物館だより』の PDF 版をウェブサイトに掲載した。</p> <p>7) 特別展では、英文チラシを作成、外国人観光客向けの情報発信を行った。</p> <p>【九州国立博物館】 (4館共通)</p> <p>1) マスコミや公共交通機関等と連携し、新聞紙上での作品の解説や西鉄電車での車内吊り広告等の広報活動を行った。</p> <p>2) ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行った。</p> <p>3) メールマガジンを配信した。(毎月2回)</p> <p>(九州国立博物館)</p> <p>1) ウェブサイトにて研究員が展覧会の解説を行う動画を YouTube で配信した。</p> <p>2) 『九州国立博物館季刊情報誌アジアージュ』を発行した。(年4回)</p>	A	順調																																																																						
2451	<p>⑤ ウェブサイトアクセス件数の向上を図る。</p> <p>(4館共通)</p> <p>1) アクセス件数の向上を図るために、ウェブサイトの内容の充実を図る。</p>	<p>⑤ ウェブサイトアクセス件数の向上を図る。</p>	A	順調																																																																						
2452		<p>【東京国立博物館】 (4館共通)</p> <p>1) アクセス件数の向上を図るため、ウェブサイトの内容の充実を図った。(詳細は処理番号 2441 参照)</p> <p>【京都国立博物館】 (4館共通)</p> <p>1) ウェブサイトにおいて特別展覧会、各種講座、イベント、教育等のコンテンツ掲載や更新を通じ、内容の充実に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メールマガジン拡充の一環として読者特典ブックレットを発行し、親しみやすさの向上等に努めた。 ・展覧会スケジュールのページを刷新し、利便性を高めた。 ・展覧会を紹介する画像や広報情報をトップページに動的に表示させるよう改修し、回遊性の向上に努めた。 ・混雑状況発信のページを一般に普及しているツイッターに切り替え、来館者サービスとセキュリティ向上を図った。 <p>○セキュリティの向上及び運用性の向上を目指し、サーバ OS のアップデート及びテスト環境の導入を実施した。</p>	A	順調																																																																						
2453		<p>【奈良国立博物館】 (4館共通)</p> <p>1) ・従来のウェブサイトでは、日本語・英語版の切り替えがトップページからしかできなかつたのを改良し、どのページからでも日本語・英語版に切り替えられるようにし、外国人のアクセス・使用に便宜をはかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奈良博だよりの最新版及びバックナンバーを PDF 化し、ウェブサイト上で閲覧できるようにした。 ・正倉院展の会期中、読売新聞大阪本社(特別協力)のウェブサイトと連携して「ただ今のはんわく」を知らせる小窓を設置した。 ・特別展を紹介する頁に、主な出陳作品の写真付き小解説を掲載して、展示構成や作品理解への便宜を図った。 ・トピックコーナーを頻繁に更新し、さらにイベント情報欄には文字情報のみならずチラシ画像なども掲示して、より多くの情報を発信することに努めた。 <p>【九州国立博物館】 (4館共通)</p> <p>1) 研究員が展覧会の解説を行う動画や駐車場空き情報の提供など、ウェブサイトの内容の充実を図った。</p>	A	順調																																																																						
2454		<table border="1"> <thead> <tr> <th>定量評価項目</th> <th>24年度</th> <th>23年度</th> <th>目標値</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化件数(件)</td> <td>776</td> <td>1,468</td> <td>1,000</td> <td>B (A)</td> </tr> <tr> <td>東京国立博物館</td> <td>2,732</td> <td>2,165</td> <td>2,000</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>京都国立博物館</td> <td>4,924</td> <td>5,297</td> <td>3,000</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>奈良国立博物館</td> <td>1,450</td> <td>2,146</td> <td>1,000</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>写真データベースの個別データ追加更新件数(件)</td> <td>13,402</td> <td>4,370</td> <td>2,000</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データ整備件数(件)</td> <td>9,556</td> <td>10,566</td> <td>3,000</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>東京国立博物館</td> <td>2,713</td> <td>3,580</td> <td>3,000</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>京都国立博物館</td> <td>4,960</td> <td>6,103</td> <td>3,000</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>奈良国立博物館</td> <td>2,142</td> <td>4,441</td> <td>500</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>各博物館発行の広報印刷物発行回数(回)</td> <td>7</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>東京国立博物館</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>東京国立博物館ニュースの発行</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>京都国立博物館</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	定量評価項目	24年度	23年度	目標値	評価	収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化件数(件)	776	1,468	1,000	B (A)	東京国立博物館	2,732	2,165	2,000	A	京都国立博物館	4,924	5,297	3,000	S	奈良国立博物館	1,450	2,146	1,000	A	写真データベースの個別データ追加更新件数(件)	13,402	4,370	2,000	S	収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データ整備件数(件)	9,556	10,566	3,000	S	東京国立博物館	2,713	3,580	3,000	B	京都国立博物館	4,960	6,103	3,000	S	奈良国立博物館	2,142	4,441	500	S	各博物館発行の広報印刷物発行回数(回)	7	6	6	A	東京国立博物館					東京国立博物館ニュースの発行					京都国立博物館					A	順調
定量評価項目	24年度	23年度	目標値	評価																																																																						
収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化件数(件)	776	1,468	1,000	B (A)																																																																						
東京国立博物館	2,732	2,165	2,000	A																																																																						
京都国立博物館	4,924	5,297	3,000	S																																																																						
奈良国立博物館	1,450	2,146	1,000	A																																																																						
写真データベースの個別データ追加更新件数(件)	13,402	4,370	2,000	S																																																																						
収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データ整備件数(件)	9,556	10,566	3,000	S																																																																						
東京国立博物館	2,713	3,580	3,000	B																																																																						
京都国立博物館	4,960	6,103	3,000	S																																																																						
奈良国立博物館	2,142	4,441	500	S																																																																						
各博物館発行の広報印刷物発行回数(回)	7	6	6	A																																																																						
東京国立博物館																																																																										
東京国立博物館ニュースの発行																																																																										
京都国立博物館																																																																										

		博物館だよりの発行 Newsletter の発行 奈良国立博物館 博物館だよりの発行 九州国立博物館 「九博季刊情報誌アジアージュ」の発行	4 4 4 4 4	4 4 4 4 4	4 4 4 4 4	A A A A A
--	--	--	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------

3 我が国における博物館の中核として博物館活動全体の活性化に寄与

【中期目標】博物館の中核として我が国における博物館の先導的役割を果たすとともに、海外の博物館とも積極的に交流を図り、国内外の博物館活動全体の活性化に寄与する。

(1) 収蔵品等に関する調査研究成果の発信

【中期目標】収蔵品等に関する調査・研究の成果を多様な方法により積極的に公表し、広く博物館関係者の知見の向上に資すること。

【中期計画】

博物館の中核として我が国における博物館の先導的役割を果たすとともに、海外の博物館とも積極的に交流を図り、国内外の博物館活動全体の活性化に寄与するため、以下の事業を実施する。

- (1) 収蔵品等に関する調査・研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧会に関わる刊行物などで発表するとともに、こうした刊行物の電子書籍化及びインターネットでの公開を行う。

【主な計画上の評価指標】

- 各種刊行物等で調査・研究の成果を広く公表すること。
- 各種刊行物の電子書籍化、インターネットでの公開を行うこと。

【23年度評価における主な指摘事項】

- インターネットを用いた公開も行われているが、今後は、多言語化、一般向けの分かりやすい成果報告など、なお一層の工夫が望まれる。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
3111	<p>(1) 調査研究の成果の発信</p> <p>(東京国立博物館、京都国立博物館)</p> <p>1) 文化財修理報告書を刊行する。 (東京国立博物館)</p> <p>1) 東京国立博物館情報アーカイブを運用し、「東京国立博物館情報アーカイブ」等、インターネットを活用した収蔵品・調査研究等に関する情報公開の充実を図る。</p> <p>2) 紀要・図版目録等を刊行する。</p> <p>3) 法隆寺献納宝物特別調査概報を刊行する。</p> <p>4) 研究誌「MUSEUM」(年6回)を刊行する。</p>	<p>(1) 調査研究の成果の発信</p> <p>【東京国立博物館】</p> <p>(東京国立博物館、京都国立博物館)</p> <p>1) 『東京国立博物館文化財修理報告』X III を刊行した。 (東京国立博物館)</p> <p>1) (東京国立博物館情報アーカイブの詳細は処理番号 2411 参照)。特集陳列印刷物 (リーフレット) を東京国立博物館ウェブサイトで公開した。</p> <p>2) 『東京国立博物館紀要』48号・『東京国立博物館図版目録 インド・インドネシア染織篇』を刊行した。</p> <p>3) 『法隆寺献納宝物特別調査概報X X X III 聖徳太子絵伝(四幅本)1』を刊行した。</p> <p>4) 研究誌『MUSEUM』637~642号を刊行した。</p> <p>(中期計画記載事項)</p> <p>特集陳列リーフレット 4 件の PDF ファイル版を作成し、刊行物の電子書籍化及びインターネットでの公開を進めた。</p> <p>【京都国立博物館】</p> <p>(東京国立博物館、京都国立博物館)</p> <p>1) 文化財修理報告書を刊行した。 (京都国立博物館)</p> <p>1) 研究紀要「学叢」を刊行するとともに、学術研究公開</p>	A	順調
3112	<p>(東京国立博物館、京都国立博物館)</p> <p>1) 文化財修理報告書を刊行する。 (京都国立博物館)</p> <p>1) 研究紀要「学叢」を刊行するとともに、学術研究公開</p>	<p>1) 文化財修理報告書 第9号』を刊行した。 (京都国立博物館)</p> <p>1) 研究紀要『学叢』第 34 号を刊行するとともに、学術研究公開の一環として既刊分を順次ウェ</p>	A	順調

	<p>の一環として既刊分を順次ウェブサイトで公開する。</p> <p>2) 社寺調査報告書等を刊行する。</p>		
3113	<p>(奈良国立博物館、九州国立博物館)</p> <p>1) 文化財修理に関する印刷物を刊行する。</p> <p>(奈良国立博物館)</p> <p>1) 研究紀要『鹿園雑集』を刊行し、ウェブサイトで公開する。</p> <p>2) 入場無料ゾーンを利用し、調査研究活動実績をパネル等で公開する。</p>	<p>【奈良国立博物館】</p> <p>(奈良国立博物館、九州国立博物館)</p> <p>1) 文化財修理に関する調査研究成果は、研究紀要『鹿園雑集』内に包摂する形で刊行した。</p> <p>(奈良国立博物館)</p> <p>1) 研究紀要『鹿園雑集』は、24年度内に刊行し、ウェブサイトにて公開した。</p> <p>2) 地下回廊の入場無料ゾーンにおいて、東京文化財研究所との共同研究による仏教美術の光学調査の成果、館蔵品の修理実績等に関するパネル展示を行った(通年)。</p> <p>○展覧会等図録6冊を刊行し、その中に収蔵品の調査研究成果の一部を収録した。</p>	A 順調
3114	<p>(奈良国立博物館、九州国立博物館)</p> <p>1) 文化財修理に関する印刷物を刊行する。</p> <p>(九州国立博物館)</p> <p>1) 研究紀要『東風西声』を刊行する。</p> <p>2) 保存修復活動の成果を教育普及事業に反映させる。</p>	<p>【九州国立博物館】</p> <p>(奈良国立博物館、九州国立博物館)</p> <p>1) 文化財修理に関する印刷物(修理報告書・「市民と共に ミュージアム I PM」報告書)を刊行した。</p> <p>(九州国立博物館)</p> <p>1) 研究紀要『東風西声』第8号を刊行した。</p> <p>2) 保存修復活動の成果を反映させた教育普及事業を行った。</p>	A 順調

(2) 海外研究者の招聘

【中期目標】国内外の博物館関係者及び文化財とその活用に関する専門家と積極的に学術・人物交流等を行い、国際的な博物館の拠点となることを目指すこと。

【中期計画】

- (2) 文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣する。

【主な計画上の評価指標】

- 国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施すること。
○職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関や国際会議等に派遣すること。

【23年度評価における主な指摘事項】

- 今後も、特に東アジアとの積極的な交流の持続が望まれる。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
	(2) 海外研究者の招聘等研究交流の実施 (国立文化財機構) 1) 日中韓国立博物館長会議へ参加する。	(2) 海外研究者の招聘等研究交流の実施 【国立文化財機構】 ・(日中韓国立博物館長会議については処理番号 3211 参照)		

	<p>(4館共通)</p> <p>1) 海外の博物館・美術館等の研究者を招聘し、海外の研究者との交流を促進する。 (20人程度: 東京6、京都5、奈良6、九州3)</p> <p>2) 当機構職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。 (22人程度: 東京6、京都6、奈良6、九州4)</p> <p>3) 国際的な講演・研究集会、シンポジウムを開催する。</p>		
3211		<p>【東京国立博物館】</p> <p>(国立文化財機構)</p> <p>1) 第7回目中韓国立博物館長会議に出席した。(24年10月18日)</p> <p>(4館共通)</p> <p>1) 韓国、中国、米国、ドイツより計11名の研究者を招聘し、学術交流及び展覧会事業の円滑化に寄与した。</p> <p>2) 韓国、中国、米国、イギリス、フランス等に延べ34名の研究員を派遣し、学術交流及び展覧会の準備調査を行った。</p> <p>3) 文化庁事業の一環として、ベルリン国立アジア美術館長による講演会、米国ヒューストン美術館教育部長による講演会を行った。</p> <p>(東京国立博物館)</p> <p>1) 韩国国立中央博物館及び中国・上海博物館、故宮博物院との学術交流協定に基づき、研究員の交流を行うとともに、海外での作品調査や国際会議出席などのため海外に研究員を派遣、調査研究及び海外館とのネットワーク構築や交流事業の推進を図った。</p>	A 順調
3212	<p>(東京国立博物館)</p> <p>1) 学術交流協定を締結している博物館及び東アジア・欧米主要館を中心に、海外の博物館との交流を活発に行う。</p>	<p>【京都国立博物館】</p> <p>(4館共通)</p> <p>1) 海外からの研究者を3人招聘した。</p> <p>2) 研究交流並びに研修のため研究員を海外へ15人派遣した。</p> <p>3) 国際シンポジウム「天皇・皇帝の書をめぐって」(24年11月18日)を開催した。</p>	A 順調
3213	<p>(京都国立博物館)</p> <p>1) 諸外国における国際会議、研究集会等へ積極的に参加し、研究交流及び研修を行う。</p> <p>2) 外国人研究員・研修員の受け入れを行い、海外の研究者との交流を促進する。</p>	<p>【奈良国立博物館】</p> <p>(4館共通)</p> <p>1) 中国・韓国の研究者計7名を招聘し、今後の共同調査や展示活動等に向けた実りある情報交換を実施した。</p> <p>2) 職員延べ17名を諸外国に派遣し、文化財に関する情報収集や現地研究者との交流を図った。</p> <p>3) 24年12月14日に東アジア仏教彫刻史に関する国際研究集会を開催し、許亨旭氏(韓国国立慶州</p>	A 順調

3214	<p>(奈良国立博物館) 1) 学術交流協定を締結している博物館を中心として、海外の博物館との交流を活発に行う。</p> <p>(九州国立博物館) 1)国際交流活動推進へ向けての基盤を整備するとともに学術文化交流協定を締結している海外博物館等との交流を活発に行う。 2)海外の文化財研究者や修理技術者を招聘し、文化財保存修復施設を活用した専門的な国際交流セミナーやワークショップを開催する。</p>	<p>博物館)が「慶州吐含山石窟庵彫刻」のタイトルで口頭報告し、これに岩井共二教育室長がコメントした。</p> <p>(奈良国立博物館) 1)中国上海博物館、中国河南博物院、韓国国立慶州博物館との間で、学術交流協定に基づいて研究員等を派遣し、また招聘して、今後の共同調査や展覧会開催に向けて情報を交換した。</p> <p>【九州国立博物館】 (4館共通) 1)海外の博物館・美術館等の研究者を3人招聘した。 2)当機構職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため、60人派遣した。 3)・国際シンポジウム「あじわいにくべトナム」を開催した。(24年11月18日開催) 280名参加 ・第5回東アジア紙文化財保存修理シンポジウムを開催した。(24年11月3日開催) 170名参加</p> <p>(九州国立博物館) 1)国際交流活動推進へ向けての基盤を整備し、海外博物館等との交流を実施した。</p> <p>2)海外の文化財研究者や修理技術者を招聘し、専門的な講演を行った。</p>	A	順調																																																			
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>定量評価</th><th>24年度</th><th>23年度</th><th>目標値</th><th>評定</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>海外研究者招聘(人)</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>　　東京国立博物館</td><td>11</td><td>16</td><td>6</td><td>S</td></tr> <tr> <td>　　京都国立博物館</td><td>3</td><td>21</td><td>5</td><td>C</td></tr> <tr> <td>　　奈良国立博物館</td><td>7</td><td>20</td><td>6</td><td>A</td></tr> <tr> <td>　　九州国立博物館</td><td>3</td><td>21</td><td>3</td><td>A</td></tr> <tr> <td>研究員派遣(人)</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>　　東京国立博物館</td><td>34</td><td>48</td><td>6</td><td>S</td></tr> <tr> <td>　　京都国立博物館</td><td>15</td><td>25</td><td>6</td><td>S</td></tr> <tr> <td>　　奈良国立博物館</td><td>17</td><td>19</td><td>6</td><td>S</td></tr> <tr> <td>　　九州国立博物館</td><td>60</td><td>56</td><td>4</td><td>S</td></tr> </tbody> </table>			定量評価	24年度	23年度	目標値	評定	海外研究者招聘(人)					東京国立博物館	11	16	6	S	京都国立博物館	3	21	5	C	奈良国立博物館	7	20	6	A	九州国立博物館	3	21	3	A	研究員派遣(人)					東京国立博物館	34	48	6	S	京都国立博物館	15	25	6	S	奈良国立博物館	17	19	6	S	九州国立博物館
定量評価	24年度	23年度	目標値	評定																																																			
海外研究者招聘(人)																																																							
東京国立博物館	11	16	6	S																																																			
京都国立博物館	3	21	5	C																																																			
奈良国立博物館	7	20	6	A																																																			
九州国立博物館	3	21	3	A																																																			
研究員派遣(人)																																																							
東京国立博物館	34	48	6	S																																																			
京都国立博物館	15	25	6	S																																																			
奈良国立博物館	17	19	6	S																																																			
九州国立博物館	60	56	4	S																																																			

(3) 博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施

<p>【中期目標】国内外の文化財の保存・修理に関する人材育成に寄与すること。</p> <table border="1"> <tr> <td>【中期計画】 (3) 保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした研修プログラムを関係機関と連携しながら検討、実施する。</td><td>【主な計画上の評価指標】 ○研修プログラムを関係機関と連携しながら検討、実施すること 【23年度評価における主な指摘事項】</td></tr> </table>					【中期計画】 (3) 保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした研修プログラムを関係機関と連携しながら検討、実施する。	【主な計画上の評価指標】 ○研修プログラムを関係機関と連携しながら検討、実施すること 【23年度評価における主な指摘事項】
【中期計画】 (3) 保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした研修プログラムを関係機関と連携しながら検討、実施する。	【主な計画上の評価指標】 ○研修プログラムを関係機関と連携しながら検討、実施すること 【23年度評価における主な指摘事項】					
処理番号	年度計画	主な実績	自己評価			
			年度	中期		
3311	<p>(3) 保存修理者への研修プログラム (4館共通)</p> <p>1) 保存修理事業者を対象とした研修会を開催するとともに、インターーンの受け入れや保存修理事業者と協力した研修会を開催する。</p>	<p>(3) 保存修理者への研修プログラム</p> <p>【東京国立博物館】 (4館共通)</p> <p>1) 特定非営利活動法人文化財保存支援機構(NPO-JCP)が主催する専門家セミナーに当館が共催し、当館を会場として「文化財保存修復専門家養成実践セミナー・レベルI」(24年8月25日～9月4日の10日間)を開催した。当館は講師・プログラムの選定、及びセミナー会場・修理施設・展示施設の提供を行った。本セミナーの対象は、社会で活動している文化財保存修復専門家及び専門家を目指す学生である。内容は、国内外で活躍できる高度な能力を持つ専門家を育成するために、基礎能力の格段の向上を目指すものであり、既に現場で活躍している講師陣による実践セミナーである。受講生は全国から34名が参加した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レベルIの応用編として「文化財保存修復専門家養成実践セミナー・レベルII 陸前高田学校」(24年7月30日～8月6日の7日間)を別会場において開催し、受講生は13名であった。 ・大学院生のインターンシップを4名受け入れ、当館の臨床保存と包括的保存について研修を実施した(25年3月4日～3月15日)。 	A	順調		
3312	<p>【京都国立博物館】 (4館共通)</p> <p>1)毎月1回文化財保存修理所内工房を当館研究員が巡回し、修理技術者に指導・助言を行った。また2ヶ月に1回修理技術者と当館との定例会議を開催した。</p> <p>・当館開催の特別展覧会において、修理技術者に対する定例の研修会(熟観)を実施した。(計4回・169人) 参加者「王朝文化の華 陽明文庫名宝」展 56人 「大出雲」展 43人 「宸翰 天皇の書」展 34人 「国宝 十二天像と密教法会の世界」展 36人</p> <p>・文化財修復に関わる大学院生のインターンシップ実習を実施し、報告書を作成した。(3人)</p>		A	順調		

<p>3313</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保存修復技術を専攻する学生(大学院生)のための研修会を実施し、研修報告を行った。(29人) ・国宝修理装潢師連盟とともに作成に協力した『マンガ文化財入門 絵画・書跡編』が、財団法人京都文化財団より発行された。 <p>【奈良国立博物館】 (4館共通)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1)国内外の保存修復専門家による文化財保存修理所各工房での研修・視察を合計9回受け入れ、各工房技術者との間で情報交換を行った。 ・4月24日：鶴見大学大学院文化学科による視察・研修(2名) ・6月26日：韓国国立文化財研究所保存科学センターによる視察・研修(3名) ・7月10日：公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事業に基づくインドネシア教育文化省技術者の視察・研修(7名) ・8月10日：東京藝術大学大学院文化財学科保存修復研究室による視察・研修(5名) ・8月30日：仏国ルーブル美術館紙資修理技術者による視察・研修(5名) ・10月30日：文化庁学術交流事業による米国フリーア美術館保存科学部東洋絵画修理室員による視察・研修(3名) ・12月20日：文化財修理所の各工房修理技術者を対象とする研修会を開催(26名)。 ・25年1月17日：奈良文化財研究所主催の平成24年度文化財担当専門者研修者受講生による視察・研修(22名) ・25年1月18日：奈良工業高等専門学校生による視察・研修(20名) <p>【九州国立博物館】 (4館共通)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1)・保存修理事業者を対象とした研修会等を開催した。(計7回・280人) ・インターの受け入れや保存修理事業者と協力した研修会を行った。 ・文化財保存、I PM普及のための講座・研修を開催した。(計4回・273人) 	<p>A 順調</p>
<p>3314</p>	<p>A 順調</p>

(4) 公私立の博物館等への貸与の推進

【中期目標】国内外の博物館等の展覧事業の活性化を支援するため、収蔵品の貸与を実施すること。

【中期計画】

(4) 収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館等の要請に対し、展示等の充実に寄与するため貸与を実施する。

【主な計画上の評価指標】

○収蔵品の保存状況に配慮した貸与を実施すること

【23年度評価における主な指摘事項】

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
	(4) 収蔵品の貸与 (東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館)	(4) 収蔵品の貸与 【東京国立博物館】 (東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館)	A	順調

<p>3411 1) 国内の博物館等で開催する展覧会等へ収蔵品を貸与する。 (東京国立博物館・奈良国立博物館)</p> <p>1) 国内の公私立博物館と考古資料の相互貸借を実施する。 (東京国立博物館)</p> <p>1) 長崎歴史文化博物館の平常展示のため、引き続き長期貸与する。</p> <p>2) 海外の美術館・博物館等で開催する展覧会へ貸与する(海外交流出品作品を含む)。</p> <p>(東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館)</p> <p>1) 国内の博物館等で開催する展覧会等へ収蔵品を貸与する。</p>	<p>1)国内の博物館等154機関に1,252件の作品を貸与した。 (東京国立博物館・奈良国立博物館)</p> <p>1)北九州市立自然史・歴史博物館、宮崎県立西都原考古博物館と協力して考古資料の相互貸借を実施した。 (東京国立博物館)</p> <p>1)長崎歴史文化博物館の平常展示のため、年度を越えた長期貸与を実施した。</p> <p>2)海外の美術館・博物館等5機関に43件の作品を貸与した。</p> <p>【京都国立博物館】 (東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館)</p> <p>1)機関に対し304件の収蔵品貸与を行った。(うち海外2機関に対し3件) 館蔵品の貸与件数: 170件 寄託品の貸与件数: 134件 計 304件</p> <p>○本年度も継続してウェブサイトにて「貸出作品リスト」の公開を行った。 【奈良国立博物館】 (東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館)</p> <p>1)館蔵品と寄託品を、国内外合わせて37の機関に、計102件貸し出した。</p> <p>(東京国立博物館・奈良国立博物館)</p> <p>1)長崎歴史文化博物館、岩崎市立一支国博物館、福島県立博物館、福岡市博物館、九州歴史博物館の計5館との間で相互貸借事業を実施した。</p> <p>【九州国立博物館】 (九州国立博物館)</p> <p>1)国内43機関・海外1機関に所蔵品及び寄託品を貸与した。 (機関数は延べ数。東京国立博物館からの長期管理換品を含む。)</p>	<p>A 順調</p>
<p>3412</p>	<p>A 順調</p>	
<p>3413</p>	<p>A 順調</p>	
<p>3414</p>	<p>A 順調</p>	

(5) 公私立博物館等に対する援助・助言

【中期目標】全国の博物館等の運営に対する援助、助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等に努めること。

【中期計画】

- (5) 公私立博物館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等を行う。

【主な計画上の評価指標】

- 公私立博物館等に対する援助・助言を行うこと。

【23年度評価における主な指摘事項】

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
3511	<p>(5) 公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進 (4館共通)</p> <p>1) 公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。</p>	<p>(5) 公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進</p> <p>【東京国立博物館】 (4館共通)</p> <p>1) 公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等に対し、85件の援助・助言を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化庁や地方公共団体等の文化財関係事業にて協力(17件) ・公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言(35件) ・講演会やセミナー等における講演等での協力(10件) ・作品の展示・保存環境についての調査・指導(15件) ・文化財レスキュー事業(被災文化財等救出作業支援)(8件) <p>東日本大震災において被災した博物館など7施設に対して、文化財保全のための救援活動を実施した。</p> <p>(東京国立博物館)</p> <p>1) 新規貸与館15館に対する環境調査を実施し、東京文化財研究所と協力して指導助言を行った。</p>	A	順調
3512	<p>(東京国立博物館)</p> <p>1) 新規貸与館に対する環境調査は、東京文化財研究所と協力して指導助言を行う。</p>	<p>【京都国立博物館】 (4館共通)</p> <p>1) 公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等に対し、65件の援助・助言を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化財の展示、修理にかかる指導助言 (12件) ・文化財の調査に関する指導助言 (38件) ・講演会・セミナー等における講演等での協力 (9件) ・地方公共団体の文化財保護審議会等会議にて協力 (4件) ・文化財レスキュー事業に関する被災文化財等救出作業支援 (2件) 	A	順調
3513	<p>(奈良国立博物館)</p> <p>1) 神奈川県立金沢文庫と共に御遠忌800年記念特別展「解脫上人貞慶 一鎌倉仏教の本流ー」(奈良会場: 4月7日~5月27日、神奈川会場: 6月9日~7月29日)を開催する。</p> <p>2) 聖徳太子1390年御遠忌記念「法隆寺展」(主催: 法隆寺・日本経済新聞社主催、会場: 日本橋高島屋ほか)に学術協力をを行う。</p> <p>3) 「法隆寺展(仮称)」(主催: 法隆寺・読売新聞社=予定、会場: 香川県立ミュージアム・広島県立歴史博物館他=予定)に向けた調査研究を行う。</p>	<p>【奈良国立博物館】 (4館共通)</p> <p>1) 国内外の博物館・美術館等の運営や展示活動への協力は、総計 67 件を実施した。</p> <p>(奈良国立博物館)</p> <p>1) 神奈川県立金沢文庫と共同主催の特別展は、当初計画どおり奈良会場で 24 年 4 月 7 日~5 月 27 日に、神奈川会場で 24 年 6 月 8 日~7 月 29 日に実施した。</p> <p>2) 聖徳太子 1390 年御遠忌記念「法隆寺展」(主催: 法隆寺・日本経済新聞社、会場: 日本橋高島屋及びなんば高島屋)への学術協力では、大阪会場(24 年 3 月 29 日~4 月 16 日)の終了後、会場からの展示品搬出、法隆寺への返却作業を指導した。</p> <p>3) 「法隆寺展(仮)」は平成 26 年度の開催が決定し、出陳候補品の選定作業を開始した。</p> <p>○石川県立美術館で開催される特別展「国宝薬師寺展」(主催: 同展実行委員会、会期: 25 年 4 月 26 日~6 月 23 日)への学術協力として、同展への助言と図録原稿の執筆を担当した。</p>	A	順調
3514	<p>(九州国立博物館)</p> <p>1) 地域の自治体と連携し、公私立博物館・美術館等職員のための古文書保存に関する専門講座を開催する。</p> <p>2) 地域の自治体と連携し、公私立博物館・美術館等職員・ボランティアのための I PM (総合的有害生物管理)に関する専門講座を開催する。</p>	<p>【九州国立博物館】 (4館共通)</p> <p>1) 公私立博物館等で開催された研究集会及び講演会において指導・助言を行った。(109件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化財の調査に係る助言(24 件) ・文化財の保存修理にかかる援助、助言(33 件) ・作品の展示及び運営等についての指導、助言(40 件) ・講演会、セミナー等における講演(9 件) ・文化財レスキュー事業(被災文化財等救出作業支援) (3 件) <p>(九州国立博物館)</p> <p>1) 福岡県教育委員会と筑紫野市歴史博物館との共催により文化財関係者に向けて「古文書保存基礎講座」を実施した。</p> <p>2) 地域の自治体と実行委員会を組織し、文化庁補助金を得て、「市民と共に ミュージアム I PM」事業を実施し、文化財関係者及び市民等に向けての研修会「ミュージアム I PM 支援者研修」を実施した。</p>	A	順調

4 文化財に関する調査及び研究の推進

【中期目標】我が国唯一の文化財に関する総合的な研究機関として、文化財に関する以下の調査・研究を行い、貴重な文化財を次代へ継承していくために必要な知識・技術の基盤の形成に寄与すること。

(1) 文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進

【中期目標】文化財の各分野に関する基礎的・体系的な調査・研究や、総合的な視点に基づく文化財の調査・研究手法の開発等を推進することにより、国及び地方公共団体における文化財保護施策の企画立案及び文化財の評価等に係る業務の基盤形成に寄与すること。

【中期計画】

貴重な文化財を次代へ継承していくために必要な知識・技術の基盤の形成に寄与するため、以下の調査・研究を行う。

(1) 文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進

国内外の機関との共同研究や研究交流を含め、文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究として、国内外の機関との共同研究や研究交流も含めて以下の課題を取り組み、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関する基盤の形成に寄与する。

①我が国の美術を中心とする有形文化財及びそれに係わる諸外国の文化財に關し調査・研究を実施する。

②我が国の歴史、文化の究明及び理解の促進等を図るために、歴史資料・書跡資料等に関する調査・研究を実施する。

③歴史的建造物の保存・活用の促進等を図るために、建造物及び伝統的建造物群に関する調査・研究を実施する。

④無形文化遺産の伝承・公開の基盤の形成等を図るために、無形文化財、無形民俗文化財、文化財保存技術に関する調査・研究を実施する。

⑤文化財の保存に加え、地域振興・国際的動向の観点も含めた活用の促進等を図るために、記念物に関する調査・研究を実施する。

⑥古代日本の都城の解明等を図るために、平城宮跡、藤原宮跡及び飛鳥地域における宮跡その他の遺跡に関する調査・研究を実施する。

⑦文化的景観の文化財としての概念の定着と保存・活用の促進等を図るために、文化的景観に関する調査・研究を実施する。

⑧遺物及び構造の保存・活用の促進等を図るために、埋蔵文化財に関する調査・研究を実施する。

【主な計画上の評価指標】(1)～(5)共通

○中期計画に示された課題や文化財保護政策のニーズに沿って、研究の目的、テーマを適切に設定すること。

○それぞれの調査・研究を計画に沿って適切に実施すること。また、我が国の文化財保護政策上、緊急に保存修復の措置等が必要となった場合において、必要な実践的調査研究を迅速かつ適切に実施すること。

○調査研究の成果により我が国の文化財保護政策に寄与するとともに、学術雑誌等への論文の掲載、学会、研究会での発表、データベースの追加等により定量的観点からも調査研究の成果を確保すること。

【23年度評価における主な指摘事項】

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
	(1) 文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進 国内外の機関との共同研究や研究交流を含め、文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究を推進することにより、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関する基盤の形成に寄与する。	(1) 文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進		

4111	① 我が国の美術を中心とする有形文化財及びそれに係わる諸外国の文化財に關し、以下の課題に重点的に取り組む。 ア 他機関との連携を図りつつ、文化財情報の公開・活用のための、より望ましい手法等の研究を行う。	①－ア 文化財の研究情報の公開・活用のための総合的研究 昨年度所内公開した「東京文化財研究所所蔵資料アーカイブズ『みづゑ』(試行版、創刊号～10号)」に改良を加えて一般公開を開始し、10号以後についても公開する準備を進めた。同時に図版がメインの貴重書の効果的な公開方法についても検討を重ねた。また、東京文化財研究所アーカイブズ運営委員会のもとにワーキンググループを組織し、本年度については研究所刊行物アーカイブの試行版を作成し、次年度以降の本格的な取り組みに備えた。	A	順調
4112	イ 日本を含む東アジア地域における美術の価値形成の多様性を明確するために、近年の記録媒体や分析手法等の進展に対応しながら調査研究を行い、文化財を対象とする資料学的基盤を整備、確立する。併せて、その基盤を確立しながら国内外の研究交流を推進し、成果を広く一般に公開する。	①－イ 文化財の資料学的研究 (1)調査 熊本県立美術館における横山大観《山路》の調査・撮影。 (2)美術史研究のためのコンテンツ形成 古記録・文献史料記載絵巻関係資料のデータ化。ならびに、今泉雄作『記事珠』の翻刻・訳注。古美術文献目録の作成。 (3)研究交流促進のための研究会の開催 ユベール・ギメ氏講演 (4)研究成果報告書 『美術研究作品資料第6冊 横山大観《山路》』の編集・作成。	A	順調
4113	ウ 日本を含む東アジア諸地域における近現代美術の研究資料の収集、整理、調査研究を行うとともに、その交流を明らかにする有効な視点と調査研究方法の開発を目指す。また、多様化する我が国の現代美術の動向に関する調査研究を行い、基礎資料を作成する。	①－ウ 近現代美術に関する交流史的研究 東アジア諸地域の近現代美術の研究資料収集、整理として、未公刊資料である黒田清輝宛書簡のデジタル画像作成を進め、併せて黒田作品の調査も行った。東アジア美術交流の調査研究では、日本で学び台湾で活躍した陳澄波の作品調査を行い、さらに台湾から研究者を招聘して交流を図った。我が国の現代美術の動向に関する調査研究としては、笛木繁男主宰現代美術資料センター寄贈資料の整理・調査を進めた。	A	順調
4114	エ 美術や文化財についてのより深い理解を形成するため、彫刻や絵画を中心に、その表現・技法・材料の問題に対して基礎的な情報を収集・整理・蓄積するとともに、関連分野と連携した多角的な調査研究を行う。	①－エ 美術の表現・技法・材料に関する多角的研究 本研究は美術作品が基盤としている表現・材料・技法等を作品の観察、文献資料あるいは科学的手法による分析を実施しながら解明することを目的とする。本年度は絵画・工芸作品を中心に各地で作品調査を進めるとともに、日本の近世絵画、中国の障壁画についての論文掲載、また近世絵画や桃山時代の螺鈿漆器についての発表を行った他、ウェブサイト上で公開している奈良時代の資料にあらわれた彩色語彙についてデータベースの増補を実施した。	A	順調

4121	<p>② 日本の歴史、文化の源流等の実態を探るため、興福寺、仁和寺、薬師寺、三仏寺等、近畿を中心とする古寺社や旧家等が所蔵してきた歴史資料・書跡資料等に関する原本調査、記録作成を悉皆的に行实施するとともに、公表に向けて整理検討を行う。</p>	<p>② 近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究 仁和寺所蔵の中世文書である、御経蔵第150函の1号～216号文書を翻刻し、『仁和寺史料 古文書編一』に公表した。これらは平安時代～室町時代の古文書で、全国各地の仁和寺領莊園に関する未公表の文書を多く含み、日本史研究上重要な史料群である。また、三仏寺所蔵の大日寺瓦経についての調査知見を公表した。この報告により、大日寺瓦経が、数ヶ所の工房で数セット作成されており、現状では日本最大の瓦経群と考えられることを明らかにした。</p>	A	順調
4131	<p>③ 我が国の建造物及び伝統的建造物群に関する調査・研究を実施する。 ア 我が国の文化財建造物の保存・修復・活用に関する基礎データの収集、未指定建造物の調査、古代建築の今後の保存と復原に資するための調査・研究を行い、整理が終了したものより順次公表を行う。また、東アジア地域における文化財建造物の保存・修復について、関係各国に対し協力をうける。 イ 我が国の伝統的建造物群及びその保存・活用に関する調査・研究を推進するとともに、伝統的建造物群の保存を行っている各地への協力をうける。</p>	<p>③ 我が国の建造物及び伝統的建造物群に関する調査・研究 文化財建造物の保存修理に関する基礎データである所内保管資料の整理等の作業を行い、「建造物現状変更説明」については出版物として刊行・配布し、「ガラス乾板」については画像のデジタルデータ化と目録の出版により、一般公開を推進した。また、古代建築の技法に関する再検証作業を継続的に実施した。この他、受託事業により、各種歴史的建造物の調査を行った。</p>	A	順調
4141	<p>④-1 無形文化財の伝承実態に関する基礎的な調査研究及び資料の収集、記録作成を行い、その成果の一部を公開学術講座として発表する。具体的には伝統音楽・伝統芸能で用いる楽器、能楽の文献資料、未調査の音声・映像資料の整理と古い媒体による音声・映像資料の再生及びデジタルアーカイブ化、工芸技術に関する技法書及び工芸技術記録等を対象に調査を行い、能楽及び講談等の記録作成を行う。</p>	<p>④-1 無形文化財の保存・活用に関する調査研究 山口鶯流狂言の伝承、土佐山内家所蔵楽器、個人蔵小鼓胴、日本で開発された長時間レコード（フィルモン音帶）について調査を行い、無形文化遺産部所蔵音声・映像資料の整理、伝承の変化の大きい伝承芸能について実演記録を作成した。</p>	A	順調
4142	<p>④-2 我が国の風俗慣習、民俗芸能、民俗技術等無形民俗文化財のうち、近年の変容の著しいものを中心に、その実態を把握するために資料収集と現地調査を行う。特に民俗技術については、在野の民俗技術の発掘と調査研究、及び手法の模索・確立を目指した重点的研究を行う。また、無形民俗文化財研究協議会を実施し、協議会の成果を報告書にまとめる。協議会では特に、全国関係者のネットワーク構築に努めるとともに、無形民俗文化を研究する国機関として、ポータルサイトやデジタルアーカイブの設置等も視野に入れた情報拠点としての体制の在り方を模索・検討する。</p>	<p>④-2 無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究 民俗技術や風俗慣習、民俗芸能の伝承実態・伝承組織について現地調査と資料収集を行い、その成果を『無形文化遺産研究報告』などに報告した。特に東北の被災地域における無形民俗文化財の現状調査は重点的に行なった。また、無形民俗文化財研究協議会を開催し、無形民俗文化財の保存と活用に関する現実的課題への対応を協議した。その成果は報告書にまとめ、平成25年度に関係者及び関係機関等に配布予定である。</p>	A	順調
4143	<p>④-3 韓国国立文化財研究所無形文化遺産研究室との交流合意書に基づいて、研究員の相互交流を行うなど、無形文化遺産分野の研究交流事業を実施する。</p>	<p>④-3 無形文化遺産分野の国際研究交流事業 韓国国立文化財研究所無形文化遺産研究室との交流事業において、平成23年度に調印した合意書に基づき、研究員の相互派遣を内容とする研究交流を実施した。そ</p>	A	順調

		の他、関係する国際会議・シンポジウム等へ参加し無形文化遺産分野における国際的情報収集を行った。		
4151	<p>⑤ 我が国の記念物に関する調査・研究を実施する。 ア 遺跡等の整備に関する国際的な動向も踏まえた資料収集・調査・整理等を行う。また、過年度の遺跡整備・活用研究集会の成果の取りまとめ及び公表を行うとともに、文化財の包括的保存管理を検討する一環として、遺跡等のマネジメントに関する研究集会を開催する。 イ 遺跡の保存・整備・活用に関する一體的な調査・研究、技術開発の推進及び整備事例のデータベース化等により、個々の遺跡の現況に応じた適切な保存修理・整備に資する。 ウ 遺構露出展示に関するデータベースの構築・公表を行うとともに、今後の補足・追加・更新等に関する内容・手法等を検討する。</p>	<p>⑤-ア・イ・ウ 我が国の記念物に関する調査・研究（遺跡等整備） 遺跡等における遺構露出展示について、データベース構築の作業を進めるとともに、調査研究報告書を刊行した。 また、過年度の成果について、『自然的文化財のマネジメント』〔平成23年度遺跡等マネジメント研究集会（第1回）報告書〕を刊行・配布するなど、その普及等を行なった。</p>	A	順調
4152	<p>エ 庭園に関する文献調査・国内外での現地調査等を行い、研究会を開催するとともに、日本庭園に関する基礎的資料のデータベース化を進め る。 -また、これまで取り組んで来た公開英文情報の増補改訂を行うとともに、所蔵資料の整理を進める。 オ 不動産文化財等に関する各種研究成果について、米国コロンビア大学との研究交流のもとに成果発表を行う。</p>	<p>⑤-エ・オ 我が国の記念物に関する調査・研究（庭園及び国際研究交流） 中世の庭園・建築・文学・美術史などの研究を取り組んでいる研究者とともに「庭園の歴史に関する研究会」を開催し、その成果を報告書としてまとめた。日本庭園に関する国際的な情報発信検討については、その一環として『Japanese Garden Dictionary』の改訂作業を進めた。また、米国・コロンビア大学において、日本の不動産文化財に係る講演2件を行なった。</p>	A	順調
4161-1	<p>⑥ 国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び文化財建造物に関する基礎的調査研究を実施する。 ア 古代都城の実体解明のため、平城京跡においては、平城宮跡東院地区、平城京内諸寺院等、飛鳥・藤原京跡においては、藤原宮跡朝堂院地区、飛鳥地域等の発掘調査を実施するとともに、古代官衙・集落遺跡に関する研究集会、古代瓦に関する研究集会等を実施し、報告書を刊行する。</p>	<p>⑥-ア-1 平城宮跡東院の発掘調査 平城宮跡東院地区の北西部にあたる地区で、掘立柱建物、掘立柱塀、溝、土坑、基壇状遺構など多様な遺構を検出した。これらの遺構は、周辺の調査成果も踏まえて6時期に区分でき、東院地区において活発な土地利用が行われていたことを明らかにした。また、6期中枢部を区画する回廊状建物を検出し、中枢部の範囲をつかむ大きな手がかりを得た。また、平城宮跡内で初の検出となる平瓦を外装とする基壇状遺構を確認した。</p>	A	順調
4161-2	<p>(1) 第16回古代官衙・集落研究集会を開催した（24年12月7・8日）。テーマは「塩の生産・流通と官衙・集落」である。各地の製塩関係遺跡や関連遺物の紹介、文献資料からみた塩の生産・流通などの検討から、製塩土器の評価や古代塩生産の特質など多岐にわたる議論が活発に繰り広げられた。 (2) 昨年度実施した研究集会の報告書を『奈良文化財研究所研究報告第9冊 四面庵建物を考える』として刊行した。</p>	<p>⑥-ア-2 古代官衙・集落遺跡等に関する研究集会の実施、報告書の刊行</p>	A	順調

4161-3		⑥-ア-3 藤原宮跡の発掘調査 (1)174次藤原宮朝堂院部の調査 朝堂院朝庭東北部の発掘調査。この調査では藤原宮造営時の掘立柱建物を新たに数棟検出し、宮造営とともに木屑の大量出土をみた。宮造営時から朝堂院の完成にいたるまでの過程を、より具体的に検討するための成果を得た。 (2)175次藤原宮東方官衙地区の調査 東方官衙北地区の発掘調査を実施し、藤原宮期以前から以後におよぶ堀・建物跡や溝を検出した。特に、藤原宮東方官衙地区では初となる礎石建物跡を検出したことで、藤原宮官衙地区的建物配置の実態解明に重要な手がかりを得た。	A	順調
4161-4		⑥-ア-4 飛鳥地域発掘調査 本年度は檜隈寺中心伽藍跡の南東方向で、昨年度大型柱穴 2 基を確認した調査区の西側と、同じく昨年度素掘溝を確認した調査区の北側について発掘調査を行った。調査区の面積は合計 140 m ² である。大型柱穴は今回の調査区には存在せず、昨年度確認した 2 基が独立した存在であることが判明した。素掘溝は今回の調査区にも続きが確認され、瓦などの遺物が出土し、遺構の年代に関する手掛かりが得られた。檜隈寺成立期の実体解明に繋がる成果が得られた。	A	順調
4162-1	イ 出土遺物及び遺構に関する調査、分析、復原的研究を総合的・多角的に実施し、整理が終了したものより順次公表を行う。	⑥-イ-1 平城京跡出土遺物・遺構の調査研究等 本年度の発掘調査で出土・検出した遺物・遺構の整理・分析研究、図面作成・写真撮影などの基礎作業を行い、平成 25 年度刊行予定の『奈良文化財研究所紀要 2013』の報告を準備した。併せて、昨年度以前の発掘調査で出土した遺物について調査を継続して実施した。	A	順調
4162-2		⑥-イ-2 飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等 本年度の発掘調査により出土した木製品・金属製品・石製品・動植物遺存体・土器・土製品・瓦磧類などの整理、分析研究、及び発掘遺構の図面・写真資料の整理・作成、分析作業を実施し、成果の一部を公表した。	A	順調
4163	ウ 飛鳥時代の壁画古墳についての調査研究を行うとともに、東アジアにおける工芸美術史・考古学研究の一環として、出土遺物を中心とした資料の調査を実施する。また、飛鳥時代木造建築遺物の研究として、山田寺等の飛鳥・藤原京跡内寺院の出土部材の研究を行う。	⑥-ウ 東アジアにおける工芸技術及び飛鳥時代の建築遺物等の研究 (1)キトラ古墳・高松塚古墳壁画に関する研究を続けるとともに、唐・朝鮮半島の古墳壁画に関する資料を収集した。 (2)京都大学総合博物館が所蔵する秋田市小阿地遺跡出土の金銅装大刀について、調査研究を行った。 (3)飛鳥寺塔心礎出土品の再整理を実施した。 (4)山田寺出土部材の計測調査を継続した。	A	順調
4164	エ アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡及び陶磁器に関する調査研究並びに研究協力について、日本の古代都城及び北魏洛阳城等に関する中国社会科学院考古研究所との共同研究、中国の生産遺跡（陶磁器窯跡及び生産品）に関する河南省文物考古研究所との共同研究、遼西地域の都城に関する遼寧省文物考古研究所との共同研究、日韓古代文化の形成と発展過程に関する韓国国立文化	⑥-エ アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究及びカザフスタンへの研究協力 (1)漢魏洛阳城調査の資料整理、衛星写真的解析、ベトナム都城の調査、概要報告書作成の準備作業を実施した。 (2)团山子・西团山子遺跡の予備調査・踏査、朝陽北塔出土遺物等の調査、調査研究報告書中国語報文 2 篇・論文 6 篇の和訳、調査研究報告書の編集作業を実施。	A	順調

	財研究所との共同研究、中央アジア地域出土資料に関するカザフスタン・カザフ国立大学への研究協力及び中国畫井遺跡出土品に関する河南省文物考古研究所への研究協力を協定に基づいて実施する。また、整理が終了したものより順次公表を行う。	(3)河南省鞏義窯で生産した唐三彩の調査研究を実施した。 (4)日韓古代文化の形成と発展過程に関する共同研究、発掘調査交流を実施した。 (5)カザフ国立大学収蔵資料の調査、報告論文 2 件。カザフ国立大学で平城宮跡に関する講演を実施した。 (6)25 年 2 月 20 日～3 月 2 日に中国・香港へ 4 名の研究者を派遣、国際学会等で研究報告を行った。		
4171	⑦ 文化的景観及びその保存・活用に関する調査・研究の一環として、諸外国との比較を行いつつ、我が国の文化的景観保護行政に関する基礎的な情報を探集し、整理が終了したものより順次公表を行う。また、文化的景観の学術及び保護に資する研究会を定期開催し、その成果を踏まえて文化的景観の保護に関する研究集会を開催する。	⑦ 文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究 文化的景観及びその保存・活用に関する調査・研究の一環として、「文化的景観研究集会（第 5 回）」及び「文化的景観学研究会」を開催した他、現地調査等を行い、論文等を通じて成果を報告した。また、「World Heritage Papers 26」の翻訳作業等を進めた。	A	順調
4181	⑧ 我が国の埋蔵文化財及びその保存・活用に関し、以下の調査・研究を実施する。 ア 全国の遺跡に関する資料収集及び分析に有効な指標や手法についての研究を進め、その成果をデータベース化して順次公開する。	⑧-ア 遺跡データベースの作成と公開 官衙関係遺跡の建物データについては、とくに古代における四面廂建物の遺構を重点的に収集し、居宅や集落まで範囲を広げて全国的に網羅する『四面廂建物資料集成』を作成した。また、寺院遺跡の属性分析をふまえたデータベースを、九州から東海地方まで公開した。さらに、井戸のデータベースの対象を古代の遺跡全般に拡充して、資料収集を行った。	A	順調
4182	イ 出土遺物等の材質構造調査を行い、劣化状態に関する基礎データを集積する。また、鉄製品及び木製品の埋蔵環境調査を実施し、埋蔵中に生じる遺物の劣化現象に関して、環境が及ぼす影響の基礎データを集積する。	⑧-イ 出土遺物の材質構造調査、鉄製品及び木製品の埋蔵環境調査 (1)ガラス及び鉱物の標準試料のスペクトルを集積し、ガラス製遺物と石製遺物のスペクトルを取得した。 (2)遺跡から出土した大刀の X C T 撮影を実施することにより、刀装具や柄の構造を明らかにした。 (3)木建造物の塗装の彩色調査を行い、使用された色料について明らかにした。 (4)鉄製遺物の埋蔵環境の室内再現実験を実施し、腐食のメカニズムの解明に取り組んだ。 (5)「古代の織機—古代織機技術研究の最近の動向」をテーマとした研究集会を開催した。	A	順調
4183	ウ 平城宮跡等をフィールドとして、遺構における水分移動及び溶質移動に関する計測と数値解析を行い、遺構の安定化方法を検討するための基礎データを収集する。	⑧-ウ 遺構の安定化方法を検討するための基礎データを収集 土質遺構の露出展示を実施予定の宮畠遺跡を調査フィールドとして、遺構の保護施設（覆屋）内の室空気及び遺構土壤における熱水分同時移動解析を行い、遺構土壤の適切な含水状態の維持及び塩類析出を抑制するための換気条件について検討した。ガランドヤ古墳では石室周辺の熱水分同時移動解析を行い、封土を失い露出した石室が防水シートで覆われていた以前の状に比べて、石室保護施設が設置された	A	順調

	現在は結露性状がどれほど改善されたのかを検討した。また、石室内室空気変化について解析を行い、石室の公開が可能となる時期について検討した。	
--	--	--

(2) 文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進

【中期目標】文化財の研究に関する調査手法の拡充と新たな技術開発を推進すること。

【中期計画】		【主な計画上の評価指標】
(2) 文化財の研究に関する新たな調査手法の研究・開発の推進	文化財の調査手法に関する研究・開発を推進し、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与する。 ①文化財の現状及び経年変化等の記録や解析に応用するため、デジタル画像の形成方法等について研究・開発を実施する。 ②遺跡調査の質的向上及び作業の効率化等を図るため、遺跡の調査手法に関する研究・開発を実施する。 ③木造文化財の年代及び産地の特定等を図るために、年輪年代の調査手法に関する研究・開発を実施する。 ④過去の生業活動の解明等を図るために、動植物遺存体等の調査手法に関する研究・開発を実施する。	
処理番号	年度計画	主な実績
		自己評価 年度 中期

4211	(2) 文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進 文化財の調査手法に関する研究・開発を推進し、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与する。 ① 高精細デジタル撮影により、文化財が本来有する多様な情報を目的に応じて正確・詳細に視覚化するとともに、その公開を目指して、調査・研究を行う。	(2) 文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進 ① 文化財デジタル画像形成に関する調査研究 脆弱な材料で構成されている我が国の貴重な文化財に対して最先端の光学調査を行うことによって得られた高精細画像や特殊撮影画像を分析研究し、さらにその公開による広範な利用を目指して、本年度は宮内庁三の丸尚蔵館との共同調査研究として春日権現記絵、奈良国立博物館との共同調査研究として国宝當麻根本曼荼羅（當麻寺所蔵）他の調査・撮影を実施した。この他、経年変化で判読不能となつジアゾ式温式青焼コピーの撮影による復元研究を行った。	A	順調
4221	② 埋蔵文化財の調査における新たな手法の開発・導入と応用のため、文化財の計測・測量及び探査等に関する研究を行う。	② 文化財の測量・探査等に関する研究 (1)三次元レーザースキャナー及び写真計測による構造・遺物計測の精緻化と迅速化を検討し、実用化を進めた。 (2)地中レーダー探査の作業方法を改良し、探査試験を実施した。 (3)磁気探査機器の多プローブによる同時測定の試験を行い、必要な機器の開発を進めた。 (4)各地の依頼により、計測及び探査を実施した。	A	順調

(3) 科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進

【中期目標】最新の科学技術の活用による保存科学に関する先端的な調査・研究や、伝統的な修復技術、製作技法、利用技法に関する調査・研究を通じて、文化財の保存・修復に係る技術・技法や材料の開発・評価等を推進し、文化財の保存や修復の質的向上に寄与すること。

【中期計画】		【主な計画上の評価指標】
(3) 科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進	最新の科学技術の活用による保存科学に関する先端的な調査・研究や、伝統的な修復技術、製作技法、利用技法に関する以下の調査・研究に取り組むことにより、文化財の保存や修復の質的向上に寄与する。 ①大規模燻蒸に替わるカビ対策のシステム化等を図るために、文化財における生物被害の予防と対策に関する調査・研究を実施する。 ②文化財の状態の安定化等を図るために、文化財の保存環境に関する調査・研究を実施する。 ③文化財の材質分析及び劣化診断の向上等を図るために、計測手法に関する調査・研究を実施する。 ④屋外文化財の修復材料・技法に関する研究及び文化財の自然災害による被害軽減のため必要な調査・研究を実施する。 ⑤文化財に用いられた伝統的な技法及び合成樹脂などの修復材料に関する研究を行い、成果を文化財修復や人材育成に活用する。 ⑥近代文化遺産の保存のための修復材料及び技法の開発評価を行い、成果を保存修復に活用するとともに、海外研究機関との共同研究を推進する。	
処理番号	年度計画	主な実績
	(3) 科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する	自己評価 年度 中期

	中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進 最新の科学技術の活用による保存科学に関する先端的な調査及び研究や、伝統的な修復技術、製作技法、利用技法に関する調査・研究としての課題に取り組むことにより、文化財の保存や修復の質的向上に寄与する。 ① 文化財のカビ被害予防と対策のシステム化について研究を行うとともに文化財のカビの予防、対策が現場でシステムティックに行えるよう、方法論の整理・確立を目指す。被災文化財の救援に関して、生物被害状況の調査及び対策に関わる研究を行う。	点として、先端的調査研究等の推進		
4311	② 保存環境を考慮した文化財の展示・収蔵施設の省エネ化の研究及び環境データやシミュレーション技術を用いた文化財の保存環境改善のための研究を推進する。	① 文化財のカビ被害予防と対策のシステム化についての研究 (1) 被災文化財に発生した微生物被害の状況をとりまとめ、発生しやすかった主な微生物の種類や性質などについて調査研究を実施した。津波の海水に含まれる塩分によって、初期においてはカビなどの微生物被害は淡水の被害の場合よりも起きにくい傾向が明らかにみられたが、長期間湿っていたものでは、黒色、赤色の特徴的な被害がみられ、それに関与する微生物を調査した。 (2) 被災文化財のクリーニングの作業現場や古墳環境などにおいて浮遊微生物の調査を行い、対策との関連を調査した。	S	順調
4321	③ 文化財の材質分析及び劣化診断を目的とした計測手法に関する調査研究を進める。 ア 小型可搬型機器によるその場分析及び非破壊非接触技術による診断・解析手法の確立を目指す。	② 文化財の保存環境の研究 平成 26 年開館予定三重県立博物館の壁付展示ケースをモデルに、調湿した空気を循環させる新方式で、温湿度分布が一様になる条件を予測するため、調湿剤による調湿効果も考慮した気流解析を行った。また、展示ケース内装材料のうち、仕上げクロス・合板について、材料の入手経路や時期、保管状況などの詳細情報がわかる試料について、昨年度提唱した内装材料実測法試案に則り、有機酸及びアンモニア放散速度を実測し、各試料間を比較できるデータを得た。	A	順調
4331	イ ミリ波イメージング装置の改良を行う。また、ミリ波イメージング及びテラヘルツ分光イメージングにより文化財を対象とした測定に必要なデータを収集するための基礎実験を行う。さらに、文化財に用いられている材料のテラヘルツ分光スペクトルの収集を行う。	③-ア 文化財の材質及び劣化調査法に関する研究 小型可搬型機器の開発・改良に関する基礎的研究として、金属や無機化合物に対する分析感度向上、及び有機化合物に対する分光学的手法の検討を行った。また、応用的研究として、平安～江戸期の日本絵画の色彩材料調査を中心に行うとともに、漆工品・金属製品・木彫像などの材質・構造調査を実施した。蛍光X線分析に関するこれまでの調査結果をまとめ、調査報告書を刊行した。	A	順調
4332	④ 日本国内外及び韓国の石造・木質文化財を対象に、劣化要因の解明及び修復材料・技術に関する研究を日韓共同で行う。また、塑造・乾漆造仏像群の災害対策に関する基礎的調査を行う。さらに、被災文化財の救援に関して、被災状況に合わせた救援・保存・修復方法の研究を行う。	③-イ ミリ波イメージングにかかる基礎実験及び装置の改良等 ミリ波イメージングにより、掛軸内部の構造に関する非破壊調査を行った。文化財に用いられている材料のテラヘルツ分光スペクトルの収集とサブミリ波イメージングによる調査を行った。	A	順調
4341	⑤ 伝統的修復技術、漆・膠・糊などの伝統材料及びこれまで使用されてきた合成樹脂の調査・分析・科学的再評価を行い、改良に資する技術開発を行い、これらを併用した修理基準の策定、新規材料の開発を進めつつ、修理現場での応用を行う。	④-1 周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究 石造文化財や木造建造物など屋外にある文化財について周辺環境調査を行った。また、その結果に基づく劣化要因の解明、周辺環境影響の軽減手法及び修復材料・技術の開発・評価を行った。詳細には、(1) 白杵磨崖仏の保存環境制御に関する現地試験及び石造文化財劣化と周辺環境影響に関する調査、(2) 積雪寒冷地における木造建造	A	順調

	物の保存環境に関する調査、(3) 韓文研との共同調査・ワークショップ等を実施した。			
4342	④-2 文化財の防災計画に関する研究 平成 24 年度は、(1) 東日本大震災被災文化財に関する研究では、東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会として警戒区域内での文化財救援活動を実施するとともに、他県での救援文化財一時保管場所について温湿度・生物環境に関する調査を実施した。また、津波水損文化財を対象に修復方法に関する実験を行った。(2) 文化財の地震対策に関する研究では、石造文化財について石造多層塔の現地調査や石灯籠の振動台実験を行った。	A	順調	
4351	⑤ 伝統的修復技術、漆・膠・糊などの伝統材料及びこれまで使用されてきた合成樹脂の調査・分析・科学的再評価を行い、改良に資する技術開発を行い、これらを併用した修理基準の策定、新規材料の開発を進めつつ、修理現場での応用を行う。	⑤ 伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究 本年度は中期計画の枠内にあたり、伝統的な建築文化財の塗装材料である漆塗装や乾性油塗料など過去の塗装修理に関する基礎資料の蓄積を図るとともに、その実績を塗装修理作業の実践的な施工指導に役立てた。合成樹脂に関する調査では、過去を使用した建造物塗装のうちで合成樹脂を使用した際の劣化状態の調査と、伝統素材である膠材料を強化するため、合成樹脂とブレンドした際の塗膜の状態を理解するための基礎実験を行った。また、第 6 回伝統的修復材料及び合成樹脂に関する研究会を開催した。	A	順調
4361	⑥ ドイツ技術博物館との共同研究及び欧米や東南アジアでの保存や修復事例調査を行う。日本郵船小樽支店等での石材やレンガの劣化調査、かかみがはら航空宇宙科学博物館・大樹町航空宇宙実験施設等での測定データの回収と評価、日本航空協会所蔵の紙資料類等の保存修復に関する研究を進める。建造物に使用されているオイルペイントのデータベースを構築する。史跡の構成要素となっている建造物の産業遺産の活用手法に関する研究を進める。	⑥ 近代の文化遺産の保存修復に関する研究 (1) 「動く美術工芸の粹」とも言われる御料車の保存と修復及び活用に関して、関係者を招き、研究会を開催し、御料車の持つ歴史的及び技術的価値、鉄道史における位置づけや車内の美術工芸品に関する保存と修復手法及び台湾にも残る御料車の保存と修復について、発表、討論を行い、保存や修復に関する理解を深め事ができた。 (2) 屋外展示されている大型構造物、鉄道車両や航空機などの文化財の防錆対策のため、試験片を使った屋外暴露試験にて、塗装仕様と劣化速度の相関についても調査した。 (3) 山口県萩市や静岡県伊豆の国市の反射炉など、史跡指定地に建つ建造物や構造物の保存や修復に関する研究を (4) 昨年度の研究会をまとめた報告書を刊行した。	A	順調

(4) 国・地方公共団体の要請に応じた保存措置等のために必要な実践的な調査・研究の実施

【中期目標】	国や地方公共団体の要請に応じて、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急性の高い文化財の保存・修復に係る実践的な調査・研究を実施すること。
【中期計画】	【主な計画上の評価指標】 (4) 高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業等、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、国・地方公共団体の要請に応じて、保存措置等のために必要な実践的な調査・研究を迅速かつ適切に実施する。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
4411	(4) 高松塚古墳・キトラ古墳の保存対策事業等、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、国・地方公共団体の要請に応じて、保存措置等のために必要な実践的な調査・研究を迅速かつ適切に実施する。 ① 文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関して技術的に協力する。	(4) ①-1 文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力 高松塚古墳壁画については、微生物による彩色の汚損被害について、効果が期待される酵素群の利用に関する研究を進めた。また、害虫トランプの設置と浮遊菌調査等を実施して、修理施設の環境保全について継続的に監視を行った。 キトラ古墳壁画については、墓室壁面から取り外した壁画の再構成作業実施にあたり、裏打ち材料の選定、強度の評価等に関する研究を行った。また継続して毎年実施している石室内部の微生物調査を本年度も行った。両古墳壁画に用いられている材料に関して、蛍光X線・分光光度計等を用いた分析調査を行った。	A	順調
4412		①-2 文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力 文化庁が進める国宝高松塚古墳壁画の保存・活用に関する事業が円滑かつ適正に遂行するよう協力した。キトラ古墳では、史跡整備計画にたいして考古学的成果を提供するとともに、石室封鎖前の最終的な考古学的調査を実施した。また、古墳の保存、活用、整備の方向性を検討にするにあたり、技術的な支援・協力を行った。	A	順調
	② 国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地の調査及び保存・活用に関して技術的に協力する。	② 國土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地の調査及び保存・活用に関して技術的に協力する。 年度計画 I 4 (1) ⑥アと一体で実施のため、処理番号 4161-4 を参照		
4431	③ 農林水産省が行う大和紀伊平野土地改良事業大和平野県営飛鳥工区2号幹線の調査及び保存・活用に関して技術的に協力する。	③ 農林水産省が行う大和紀伊平野土地改良事業大和平野県営飛鳥工区2号幹線の調査及び保存活用に関する技術的協力 大和平野支線水路等改修工事に伴う発掘調査で、対象地は藤原京右京七条一坊(橿原市上飛驒町)にある。総長120mの工事区域のうち、東寄りの2箇所に10m×1mの調査区を設け、発掘調査をおこない、残りの100m分は立会で対応した。その結果、古代の溝・柱穴等を検出し、記録した。	A	順調

(5) 有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

【中期目標】有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等に必要な調査・研究を計画的に実施すること。	【中期計画】 (5) 有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究 有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究を実施し、その保存と活用を推進	【主な計画上の評価指標】
--	---	--------------

することにより、次世代への継承及び我が国文化の向上に寄与する。 ①適切な作品の収集・修復計画を立て、分かりやすい効果的な展示など、有形文化財の保存と活用を促進するため、所蔵品・寄託品の基礎的かつ総合的な調査を行う。 ②日本の文化財及び日本の文化に影響を与えたアジア諸地域の有形文化財に関する基礎的かつ総合的な調査・研究を行う。 ③平安時代から江戸時代までの京都文化を中心とした有形文化財の基礎的かつ総合的な調査・研究を行う。 ④仏教美術及び奈良を中心とした有形文化財の基礎的かつ総合的な調査・研究を行う。 ⑤アジアを中心に世界との交流という観点から捉えた、日本文化に関する調査・研究を行う。 ⑥有形文化財の保存と活用の向上を図るために、有形文化財の保存環境・保存修復に関する調査・研究を行う。 ⑦有形文化財の次世代への継承に寄与するため、文化財を活用した効果的な展示や、歴史・伝統文化の理解促進に資する教育活動等に関する調査・研究を行う。	
--	--

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
4511-1	(5) 有形文化財の保存と活用を推進し、次世代に継承して、我が国文化の向上に資するため、その収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究を進める。 ① 収藏品・寄託品等の基礎的かつ総合的な調査・研究 (東京国立博物館) 1) 収藏品・寄託品及び関連品に関する調査研究を行う。	(5) ① 収藏品・寄託品等の基礎的かつ総合的な調査・研究 【東京国立博物館】 1) 収藏品・寄託品及び関連品に関する調査研究 館蔵品・寄託品・それらの関連品及び今後収集・展示の対象となりうる文化財と、その周辺領域に関して、美術史・歴史学・考古学・博物館学等の各見地から学会・研究会・学術雑誌上で各種発表を行った。	A	順調
4511-2	2) 特別調査法隆寺献納宝物（第34次）「聖徳太子絵伝」第8回を行う。	2) 特別調査法隆寺献納宝物（第34次）「聖徳太子絵伝」第8回 本年度は、重要文化財聖徳太子絵伝全4面を調査対象とした。経年の剥落や劣化などによって判別の困難な図様の細部について観察することで、4面に70余りの場面を描く本図の事跡をおおむね確定することができた。またその成果を『法隆寺献納宝物特別調査概報33』「聖徳太子絵伝（四幅本）1」として刊行した。	A	順調
4511-3	3) 特別調査「書跡」第10回を行う。	3) 特別調査「書跡」第10回 平成元年以降当館で収集した書跡分野に属する古筆切と文化庁所蔵の書跡計61件について、作品の名称・古筆切としての通称・制作年代・形状・界線について確認した。断簡は原典推定をし、可能な限り『国歌大観』の収載番号との照合を行った。合わせて原装丁の推測、使用された料紙の紙質分析の検討も合わせて行った。今回の調査対象について記載文字を可能な限り解説し書跡情報を収集した。また対象全件について法量を計測し、一部について撮影を行った。	A	順調
4511-4	4) 特別調査「工芸」第4回を行う。	4) 特別調査「工芸」第4回 東京国立博物館の金工・陶磁・漆工の列品について、最新の研究結果を反映させた	A	順調

4511-5	5) 特別調査「彫刻」第2回を行う。	知見を共有することができた。金工調査では、当館所蔵の密教法具は平安時代～鎌倉時代の優品がバランスよく揃っていることが確認され、從来展示に供される機会が少なかった作品についても今後積極的に活用する契機を得た。陶磁調査では、類例比較により、20世紀初頭の日本における中国陶磁コレクションの形成に関する新たな知見を得ることができた。漆工調査では、香道具の形式にとらわれない性質について認識を深め、特に香菓筒には汎用の提菓筒を用いた場合もあることを確認した。	
4511-6	6) 特別調査金地屏風の金箔地についての調査研究を行う。	5) 特別調査「彫刻」第2回 東京国立博物館の大型の中国石仏2躯の展示作業の際に上記スタッフ立会いのもと、前後左右斜め等多方向からの撮影を行った。このような写真は從来撮影されていなかった。 東京国立博物館所蔵の東南アジア彫刻の調査を行い、陳列に適した作品を抽出し、東洋館12室「東南アジアの金銅像」の展示に5点を活用した。おそらく収蔵以来初めての展示と考えられる。 岐阜県高山市薫泉寺本尊聖観音菩薩立像を調査。鎌倉時代の都ぶりの作で、市内では数少ない鎌倉彫刻として紹介する文章の準備を進めた。	A 順調
4511-7	7) 油彩画の材料・技法に関する共同調査を継続して行う。	6) 特別調査金地屏風の金箔地についての調査研究 これまで蓄積したデータの確認と現段階での追調査の必要項目について検討した。国宝「繪図屏風」の金箔地について蛍光X線分析、赤外線による調査を行い、これまでの結果を踏まえて検討した。また、迅速かつ安全に屏風調査の蛍光X線分析を行うための道具の検討を行い、新しい蛍光X線分析装置導入へ向けての準備を行った。	B 要注意
4511-8	8) 名物裂を用いた表装裂の復元に関する共同研究を継続して行う。	7) 油彩画の材料・技法に関する共同調査 平成20年11月から開始し本調査は、本年度3年間の調査期間の締結を更新し、さらなる調査を進めている。本年度調査が終了した作品は、19点である。24年11月12日から本館特別1室で開催した特集陳列「東京国立博物館140周年特集陳列 グラスゴーから来た西洋画—博物館草創期の国際交流1」にて作品の一部を展示了。	A 順調
4511-9	9) 漆塗籠棺残片の保存に関する共同研究を行う。	8) 名物裂を用いた表装裂の復元に関する共同研究 前田家伝来名物裂に関する調査を5回（平成23年度2回、平成24年度3回）開催し、金襴を中心に平成23年度35点、平成24年度74点の名物裂の調査を実施した。本調査によって製作に関する技術及び材料に関して科学的な観点からのデータを取得すことができた。	A 順調
4511-10	10) 板谷家を中心とした江戸幕府御用絵師に関する総合的研究を行う。	9) 漆塗籠棺残片の保存に関する共同研究 ・漆塗籠棺残片の保管履歴を整理し、現状を確認した。 ・理化学的調査分析の計画を策定し、実行した。 10) 板谷家を中心とした江戸幕府御用絵師に関する総合的研究（科学研究費補助金） 伝来資料について、3,231点（7,449カット）の撮影を終了するとともに、並行して新たな知見の整理、絵画資料の調査、古文書の翻刻を行った。また、スタッフによる研究会を2回開いたのに加え、本年度は特に板谷家が手がけた「東照宮縁起巻」及	A 順調

4511-11	11) 文化財保護の歴史に関する基礎的研究を行う。	び板谷家の本家にあたる住吉家に関する資料を調査し、東叡山寛永寺（24年6月8日）、日光山輪王寺（24年11月20～21日）及び東京藝術大学美術館（25年2月22日）にて作品の調査撮影を行った。	
4511-12	12) 占領期の教育政策における国立博物館の役割に関する調査研究を行う。	11) 文化財保護の歴史に関する基礎的研究（科学研究費補助金） 東京国立博物館が収蔵する文化財保護に関する作品や資料について、展示履歴などの情報を参考にして作成した調査対象リストをもとに、デジタルカメラによる記録撮影やスキヤニングによるデータ収集を行い、その分類法についても検討した。また、特集陳列の開催などによる研究成果の公開や、国内外の博物館における文化財保護の歴史に関する事例の調査を実施した。	A 順調
4511-13	13) 宮廷工芸に関する物質文化的研究を行う。	12) 占領期の教育政策における国立博物館の役割に関する調査研究（科学研究費補助金） 育児休業のため研究中断	F
4511-14	14) 古筆切紙背の史料学的研究を行う。	13) 宮廷工芸に関する物質文化的研究（科学研究費補助金） 本年度は、東京国立博物館、国立公文書館、東洋文庫、天理大学図書館、葵祭行列保存会を中心調査・撮影を行った。	A 順調
4511-15	15) 家型埴輪の群構成と階層性からみた東アジアにおける古墳葬送儀礼に関する基礎的研究を行う。	14) 古筆切紙背の史料学的研究（学術研究助成基金助成金） ・平成24年度に確認した過去に刊行されている古典籍の複製本類の写真版を中心に、紙背の内容について網羅的に調査した。 ・当館寄託の手鑑1件と古筆切19件について高精細画像の撮影を行い、データを蓄積した。	A 順調
4511-16	16) 絵巻の〈伝来〉をめぐる総合的研究を行う。	15) 「家型埴輪の群構成と階層性からみた東アジアにおける古墳葬送儀礼に関する基礎的研究」（学術研究助成基金助成金） 科学研究費補助金C・B（2000～2002・2005～2007年度）による調査・研究成果に基づき、連携研究者及び各地の研究協力者と共に研究会を組織・開催し、各地の主要古墳出土埴輪群の分析結果を検討すると共に、古代窯業生産体制に関する先行研究の分析・討論を行った。 また、本年度は主に近畿・中国地方で補足調査を実施し、発掘調査によって家形埴輪を含む埴輪配列が確認された良好な家形埴輪資料を再度精査して、埴輪樹立時の群構成と配置・階層性を復元する基礎資料を整備した。	A ほぼ順調
4511-17	17) 近現代における古日本染織の移動とコレクション形成に関する基礎的研究を行う。	16) 絵巻の〈伝来〉をめぐる総合的研究（科学研究費補助金） 本年度は、絵巻の伝来、鑑賞歴といった情報を収集するため、まず、古代中世の文献資料に記載された絵巻関係資料の抜き出しとデータ化を進めた。また、東京国立博物館所蔵絵巻模本の調査に着手し、主に近世に制作された模本から作品所蔵情報を得る基盤を整えた。同時に、近代における作品の移動等に関する情報を収集するため、東京文化財研究所所蔵の売立目録の調査を開始し、そこに記載された情報のデータ化を進めた。	A 順調
		17) 近現代における古日本染織の移動とコレクション形成に関する基礎的研究（科学研究費補助金）	A 順調

4511-18	18) 狩野晴川院養信による寺社宝物模本の基礎的研究を行う。	本年度は、旧松坂屋染織参考館が蒐集した古染織作品、及び、ロサンゼルス・カウントディ美術館に所蔵される在米個人コレクターが蒐集した江戸時代の日本の袈裟コレクション、現在サンフランシスコ・ミルズ・カレッジ付属美術館に所蔵される野村正治郎が蒐集した江戸時代の袱紗、同じく、サンフランシスコ・デヤング美術館にある米コレクターの古日本染織コレクションを調査し、明治後期から大正期、昭和初期にかけて国内外で蒐集された古日本染織コレクションのデータを集積し、その傾向等の分析を行った。	
4511-19	19) 創立150年へ向けた館史編纂のための基礎的な資料整理と調査を開始する。	18) 狩野晴川院養信による寺社宝物模本の基礎的研究（学術研究助成基金助成金） 本年度は、膨大な木挽町狩野派関係の模本類から寺社宝物の模本を選別する作業を引き続き実施し、該当するものについて基礎調査と撮影を実施した。また本研究をまとめるにあたり、特異な模本制作のケースが見られる天保十一年と同十四年に注目し、養信自筆の公務に関する記録「公用日記」も活用しながら一連の模本制作について調査・研究を推進した。加えて寺社宝物に的を絞った模本データベースを作成し、制作者一覧などと共に公開した。	A 順調
4511-20		19) 創立150周年へ向けた館史編纂のための基礎的な資料整理と調査（学術研究費補助金） 館内各所から収集した、館史関係の文書記録・刊行物類を整理して目録を作成し、今後の館史編纂の利用に供することができるようとした。	A 順調
4511-21		20) 中世聖徳太子絵伝の図様展開に関する調査研究（学術研究費補助金） 聖徳太子絵伝は現在40件ほどが知られており、それらは想定される享受環境の違いによって画面形式や図様・画面構成に違いがあり、制作集団の違いも想定されている。各々の作品群の詳細な分析と、他の関連作品との比較検討を行なうため、館蔵品、寄託品、および館外作品の調査研究を始めた。あわせて、太子絵伝と密に関わる中世太子伝諸本から各年代の事蹟を比較参照できるよう、データ化を行った。	A 順調
4511-22		21) 寄贈品に見る草創期の博物館におけるコレクション形成と美術品の移動（学術研究助成基金助成金） 東京国立博物館の収蔵品のうち、寄贈品、もしくは寄贈品の可能性があるものについて抽出し、エクセルデータを整理した。館史資料の調査により、寄贈に関する情報が収集された。 また、寄贈者情報の整理により、研究対象としている博物館創設から明治19年にかけての寄贈者292名の生没年、職業等をすべてではないが判明させることができた。	B ほぼ順調
4511-23		22) 武家女性の衣生活に関する基礎的研究（学術研究助成基金助成金） 本年度は、本研究の基盤となる大名家文書のデータベースの作成に重点を置き、研究を進めた。また、適宜、武家伝来の染織品の実物調査を行い、次年度以降の史料と実物資料との研究・考察に備えた。また文書資料や実物染織品以外にも視野を広げ、関連する周辺資料の収集も行った。	A ほぼ順調
		23) 繩文時代における浅鉢形土器の研究（学術研究助成基金助成金） 本年度は文献の悉皆調査（発掘調査報告書等）による、遺跡出土の浅鉢のデータベ	A ほぼ順調

4511-24		ース化を進めた。また併せて資料の実見・計測・観察を行った。その成果として、当該研究に関連する誌上発表と、研究論文を発表することができた。	
4511-25		24) 刀装具一派後藤家の鑑定 極帳（鑑定控）の整理に基づく鑑定の様相と価値付けの考察（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金） 本年度は後藤家文書の撮影を行い、部分的な翻刻作業に着手した。また、史料の検討を行い、極帳の概要について発表を行った。	A 順調
4511-26		25) 視覚表現とコレクションの形成に見る縄文土器の美術的受容に関する研究（科学研究費補助金） 青森県立郷土館・弘前大学亀ヶ岡文化研究センター・大阪大学学術総合博物館・京都大学文化財総合研究センター・ギメ東洋美術館・チャルヌスキ美術館で作品調査、是川縄文館・MIHO MUSEUM・大阪府立弥生文化博物館・京都造形芸術大学芸術館で見学及び資料収集を行った。本研究成果は、国立歴史民俗博物館共同研究「歴史表象の形成と消費文化」研究会での発表と、神奈川県立歴史博物館「勝坂縄文展」での記念講演により一般に公開した。	A 順調
4511-27		26) 諸先駆の作品調査・画像資料類の保存と活用のための研究・開発（科学研究費補助金） 昨年度に引き続き本年度も、日本の絵巻研究の第一人者である梅津次郎氏の自筆調書類、紙焼き写真類、研究資料類等の調査・研究を行った。東京文化財研究所は梅津次郎氏の没後、1988年と2008年の2度にわたり、氏のご遺族より研究資料の寄贈を受けたが、そのうち、自筆調書類の整理を進めた。調書の中には現在は所在不明な作品も含まれ、今後、研究資料としての活用が大いに期待される。 また、松本榮一氏・熊谷宣夫氏・上野アキ氏などの西城美術研究者たちが、スタン・ペリオ、ル・コック及び大谷探検隊などの中央アジア探検家たちが残した資料や記録などについて、どのようにしてその資料化を図り、西城美術研究を構築していくかを調査・研究した。	A 順調
4511-28		27) 絵巻に描かれた「場」と「もの」に見る中世日本の重層的世界觀に関する研究（科学研究費補助金） 本研究では中世絵巻に描かれた多様な「場」を「型」として捉え横断的に検討する。特に、異国（唐・天竺・蝦夷など）や異域（地獄・極楽・竜宮など）、そして神仏化現の舞台となる架空の「場」を構成する建築や環境、そしてそこで用いられる「もの」が、どのように「本朝」のそれと描き分けられ、関連付けられているのか、描かれた「場」の抽出・収集と分析を行った。本年度は特に「聖徳太子絵伝」、「華厳宗祖師絵伝」の検討を進めた。	A 順調
		28) 描いた女性たちに関する研究－桃山時代から明治・大正期まで（科学研究費補助金） 当館の特集陳列「女性画家」（24年6月5日～7月29日）の開催に合わせ、女性画家による作品の調査を行い、展示作品選定等で助言を行った。ついで、山梨県立美術館「十一屋コレクションの名品」を見学し、野口小蘋の作品とその社会的要因につい	A 順調

4511-29	<p>て調査を行った。また、実践女子大学の科研メンバーと協力し、防府・尾道・福山で、上田琴風、平田玉蘿他の作品調査（2月 23 日～26 日）を行い、女性画家に関するデータ収集に協力し、外部研究者と連携した質の高い研究を行うことができた。</p> <p>次年度以降、外部との協力により当館所蔵の女性画家資料に対する研究を進める準備体制も確立した。</p> <p>29) 日本とドイツの美術解剖学教育の発展と展開（科学研究補助金）</p> <p>東京国立博物館所蔵の美術解剖学関係資料、特に森鷗外・久米桂一郎・黒田清輝に関する資料調査を実施し、我が国における美術解剖学及びその教育に関する重要な資料が当館所蔵資料に存在する事がわかった。その研究成果は特集陳列「美術解剖学－人のかたちの学び」において、一般に公開するとともに、美術解剖学雑誌（美術解剖学会研究誌）、東京国立博物館ウェブサイト：1089 ブログ「美術解剖学のことば」等において公開した。</p>	A ほぼ順調
4512-1	<p>（京都国立博物館）</p> <p>1) 訓点資料としての典籍に関する調査研究を行う。</p>	A 順調
4512-2	<p>2) 彫刻に関する調査研究を行う。</p>	A 順調
4512-3	<p>3) 出土・伝世古陶磁に関する調査研究を行う。</p>	A 順調
4512-4-1	<p>4) 平成 24 年度から 25 年度に開催する特別展覧会等について、調査研究を行う。</p>	A 順調
4512-4-2	<p>4) - 1 特別展覧会「古事記 1300 年 出雲大社大遷宮 大出雲展」に関する調査研究</p> <p>展覧会の開催が 24 年 7 月からであるため、現地における社寺調査は昨年度までにはほぼ済ませている。本年は補足調査と写真撮影を若干行った以外は、昨年までの調査の成果に基づき、展覧会のための作品選定及び会場での展示案の作成、図録の原稿執筆及び編集、作品の安全な借用、梱包、輸送、展示、撤収、返却を行った。</p> <p>4) - 2 特別展覧会「宸翰 天皇の書—御手が織りなす至高の美—」に関する調査研究</p> <p>以前から継続する博物館内外での宸翰（天皇の書）の調査をふまえ、24 年 10 月～11 月にかけ、特別展覧会を開催、あわせて展覧会図録を刊行し、国際シンポジウムや関</p>	A 順調

4512-4-3	<p>連する講演・講座を実施した。総じて、各時代を彩った天皇の個性豊かな文字、時代とともに変遷する書風、日本美術における「書」の独自性を歴史的・美術的な側面から広く紹介することができた。</p> <p>4) - 3 特別展覧「国宝 十二天像と密教法会の世界」に関する調査研究</p> <p>(1) 作品調査：24 年 8 月 22 日、23 日に仁和寺現地調査及び写真撮影実施。24 年 11 月 15 日、16 日東京国立博物館調査</p> <p>(2) 事業：仏教美術研究上野記念財団主催の研究発表と座談会「仁和寺御流を中心とした院政期真言密教の文化と美術」（25 年 1 月 14 日開催）を実施した。</p> <p>(3) 成果：展覧会図録及びシンポジウムの開催によりその成果を論文及び作品解説として公表することができた。</p>	A 順調
4512-4-4	<p>4) - 4 特集陳列「成立 800 年記念 方丈記」に関する調査研究</p> <p>鴨長明が著した仏教説話集である『発心集』の断簡を調査し、巻第二の「安居院聖行京中時隱居僧值事」の一節であることを確認し、書写年代も調査の結果、鎌倉時代とした。同じく、鴨長明が著した歌謡書『無名抄』（重文、東京国立博物館蔵）も調査し、『方丈記』を含めた鴨長明の三大著作を展示できるようにし、全体で 18 件の作品を選択した。</p>	A 順調
4512-4-5	<p>4) - 5 特別展覧会「狩野山楽・山雪」に関する調査研究</p> <p>出品候補作品の調査・出品交渉、関連文献の調査等を行った。</p>	A 順調
4512-4-6	<p>4) - 6 特別展覧会「魅惑の清朝陶磁」に関する調査（学術研究助成基金助成金）</p> <p>日本国内伝世・出土の中中国清朝陶磁器 41 件の調査を実施し、メモ写真の撮影と共に調書の作成を行った。展示候補作品を含む、寄託品 22 件・寄贈品 60 件を受け入れた。</p>	B ほぼ順調
4512-4-7	<p>4) - 7 特別展示「【時空を超えた運命の出会い】古代青銅鏡とフェラーリ F 1 美の競演」に関する調査研究</p> <p>現代の先端技術で再現した京都国立博物館所蔵の三角縁神獸鏡の鏡面に現代最高レベルのレーシングカーが映る展示は、来館者に大きなインパクトを与えた。また、入場無料の展示としたことも、普段博物館に足を運ばない人たちに博物館の存在をアピールすることができた。</p>	A 順調
4512-5	<p>5) 漆工芸に関する調査研究（科学研究費補助金）</p> <p>昨年度のスイスでの調査に引き続き、本年度は国内に伝世する東京の白山松哉とその弟子たちによる蒔絵の技法をつぶさに観察することができ、おぼろげながら京都の伝統技法とのちがいを知ることができた。ボストン美術館やハーバード大学美術館に所蔵されている蒔絵作品をまとめて見ることができ、19 世紀末から 20 世紀初頭にかけてビゲローや岡倉天心らが蒐集した蒔絵の実態と、六角紫水の蒔絵図録原稿を確認することができた。フランスのアントワヌ・ヴィヴネル美術館、ルーヴル美術館、ディジョン美術館では、日本の開国前に収集されたことが明確なティエール大統領のコレクションや、18 世紀フランスにおいて蒔絵を模造した工房のストックなどの新資料を調査することができ、ヨーロッパにおける京都製蒔絵の受容のありようをより鮮やかに知ることができた。</p>	A 順調

4513-1	(奈良国立博物館) 1) 館蔵品・寄託品等の基礎的・総合的調査を進め、作品の適切な収集及び魅力的な展示に反映させる。	【奈良国立博物館】 1) 館蔵品・寄託品等の基礎的・総合的調査を進め、作品の適切な収集及び魅力的な展示に反映させる。 仏教美術及び奈良に縁深い文化財を柱とする当館の運営方針に沿って精選された文化財を、新たに館蔵品・寄託品に加えた。受け入れに際しては詳細な調査を実施した。名品展では、収蔵施設の修理等の事情で一時的に寄託された近在社寺所蔵の重要作例を、調査の後に展示（特別公開）した他、ここ数年に修理された文化財をまとめて形で公開するなどの実績を挙げた。館蔵品・寄託品等の継続的な調査の成果は、展示会場内の解説や各種刊行物等に反映させた。	A	順調
4513-2	2) 歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	2) 歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。 歴史学・考古学・美術史学等、各研究者がそれぞれの専門分野に沿って館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果は展示・刊行物・講座における作品解説等に反映された。調査研究活動の展開にあたっては、これを個人単位で行うだけでなく、研究分担者・連携研究者として各種科研に参加するなど、外部の研究プロジェクトにも積極的に関わり、より広い視野に立って学界に貢献する実績を挙げた。	A	順調
4514-1	(九州国立博物館) 1) X線CTスキャナによる青銅器・彫刻・漆工などの構造技法解析を行う。	【九州国立博物館】 1) X線CTスキャナによる青銅器・彫刻・漆工などの構造技法解析（科学研究補助金・学術研究助成基金助成金） 泉屋博古館の所蔵品を中心にX線CT、3Dデジタイザ、三次元プリンタ等の科学調査機器を用いて、中国古代青銅器の内部構造データを系統的に集積したデジタルアーカイブを構築した。この成果は、日本文化財学会及び、中国考古学会で研究発表を行った。	A	順調
4514-2	2) 平成20年度特別展「工芸のいま 伝統と創造」に関連した九州・沖縄の伝統工芸作家への調査を受けて、継続的かつ発展的に調査研究活動を行う。	2) 平成20年度特別展「工芸のいま 伝統と創造」に関連した九州・沖縄の伝統工芸作家への継続的かつ発展的な調査研究 平成24年度西部工芸展、日本伝統工芸展など本年度開催の工芸展で作品調査を行った。陶芸、染織の作家への聞き取り調査などを継続し、さらに本年度は金工（芦屋釜）の作家の調査を行った。	A	順調
4514-3	3) 日本中世の工芸、特に茶道具に関して研究し、展示に反映する。	3) 日本の中世の工芸、特に茶道具に関する調査研究 本年度のトピック展示「茶の湯を楽しむV 芦屋釜と館蔵茶道具」を行ふにあたり、芦屋釜の里の全面的な協力のもと芦屋釜の基礎的な研究を行った。また、陶磁器では、出品した作品の中で彌唐津茶碗及び華南三彩陶に関する基礎的な研究を行った。また、次年度展示予定の「煎茶」をテーマにした研究では、紫砂壺についての調査を行った。	A	順調
4514-4	4) 印籠に関して研究し、展示に反映する。	4) 印籠に関する調査研究 (1) 本調査研究により、クレス氏所蔵印籠コレクションの全貌が明らかにすることができた。 (2) コレクションに含まれる近世初期の作や在銘作といった貴重な作例を通じて、当	A	順調

4514-5	5) 対馬宗家文書の研究を行ない、展示に反映する。	時の制作技法や制作状況の一端を解明することができた。 (3) 本調査研究の成果として、クレス氏所蔵印籠コレクションを日本で初公開する展覧会を開催することができた。 (4) 展覧会の開催により、日本の誇る印籠文化について、観覧者に多くの情報を提供することができた。	A	順調
4514-6	6) 中世大般若経の史料学構築に向けての基礎的研究を行う。	5) 対馬宗家文書に関する調査研究 現在8万点に及ぶ対馬藩の文書・記録類を所蔵する長崎県立対馬歴史民俗資料館では、35年にわたる対馬宗家文書の調査が昨年度に終了し、平成24年にはその一部が国の重要文化財に指定された。その調査には九州国立博物館の職員も参加してきており、本年度は長崎県立対馬歴史民俗資料館との共催で、トピック展示「重要文化財新指定記念 朝日交流の軌跡—対馬宗家文書8万点の調査を終えて」及び関連シンポジウム及び講演会を実施した。	A	順調
4521-1	② アジア諸地域の有形文化財に関する基礎的かつ総合的な調査・研究 (東京国立博物館) 1) 館蔵の漢籍・洋書に関する基礎的研究を行う。	6) 中世大般若経の史料学構築に向けての基礎的研究（学術研究助成基金助成金） 自治体史及び刊行された史料集を博搜して、中世大般若経に関連する資料を収集した。また、自治体教育委員会のウェブサイト等から自治体指定の大般若経に関する情報を探集した。また、韓国国立中央博物館にて大般若経の展示を視察した。 ② アジア諸地域の有形文化財に関する基礎的かつ総合的な調査・研究 【東京国立博物館】 1) 館蔵の漢籍・洋書に関する基礎的研究	A	順調
4521-2	2) 東洋民族資料に関する調査研究を行う。	(1) 漢籍は、これまでに江戸幕府旧蔵資料である医学関係のものを中心に調査を行つてきたが、一段落がついたため、全体の調査に着手し、計30,000冊のうち、昨年度は485冊、本年度は10,694冊の書誌学的調査を終了した。 (2) 洋書については、全973点の書誌データの図書館システムへの入力を終了した。	A	順調
4521-3	3) 東アジアの書道史における料紙と書風に関する総合的研究を行う。	2) 東洋民族資料に関する調査研究 東洋民族の收藏品のうち、台湾のタオ族の生活及び宗教儀礼にかかわる資料について詳細に調査した。調査で得られた情報をデータベースに反映させることで、研究・陳列・保管・修理などに資する基礎情報が従来よりも一層充実した形で整備された。	A	順調
4521-4	4) 中国書画の表装に関する基礎的研究を行う。	3) 東アジアの書道史における料紙と書風に関する総合的研究（科学研究費補助金） 装飾料紙を用いた古筆・典籍を中心に、これまでに作成した対象作品のリストから調査を進めた。国内では、東京国立博物館・京都国立博物館・九州国立博物館・陽明文庫（京都）・筆の里工房（広島）等、海外では中国の香港芸術館・銀雀山竹簡博物館・臨沂市博物館・鄒県博物館・山東省博物館等、アメリカはホノルル美術館・サンフランシスコアジア美術館等に収蔵されている作品について、デジタル写真撮影と、作品の筆跡及び料紙に関する調査を実施した。 4) - 1 中国書画の表装に関する基礎的研究（科学研究費補助金） 『装潢史』明・周嘉胄などの中国歴代の文献から、書画の表装に関する記載を收集・	A	順調

		整理した。また、プリンストン大学付属美術館・香港中文大学文物館・京都国立博物館・大阪市立美術館・五島記念美術館・台東区立書道博物館に所蔵される主として中国の書画を調査し、表装の諸データ及び画像データを収集した。		
4521-5		5) 光学的調査に基づく高雄曼荼羅の発展的研究（科学研究費補助金） 高雄曼荼羅2幅のうち金剛界曼荼羅について、高精細デジタルカラー及び赤外線の画像撮影を、京都国立博物館にて実施した。また日本密教との関連が指摘されているインドのオリッサ州で出土した密教系の遺物を調査するため、ラトナギリ、ウダヤギリ、ラリタギリなどの遺跡を踏査するとともに、オリッサ州立博物館、インド博物館（コルカタ）、国立博物館（デリー）にて調査を実施し、高雄曼荼羅の源流を考察するのに有力な資料を得た。	A	ほぼ順調
4521-6		6) 仁寿舍利塔の信仰と莊嚴に関する総合的調査研究（科学研究費補助金） 中国各地において現地調査を行い、仁寿舍利塔起塔寺院に関する多くの地理的データ及び、文献的資料を多数収集することができた。	A	順調
4521-7		7) 南宋絵画史における仏画の位相—都と地域、中国と周縁— ・作品調査：東京国立博物館所蔵品、閩西を中心とする美術館、及び中国での現地調査を含む作品調査を行った。 ・事業：中国での学会参加、作品調査を行った。 ・成果：論文と研究発表、講演の形で公開することができた。	A	順調
4521-8		8) 東アジアにおける木彫像の樹種と用材観に関する調査研究（科学研究費補助金） 国内木彫像の調査によって、多数の木片試料を得ることができた。今後の樹種同定によって用材観の変化・形成に関する重要な知見が得られると予想される。また、中国調査によって、中国におけるカヤ、ヒノキ等の位置付けがある程度明確化した。国内への影響を考慮する際の有用な情報収集が行えたと考えている。	A	順調
4521-9		9) 唐宋時代の越州窯青磁、碗類の器形の変遷について（茶道文化学术助成金） 大英博物館にてデヴィッド・コレクション龍涛文碗他完形品4点と陶片資料11点の作品調査を行い、大英博物館及びアシュモレアン博物館（イングラム・コレクション）、フィッツウィリアム博物館にて資料収集を行った。	A	ほぼ順調
4523-1	(奈良国立博物館)	【奈良国立博物館】 1) 中国・韓国などアジア諸国の文化財に関する調査研究を積極的に進め、日本の文化財との比較検討や相互理解に資する。	A	順調
4523-2		2) 日本とアジア諸国の文化交流に関する調査研究を進め、その成果を展示や公刊物等に反映させる。 名品展「珠玉の仏たち」「珠玉の仏教美術」の陳列替えに備えて、また「第64回 正	A	順調

		倉院展」開催に向けて、各研究員が出陳品に関する調査と研究を行い、その成果を展示キャプションや図録の論文執筆に反映させた。また、日本とアジア諸国の文化交流に関する外部の研究プロジェクトにも積極的に参加し、研究発表・論文等を通してその成果を公表した。		
4524-1	(九州国立博物館)	【九州国立博物館】 1) 中国南京博物院所蔵絵画、鎮江焦山碑刻博物館所蔵拓本の研究を行ない、展示に反映する。	B	ほぼ順調
4524-2		2) ベトナムにおける16～17世紀の海外交易に関する研究を行い、将来の特別展に反映する。	A	ほぼ順調
4524-3		3) 朝鮮半島、三国時代の考古・美術に関する調査研究を行い、将来の特別展に反映する。	A	順調
4524-4		4) 九州における対外交流文化財の保存と活用に向けた研究基盤を創設する。	A	順調
4524-5		5) タイにおける異文化の受容と変容—13世紀から18世紀の対外交易品を中心として —（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金） (1) 上記スタッフに加え、館外の協力者にも協力を仰ぎ、タイにて調査を行った。タイ王国文化省芸術局の協力を得て、本年度は、バンコク、北タイを中心に、彫刻、歴史、考古、工芸班にて国立博物館資料及びプライベートコレクションを調査し、現地研究者との意見交換を行った。調査の成果については、同プロジェクト報告会にて発表し、その一部を報告書として現地に還元した。 (2) 日本国内に伝わったタイ由来文化財の調査を行い、日タイ文化交流を示す文化財の正しい評価を行った。	A	順調

4532-1	<p>③ 京都文化を中心とした有形文化財の基礎的かつ総合的な調査・研究 (京都国立博物館)</p> <p>1) 近畿地区(特に京都)社寺文化財の調査研究を行う。</p>	<p>③ 京都文化を中心とした有形文化財の基礎的かつ総合的な調査・研究 【京都国立博物館】</p> <p>1) 近畿地区(特に京都)社寺文化財の調査研究(科学研究費補助金) 京都府宇治田原町の禅定寺で彫刻及び工芸作品の調査を行い新資料を発見した。また京田辺市の観音寺・壽寶寺において彫刻・工芸・絵画・考古資料の調査を行い新知見が得られた。</p>	A	ほぼ順調
4532-2	2) 近世絵画に関する調査研究を行う。	2) 近世絵画に関する調査研究 当館発行の『学叢』第34号に、次の論文を執筆し、館蔵品の文化財的価値を明らかにした。 山下善也「狩野山雪筆聖賢図押絵貼屏風について」	A	達成
4532-3		3) 近畿旧家伝文化財総合調査 陶磁378件、人形35件、漆工67件、金工52件、絵画57件の調査書作成、ならびに資料写真撮影を行った。併せて、今後の調査の基礎資料とするべく、所蔵者側から提供を受けた古書画・器物リストをパソコンにデータ入力し、データベース化した。	A	順調
4542-1	<p>④ 仏教美術及び奈良を中心とした有形文化財の基礎的かつ総合的な調査・研究 (京都国立博物館)</p> <p>1) 鎌倉仏教とその造形に関する調査研究を行う。</p>	<p>④ 仏教美術及び奈良を中心とした有形文化財の基礎的かつ総合的な調査・研究 【京都国立博物館】</p> <p>1) 鎌倉仏教とその造形に関する調査研究 (1) 仏教美術研究上野記念財団の助成によって、鎌倉仏教に関する資料の調査・撮影を実施し、その成果の一部を特別展覧「国宝 十二天像と密教法会の世界」に反映させた。 (2) 平成23年度に実施した研究座談会の報告書「浄土宗の文化と美術」を刊行した。 (3) 研究発表と座談会「仁和寺御流を中心とした院政期真言密教の文化と美術」を開催した。</p>	A	順調
4543-1	(奈良国立博物館)	<p>【奈良国立博物館】</p> <p>1) 平成25年度特別展「當麻寺展(仮称)」「遼寧省遼代仏教文化展(仮称)」、26年度特別展「内山永久寺展(仮称)」「百濟展(仮称)」など、将来の特別展実施に向けた調査研究を行う。</p> <p>平成25年度特別展「當麻寺」、特別展「仏教美術入門(仮)」、26年度特別展「内山永久寺(仮)」、特別展「百濟(仮)」、27年度特別展「快慶(仮)」、将来予定される特別展「中国遼寧省遼代仏教文物展(仮)」等に向けて関連する文化財を調査した。うち内容がほぼ確定している特別展(「當麻寺」等)については、特定文化財の重点的な調査を実施した。また、他機関との共催展(「中国遼寧省遼代仏教文物展」等)については、相手先との学術面での協議や合同調査を実施した。</p>	A	順調
4543-2	2) 南都諸社寺等における文化財調査を積極的に実施して宗教文化に関する調査研究の成果を蓄積し、毎年恒例の特別陳列「お水取り」「おん祭と春日信仰の美術」、24年度御遠忌800年記念特別展「解脫上人貞慶—鎌倉仏教の本流—」、24年度特別	2) 南都諸社寺等における文化財調査を積極的に実施して宗教文化に関する調査研究の成果を蓄積し、毎年恒例の特別陳列「お水取り」「おん祭と春日信仰の美術」、24年度御遠忌800年記念特別展「解脫上人貞慶—鎌倉仏教の本流—」、24年度特別	A	順調
4543-3	念特別展「解脫上人貞慶—鎌倉仏教の本流—」、24年度特別展「賴朝と重源—東大寺再興を支えた鎌倉と奈良の絆—」、24年度特別陳列「古事記の歩んできた道—古事記撰録1300年—」、25年度特別展「當麻寺」、25年度特別陳列「古事記の歩んできた道—古事記撰録1300年—」、25年度特別展「當麻寺展(仮称)」等に反映させる。	展「賴朝と重源—東大寺再興を支えた鎌倉と奈良の絆—」、24年度特別陳列「古事記の歩んできた道—古事記撰録1300年—」、25年度特別展「當麻寺」、25年度特別展「仏教美術入門(仮)」等に反映させる。		
4543-4	3) 正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	奈良を中心とする諸社寺等への働きかけをして、當麻寺(葛城市)、法隆寺(斑鳩町)、唐招提寺(奈良市)、海住山寺(木津川市)、矢田寺(大和郡山市)、持聖院(斑鳩町)、法華寺(奈良市)、藥師寺(奈良市)、金剛山寺(大和郡山市)、元興寺(奈良市)、來迎寺(奈良市)等の所蔵文化財を調査した。その成果を24年度に実施した展示及びそれに伴う図録類や講座等に反映させるとともに、今後の展示活動等に活用できる資料の蓄積、将来的調査に向けた調整などを実施した。	A	順調
4543-5	4) 東京文化財研究所と共同で行う天台高僧像(一乘寺蔵)、信貴山縁起巻(朝護孫子寺蔵)の調査など、仏教美術の光学的調査研究を実施し、作品の材料・技術等の解明に寄与する。	3) 正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。 正倉院宝物に関する調査研究を積極的に進め、その成果は当館が編集・刊行した展覧会図録『第64回正倉院展』に掲載されたのに加え、「正倉院展」会場での解説パネル類、新聞連載記事、講座・シンポジウムにおける口頭発表等に反映された。また、『古事記』を編纂した大安万巻についての研究をおこない、同墓誌を展示するとともに概要を展覧会図録『古事記の歩んできた道』に掲載した。また春日社社家の文芸活動を示す資料や、春日若宮おん祭の祭礼を描いた図を重点的に調査し、成果を展示に反映するとともに、図録『おん祭と春日信仰の美術』にも掲載した。	A	順調
4554-1	5) アジアを中心に世界との交流という観点から捉えた、日本文化に関する調査・研究 (九州国立博物館)	4) 東京文化財研究所と共同で行う天台高僧像(一乘寺蔵)、信貴山縁起巻(朝護孫子寺蔵)の調査など、仏教美術の光学的調査研究を実施し、作品の材料・技術等の解明に寄与する。 (1) 国宝 信貴山縁起巻(奈良・朝護孫子寺蔵)を対象として蛍光X線分析器を用いた光学的調査を実施した。 (2) 国宝 縹織當麻曼荼羅(奈良・當麻寺蔵)を対象として高精細カラーバイナリ画像・近赤外線画像・可視光励起による蛍光画像の撮影を伴う光学的調査を実施した。 (3) 平成21~22年度に実施した京都・大徳寺所蔵五百羅漢図の光学的調査の成果に基づいて同作品の総合的調査報告書の出版を計画、その報告内容に関する検討会を開催した。	A	順調
		5) アジアを中心に世界との交流という観点から捉えた、日本文化に関する調査・研究 【九州国立博物館】	5) アジアを中心に世界との交流という観点から捉えた、日本文化に関する調査・研究 【九州国立博物館】	
	1) 日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究を行う。	1) 日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究 タイ国芸術局との学術交流協定に基づき、九州国立博物館の研究員がタイのバンコク、チェンマイ、メーホンソンにおいて、遺跡・博物館の調査を実施した。韓国国立公州博物館との学術交流協定に基づき、公州、ソウルの遺跡・博物館の調査を実施した。韓国から2名を日本に招聘した。ベトナム・ハノイ国立歴史博物館との学術交流協定に基づき、同博物館の所蔵品を中心とする調査を行なった。	A	順調

		⑥ 有形文化財の保存環境・保存修復に関する調査・研究 【東京国立博物館】 1) 博物館の環境保存に関する研究を行う。	⑥ 有形文化財の保存環境・保存修復に関する調査・研究 【東京国立博物館】 1) 博物館の環境保存に関する研究 本年度は文化財の保存環境の内、特に展示中の空気環境について、下記概要に示す調査研究を行った。文化財が展覧会期間中に仮設のケース内に収められる際の空気環境について新たな知見が得られたこと、揮発成分濃度の変化を科学的に解析でき、安全に展示を行うための展示ケース材料の選択肢に幅を持つことが主な成果である。	A	順調
4561-2		2) 博物館における文化遺産の保全と持続的公開を目指した包括的保存システムの研究を行う。	2) 博物館における文化遺産の保全と持続的公開を目指した包括的保存システムの研究(科学研究費補助金) 管理分析サブシステム「文化財収蔵場所環境情報管理システム」、温湿度センサー及び二次元バーコードを用いたセンサーサブシステムの整備が完了した。また包括的保存システムが最大限の効果を発揮するように、館内ですでに利用されている既存の列品検索データベースシステム「ProtoDB」と連携し保存修理に関するデータを他のあらゆるデータと関連付けた。これにより課内職員だけではなく、館内職員の包括的保存システムの利用が可能になった。	A	順調
4562-1		(京都国立博物館) 1) 修復文化財に関する資料収集及び調査研究を行う。	【京都国立博物館】 1) 修復文化財に関する資料収集及び調査研究 平成 24 年度に新規搬入された作品の「修理計画書（設計書）」にもとづき、データを入力し、平成 23 年度に完成、搬出した作品については、各工房より提出された「修理解説書（報告書）」にもとづき、データを追加、更新した。また、平成 20 年度に修理が完成した作品に関する報告を『京都国立博物館文化財保存修理所修理報告書』第 9 号に掲載し、修理時に発見された銘文 6 件を「銘文集成」として報告した。	A	順調
4562-2		2) 文化財の保存・修復に関する調査研究を行う。	2) 文化財の保存・修復に関する調査研究 (1) 京都国立博物館所蔵の古代青銅鏡のオリジナルな色を復元できた。 (2) 長野県柳沢遺跡出土の銅鐸が形態的形式に伴い、オリジナルな色が異なることを明らかにした。それに伴い、銅鐸が奏でる音にも違いがある可能性を示唆した。	A	順調
4562-3			3) 文化財の保存・修復に関する調査研究(立命館大学G-COE受託研究) (1) 冷泉家住宅・杉本家住宅において、土蔵を中心とした敷地内各所の温度・湿度（相対湿度）を約 1 年間計測（平成 22 年度）したデータを統計し、分析することができた。 (2) 冷泉家・杉本家における日常的な文化財の管理方法について取材し、過去の資料調査の結果等と併せて、(1)の成果に考察を加え、これを学会等で発表することができた。	A	順調
4563-1		(奈良国立博物館) 1) 収蔵庫・展示室・ケース内部等における環境の、文化財に与える影響などに関する調査研究を持続的に実施し、収蔵品の保存環境の向上を図る。	【奈良国立博物館】 1) 収蔵庫・展示室・ケース内部等における環境の、文化財に与える影響などに関する調査研究を持続的に実施し、収蔵品の保存環境の向上を図る。 (1) 展示室、展示ケース内に設置した温湿度センサーのデータを分析し、展示・収蔵環境の保持に努めた。	A	順調

		(2) 展示ケース内から回収した粉塵の種類・量を計測し、展示ケースの気密性向上に資するデータを蓄積した。 (3) 展示室・収蔵庫等への昆虫トラップの設置回収により文化財害虫の生息状況を調査し、害虫被害回避につなげた。 (4) 防災工事に伴う収蔵庫内の VOC（揮発性有機化合物）残留濃度調査を実施し、収蔵環境の保全に努めた。 (5) 「環境整備委員会保存環境に関するワーキンググループ」会議を定期的に開催し、保存環境の改善に努めた。			
4563-2		2) 館蔵品・寄託品等の調査研究を文化財修理の観点から実施し、文化財の活用及び後世への継承に資する。	2) 館蔵品・寄託品等の調査研究を文化財修理の観点から実施し、文化財の活用及び後世への継承に資する。 (1) 館蔵品、寄託品について保存状態を中心に入念な調査を実施し、その所見をもとに保存カルテを作成した。 (2) 館蔵品、寄託品の修理に際し、保存カルテや新規に実施した保存状態調査の所見をもとに修理計画を作成し、修理方針を決定した。 (3) 文化財保存修理所で修理中の木造文化財について樹種同定調査を実施し、その成果公開の準備を進めた。 (4) 文化財保存修理所で修理中の文化財から発見された銘文の調査を実施し、その成果公開の準備を進めた。	A	順調
4563-3		3) 館蔵品・寄託品等の調査研究を保存科学の観点から実施し、貴重な文化財の後世への継承に資する。	3) 館蔵品・寄託品等の調査研究を保存科学の観点から実施し、貴重な文化財の後世への継承に資する。 (1) 館蔵、寄託品の修理に際し、蛍光 X 線を用いた材料調査、近赤外線写真やボリライトを用いた補筆・補綴分布調査、透過 X 線を用いた構造調査等を実施した。 (2) 館蔵、寄託品のうち紺製文化財の修理において電子顕微鏡を用いた料網の組成調査、紙紺製文化財の修理において同じく料紙の纖維調査を実施し、その所見を修理に用いる補綴・補紙の調製に反映した。 (3) 文化財保存修理所の修理寄託中の文化財について蛍光 X 線を用いた材料調査を実施し、修理方針に資するデータを蓄積した。	A	順調
4564-1		(九州国立博物館) 1) 文化財の材質・構造等に関する共同研究を行う。	【九州国立博物館】 1) 文化財の材質・構造等に関する共同研究 透過 X 線撮影、X 線 CT 調査、3 D デジタイザ調査等を実施した。その結果、特別展「絹川家の宝室」で展示した「銀人立像」について X 線 CT 調査の結果、鋳造品の内部構造が判明した。また、文化交流展示室で展示している長崎県鷹島海底遺跡出土品に関する松浦市所蔵の鷹島海底出土金属製品を CT 調査した。	A	順調
4564-2		2) 博物館における文化財保存修復に関する研究を行う。	2) 博物館における文化財保存修復に関する研究 吉備国際大学 1 名、九州産業大学 3 名、別府大学 1 名、佐賀大学 1 名、広島市立大学 2 名の計 5 大学 8 名が研修に参加した。少人数のため、実践的な研修を実施することができた。本研修により、参加学生は文化財保護への理解を深め、また将来の修理技術者の育成にも寄与することができた。	A	順調

4564-3	3) 博物館危機管理としての市民協同型 I PMシステム構築に向けての基礎研究を行う。	3) 博物館危機管理としての市民協同型 I PMシステム構築に向けての基礎研究 (1) 研修会等参加者は、全国の美術館・博物館の学芸員及びボランティアからなるが、毎回大変熱心な参加状況であり、学芸員・市民の関心の高さがうかがえた。積極的な意見を集約する事が可能となり、ミュージアム I PM支援者研修プログラム案策定に充分活かすことができた。今後は、本プログラムにより支援者育成を段階的に進める目途が立てられた。 (2) 公開シンポジウムでは専門家の講演と実践報告等により、東京での情報発信ができた。 (3) 平成 24 年度文化庁文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業「市民と共に ミュージアム I PM」を軸に市民協同型 I PMシステム構築に関する研究を展開しその成果は、事業費より 3 冊の報告書を刊行した。	A	順調
4564-4	4) 東アジアの文化財修復用手漉き和紙の調査研究 (UNESCOとの共同) を行う。	4) 東アジアの文化財修復用手漉き和紙の調査研究 (UNESCOとの共同) 中国安徽省巢湖市及び涇県の伝統的製紙工房を調査し、映像記録や調査カードを作成した。また中国江蘇省南京市において、各国の調査状況を報告する会議を開催した。	A	順調
4564-5	5) デジタル計測技術を使用した文化財の予防保存に関する研究を行う。	5) デジタル計測技術を使用した文化財の予防保存に関する調査研究 (学術研究助成基金助成金) 透過 X 線による全体把握を基礎にしながら、X 線 CT、特に三次元で再構成表示する事が可能な 3D-CT を用いた観察（内部構造、製作技法、劣化状況、修復履歴など）によって、文化財の非破壊調査を健康診断システムにまで発展させるための基礎研究を実施することができた。また、この 3D データを三次元プリンタで打ち出して作成したデジタル複製品を基にした詳細な検証が効果的であることを確認した。	A	順調
4564-6		6) 三次元データに基づく文化財研究と新展示手法の開発 —興福寺 国宝阿修羅像を中心とした科学的研究費補助金・学術研究助成基金助成金— 本研究は興福寺の特別な許可を得て、X 線 CT 調査で得られた国宝 阿修羅像をはじめとする十大弟子像 4 身、八部衆像 5 身の高精細三次元データを、美術史・工芸史・修復技術・文化財科学・博物館学の専門家が一同に集まって解析する研究である。本研究によって、X 線 CT によって得られた三次元画像を外面・内面・断面を開わず自由に拡大・縮小しながら調査研究を進めることができた。	A	順調
4564-7		7) 高精細大型スキャナによる日本刀の保存状態に関する調査研究 本年度の調査により、館蔵刀剣 2 口の状態確認をすることができた。この所見により、次年度予定している外部委託の研磨作業について、予め詳細な見積もりを行うことが可能となった。また、高精細大型スキャナを利用して得られた画像は、研磨の前後の状態確認に極めて有効な資料となることが明らかとなった。	A	順調
4571-1	⑦ 文化財を活用した効果的な展示や、教育活動等に関する調査・研究 (東京国立博物館) 1) 博物館環境デザインに関する調査研究を行う。	⑦ 文化財を活用した効果的な展示や、教育活動等に関する調査・研究 【東京国立博物館】 1) 博物館環境デザインに関する調査研究 東洋館リニューアルにあたり、サイン計画において 4 カ国語によるサインを設計・	A	順調

4571-2	2) 博物館教育に関する調査研究を行う。	設置し、エントランスにおいて、インフォメーションカウンターのデザイン、デジタルサイネージによるサインの導入・設置を行った。また、東洋館に設置された TNM & TOPPAN ミュージアムセンターに関わるサインデザインを行った。 さらに、特集陳列「美術解剖学」において、iPad 機器を利用した解説補助の手法を実施し、効果を検証した。	A	順調
4571-3	3) 博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究を行う。	2) 博物館教育に関する調査研究 本館 20 室及び東洋館 2 室、6 室「みどりのライオン」における博物館ガイダンスやハンズオン体験コーナー、制作工程模型展示は年間で 10 万人を超える利用者がおり、当館の博物館教育プログラムとして定着している。このプログラムを博物館教育の見地から調査研究し、口頭及び論文で発表を行った。	A	順調
4571-4	4) 凸版印刷と共同で、ミュージアム・シアターでの公開に向けた研究を引き続き実施する。	3) 博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究 東京国立博物館における収蔵品管理システムのプロトタイプについて、収蔵品検索機能、平常展管理機能、鑑査会議管理機能、貸与管理機能の各機能を継続的に運用し、隨時改善を重ねて機能を向上させた。さらに、作品の修理に関する予定・履歴のデータを管理する機能を新たに実装した。また次期システムに向けた設計のための準備を開始した。	A	順調
4571-5		4) 凸版印刷と共同でミュージアム・シアターでの公開に向けた研究を引き続き実施する (1) 重要文化財「十一面觀音菩薩立像」について、凸版印刷との共同で高精細三次元データを取得し、それに基づいたシアター用コンテンツを制作した。同コンテンツは平成 25 年 4 月からミュージアム・シアターで公開する予定である。 (2) 平成 25 年 1 月から公開した「アンコール遺跡バイヨン寺院—尊顔の記憶—」制作に当たって、仏像 1 件の高精細三次元データの取得を行った。 (3) 既に取得した作品のデータを元に、新コンテンツ 1 件を制作し、公開した。	A	順調
4572-1	(京都国立博物館) 1) 文化財情報に関する調査研究を行う。	5) 文化財管理における美術品用語辞典の作成 (科学研究費補助金) 文化財に関する情報を扱う施設から用語データを収集した。特に分担者は、東京国立博物館における収蔵品データベースから、実際に入力されている用語データを抽出・集計した。 【京都国立博物館】 1) 文化財情報に関する調査研究 (1) 文化財情報システムの昨年度更新後の運用上の問題点を検討し、システムの改良を随時行った。 (2) 特別観覧業務のデジタル化に伴い、システムの整備を継続して実施した。 (3) 写真撮影のデジタル化及び写真原板のデジタル化開始に伴い、大容量ストレージの整備を開始した。 (4) ウェブサイトのコンテンツを随時見直し、情報を更新した。 (5) 新平常展示館へのサーバ室移転に伴い、文化財情報データ等のバックアップ機能改善を行った。	A	順調

		2) 博物館教育に関する調査研究 「大出雲展」、「宸翰 天皇の書」展、「国宝 十二天像と密教法会の世界」展において、鑑賞ガイド等を作成・配布し、「大出雲展」会期中には、子どもむけの鑑賞ツアー「少年少女博物館くらぶ」を実施した。また、京都市内の小中学校において訪問授業を実施し、その準備のために、講師を務める文化財ソムリエに対してスクーリングを行った。さらに、訪問授業に関して『博物館研究』に論文を執筆した。	A	順調
4572-2	(奈良国立博物館)	1) 歴史、伝統文化の教育普及に資するための調査研究を行い、その成果を児童・生徒を対象として行う「世界遺産学習」等に反映させる。	A	順調
4573-1		【奈良国立博物館】 1) 歴史、伝統文化の教育普及に資するための調査研究を行い、その成果を児童・生徒を対象として行う「世界遺産学習」等に反映させる。 奈良の歴史と伝統文化に関する情報を、まずは本年度開催した展覧会の中から抽出することとした。その情報を職員やボランティアが共有する機会を設け、児童・生徒が歴史への関心を高めるために使える情報は何かを検討した。ボランティアへの指導と話し合いを通して、世界遺産学習の実践の場での「語りかけ」の精度を高めることに努めた。	A	順調
4573-2		2) 文化財アーカイブズの形成に関する理論的・実践的研究を行い、その成果をデジタル画像の作成・各種データベースの構築(収蔵品・画像・図書)・各種情報資源の公開推進に反映させる。	A	順調
4574-1	(九州国立博物館)	1) NHK と協同で高精細画像を活用したシアター 4000 での映像公開に向けた研究を引き続き実施する。	A	順調
4574-2		2) 特別展のテーマに則した、解説パネル、冊子、ワークショップ等、観覧者の理解促進のための教育普及プログラムの調査研究を行う。	A	順調

4574-3	3) 学校教育との連携を図りながら、学校貸出キット「きゅうぱく」の研究・開発を引き続き実施する。	3) 学校教育との連携を図りながら、学校貸出キット「きゅうぱく」の研究・調査 学校貸出キットを活用した授業展開を教師と博物館職員が一緒に考え実践したことは、生徒の追求意欲を高め、思考力・判断力・表現力を育む場を設定することができ、それを通して言語力を高めることに有効であった。本実践にあたっては、筑紫地区中学校社会科研究会の公開授業として行われ、40名以上の教師が授業後の研究協議に参加し、多くの意見交換が行われたと同時に、「きゅうぱく」及び文化財を通した授業づくりに関して、広く普及ができた。	A	順調
4574-4	4) 平成 27 年度に迎える開館10周年における一定程度のリニューアルを見据え、現在の展示施設、展示環境や展示方法の課題や展望について検討する。	4) 平成 27 年度に迎える開館 10 周年における一定程度のリニューアルを見据えた、現在の展示施設、展示環境や展示方法の課題や展望についての検討 (1) 研究員全員参加による検討会を行い、各課題の解決や必要な展示についての共通理解を得ることができた。 (2) 外部委員会「次の 10 年を考える懇話会」を開催し、識者や市民代表による率直な意見をうかがうことができた。 (3) 館内の展示工事を担当した展示業者と、開館後の展示環境の課題について、つくる立場と使う立場での相互の意見交換を行うことができた。	A	順調
4574-5		5) 高等学校所蔵考古資料の調査研究 福島、栃木、東京、神奈川、大阪の高等学校所蔵資料の調査を実施して、収蔵状況における実態をつぶさに把握することができた。また兵庫県では博物館連携を進めている学校教員にヒアリングを行い、今後の指針とした。さらに高等学校の歴史系クラブが発行した機関誌の収集に努め、これらによって特に戦後 20 年内外の活動実態について大要を把握した。	A	順調
4574-6		6) 平山郁夫が関与した文化財保護活動に関する調査研究 画家の初期を代表する仏伝シリーズのうち、本画「受胎盡夢」「入涅槃幻想」に関する調査研究、30 年代後半から参加したキリスト教教会堂壁画模写及び法隆寺金堂壁画と高松塙古墳壁画模写に関する調査研究、敦煌莫高窟・アンコールワット・バーミヤン大石仏を中心とする文化財保護活動に関する調査研究を行い、その意義を考察するとともに、特別展として広く一般に公開した。	A	順調
4574-7		7) ヨーロッパ美術にみる文化交流に関する調査研究 15世紀～18世紀末における、ヨーロッパ美術の流れを、イタリアンネサンス、北方ネサンス、マニエリズム、バロック、ロココ様式の変遷の中で、各国の絵画と彫刻作品、ならびにイタリアンネサンスを中心とする素描作品を位置づける作業を行い、その成果を各章はじめの説明パネル、作品の制作地を示す地図、世界史上の出来事を略記した年表として掲出し、来館者に分かりやすく提示した。	A	順調
4574-8		8) 芦屋釜の制作と復元に関する調査研究 本年度の調査研究により明らかとなった諸点は、平成 24 年度トピック展示「茶の湯をたのしむ V：芦屋釜と館蔵茶道具」のなかで芦屋釜の特集を組み、分かりやすく紹	A	順調

	介することができた。また、芦屋釜の魅力を伝える企画を芦屋町と共同で立案し、一般からの希望者を募って九州国立博物館と芦屋町の双方で見学を行うツアーを実施した。	
--	--	--

5 文化財保護に関する国際協力の推進

【中期目標】文化財の保護に関する国際協力の拠点としての位置づけを明確化するとともに、その機能の充実を図り、我が国の国際貢献に寄与すること。

(1) 保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤の整備

【中期目標】研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化、継続的な国際協力のネットワークの構築、アジア諸国等における文化財の保護協力、技術移転・専門家養成等の支援等、有機的・総合的な事業展開を行い、人類共通の財産である文化財の保護に関する国際協力を通じて、我が国の国際貢献に寄与すること。

【中期計画】

- (1) 文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力等の情報を収集、分析して活用する。また、国内の研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化を図るとともに、継続的な国際協力のネットワークを構築し、その成果をもとにアジア地域を中心とする諸外国の文化財の保護事業を推進する。

【主な計画上の評価指標】

- 情報の収集・分析及びその提供を行うこと。
- 国際協力のネットワークを構築すること。
- アジア地域を主とする諸外国において、文化財保護事業を進めること。

【23年度評価における主な指摘事項】

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
5111	<p>文化財保護に関する国際協力に関して、以下の事業を有機的・総合的に展開することにより、人類共通の財産である文化財保護に関する国際協力を通じて、我が国の国際貢献に寄与する。</p> <p>(1) 文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力等の情報を収集、分析して活用するとともに、国際共同研究を通じて保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤整備を行う。また、国内の研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化を図るとともに、継続的な国際協力のネットワークを構築し、その成果をもとにアジア地域を中心とする諸外国において文化財の保護事業を推進する。</p> <p>① 海外、特に国際協力活動の対象としている地域の文化遺産に関する情報の収集、諸外国の文化遺産保護施策や文化遺産保護へのデータベースの活用に関する調査を実施する。世界遺産委員会をはじめ、ユネスコ、ICOMOS、ICOM等が行う主要な国際会合へ出席し、情報の収集を行う。収集した情報の整理・公開及び比較研究等を通じて今後の我が国の文化財保護施策の検討の用に供する。</p>	<p>(1)</p> <p>① 文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信 世界遺産委員会（サンクトペテルブルク）等の国際会議の出席、アメリカにおける文化遺産保護についての調査など、各國の文化遺産保護に関する情報収集を行った。また文化財保護関連の法令の収集・分析及び翻訳作業を実施し、対訳法令集シリーズを新たに3冊刊行した。さらに研究機関間の連携強化と国際的なネットワーク構築のため、染織品の保存修復とその活用についての研究会を開催するなど国際的な研究交流を推進した。</p>	A	順調

(2) 諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転の推進

【中期目標】-----		【中期計画】	【主な計画上の評価指標】	【23年度評価における主な指摘事項】	
処理番号	年度計画		主な実績	自己評価 年度 中期	
5211-1	(2) 国際共同研究等を通じて諸外国の保存・修復の考え方や技術に関する研究を進め、国際協力を推進するための基盤を形成するとともに、その成果をもとにアジア地域を主とする諸外国において文化財保護事業を推進する。 ① 文化財の保存修復事業及び国際共同研究事業を以下のように実施し、成果を広く公表する。 ア 敦煌莫高窟壁画及び陝西省墳墓壁画を始めとする中国の文化遺産の保存修復のための共同研究を実施する。また、モンゴルの文化財保存修復事業に協力する。	(2)	①ア・エ 中国壁画の保護に関する日中共同研究 敦煌莫高窟壁画に関する第6期共同研究として第285窟4壁と天井部について携帯型蛍光X線、顕微鏡、分光光度計を用いた分析調査及び環境調査を実施した。敦煌研究院研究員2名の研修を実施するとともに、敦煌研究院と共同で2012年度成果報告書を編集・発行した。また、陝西墳墓壁画として乾陵章懷太子墓を対象に2回の現地調査を行い、壁画の表面含水量測定及び壁画材料について検討した。	A	順調
5212-1	イ 東南アジア地域等における文化財保存修復協力事業及び調査研究等を実施する。特にカンボジア、アンコール遺跡群（西トップ寺院遺跡及びタ・ネイ遺跡等）において考古学的、建築史的、保存科学的調査を実施する。また、タイ、モンゴル等においても文化財保護に関する共同研究・協力事業を実施する。	①イ・エー1 東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力 カンボジア、タイの両国において協力事業を実施した他、これにインドネシアを加えた各国での研究協力事業に関する活動成果の共有、その他各との関係機関との調整等を行った。特にカンボジアにおいては新規研修事業に着手した。	A	順調	
5212-2		①イ・エー2 カンボジア・アンコールワット遺跡群の西トップ寺院遺跡、ペトナム・タンロン皇城遺跡の建築史的、考古学的、保存科学的調査 西トップ遺跡に関しては、遺跡の安定化を図るための修復工事に本格的にとりかかり、まず南祠堂の解体修理に着手した。本年度中に上部構造及び基壇の解体を完了し、コンクリートベース上の仮組み作業を終えた。タンロン皇城遺跡に関しては、コネスコ日本信託基金による事業に協力し、出土した考古遺物の分析に関する能力強化ワークショップを現地で2回実施し、技術移転を行った。	A	順調	
5213	ウ アフガニスタン（主としてバーミヤーン）及びイラクの文化財保存修復協力事業を実施する。また、併せて周辺地域（西アジア諸国等）の文化財調査研究及び保存修復協力事業を実施する。 エ 上記各事業と連携しつつ、文化財の保存修復手法に関するワークショップの開催等を通じて国内外の専門家との情報の共有化を図る。	①ウ・エ 西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業 (1)アフガニスタン：バーミヤーン遺跡保存事業に関する調査研究、報告書の作成・刊行を実施した。 (2)イラク：保存修復専門家の人材育成・技術移転を実施した。 (3)西アジア周辺諸国の文化遺産の調査研究・保護への協力等：タジキスタン、インド、中央アジア諸国、コーカサス諸国、エジプトにおいて実施した。	A	順調	

(3) 研修、専門家の派遣を通じた諸外国における人材育成、技術移転

【中期目標】-----		【中期計画】	【主な計画上の評価指標】	【23年度評価における主な指摘事項】	
処理番号	年度計画		主な実績	自己評価 年度 中期	
	(3) 文化財保護の担当者や学芸員並びに保存修復専門家を対象とした研修や専門家の派遣を通じて諸外国における文化財の保存・修復に関する人材育成と技術移転を積極的に進める。		○諸外国への文化財の保存・修復に関する人材育成と技術移転を積極的に進めること。	○タイの現地調査では天災や政変の影響を受けたが、応变の対応で成果を上げ、そのほかの地域においても、着実な協力事業やその基盤形成を行った。	
5311	① 諸外国の考古学、建造物、歴史資料及び保存科学等の文化財保護に係る専門家の人材育成を国内または現地で実施する。	(3)	① 諸外国の文化財保護に係る人材育成の育成 国内外の諸機関等と連携して文化財保護に関するワークショップ・研修を開催し、人材育成・技術移転等の国際支援を実施した。	A	順調
5321	② 国内外の諸機関等と連携して人材育成や技術移転等の国際支援を実施する。また海外の文化財保存担当者を対象に、国内外において和紙及び紙・絹文化財、漆及び漆文化財についての材料学・保存修復等の講義と、修復、装丁等の実技を行い、基礎的な知識を教授する。在外の日本古美術品を対象に事前調査を行い、その結果を元に修復を行う。	②-1 國際研修「紙の保存と修復」 和紙を使用した紙本文化財の保存修復に関して研修を行った。 (1)日本国内研修：材料、美術史、装こうに関する講義。巻子修復、和綴じ冊子修復及び掛軸・屏風の取扱い実習。和紙製造現場の視察。 (2)メキシコ研修：材料、装こう技術、装こう道具に関する講義。デンブン糊調製、和紙を用いた裏打ち、和紙を用いた強化、欠失部の補てんに関する実習。	②-2 在外日本古美術品保存修復協力事業 掛軸1作品、屏風1作品を預かり修復を行っている（次年度まで継続）。これ	A	順調
5322				A	順調

		らの作品の所蔵者を招聘して、修復経過を説明し、また、最終的な仕様に関して協議を行った。 次年度以降の修復候補作品選定のため、漆工芸品及び絵画の調査を行った。 ベルリンにおいて紙本絹本文化財の保存修復に関するワークショップを、ケルンにおいて漆工芸品の保存修復に関するワークショップを開催した。		
5331	③ 國際協力機構、ユネスコアジア文化センター等が実施する研修への協力をを行う。	③ ユネスコアジア文化センター等が実施する研修への協力 集団研修ではアジア太平洋諸国 16カ国、16名の研修生に対して、遺跡の調査と保存についての研修を行った。また個人研修ではインドネシア人専門家 3名に対して、木造建造物の保存修復についての研修を行った。こうした研修により、各個人材育成に貢献するとともに、日本側の各国理解の一助ともなった。また国内における国際協力関係の諸機関との連携を強化することができた。	A	順調

(4) アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究

【中期目標】平成23年度にアジア太平洋無形文化遺産研究センターを開設し、同地域における無形文化遺産保護に寄与すること。

【中期計画】

- (2) 23年度にアジア太平洋無形文化遺産研究センターを設置し、ユネスコ無形文化遺産保護条約を中心とした国際的動向の情報収集を図り、アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究を行うとともに、我が国の知見を通じて、同地域の無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究を行うとともに、我が国の知見を通じて、無形文化遺産保護の国際的充実に資する。

【主な計画上の評価指標】

- アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究を行うこと。

【23年度評価における主な指摘事項】

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
5411	(4) アジア太平洋無形文化遺産研究センターは、ユネスコ無形文化遺産保護条約を中心とした国際的動向の情報収集を図り、アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究推進を行うとともに、我が国の知見を通じて、無形文化遺産保護の国際的充実に資する。	(4) アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究の推進 文化庁受託事業「平成24年度 無形文化遺産保護パートナーシッププログラム」及び文部科学省受託事業「日本／ユネスコ パートナーシップ事業」を通じ、条約の国際的動向の情報収集に資する専門家会合、アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に資する現地調査、無形文化遺産保護の国際的充実に資する研修を実施した。なお、これらの事業は当センター運営理事会にて承認された中期計画に基づき実施されたものである。	A	順調

6 情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信

【中期目標】国際化の推進を図るためにインターネット等による情報発信を強化し、調査・研究の成果について、迅速な報告書の発行、利用価値の高いデータベースの構築等により、適時適切な公表を推進するとともに、施設の有効活用を図ることにより、研究者をはじめ広く社会に還元すること。

(1) 情報基盤の整備充実

【中期目標】――

【中期計画】

- (1) 文化財関係の情報を収集して積極的に発信するため、ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実を行う。
また、文化財情報の計画的収集・整理・保管及びそれらの電子化の推進による文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査・研究に基づく成果としてのデータベースの充実を行う。

【主な計画上の評価指標】

- ネットワークセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備充実を図ること。
○文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースの充実を図ること。

【23年度評価における主な指摘事項】

- 奈良文化財研究所では奈文研 GIS（地理情報システム）を活用した最新の文化遺産情報システムが開発され、今後の成果が期待される。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
	以下のとおり、調査・研究に基づく資料の作成及び文化財に関する資料の収集・整理・保管を行うとともに、調査・研究成果を積極的に公表・公開し、国内外の研究者や広く一般の人々が調査・研究成果を容易に入手できるようにする。 (1) 文化財関係の情報を収集して積極的に発信するため、ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実を行う。また、文化財情報の計画的収集・整理・保管及びそれらの電子化の推進による文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査・研究に基づく成果としてのデータベースの充実を行う。	(1)		
6111	① 文化財に関するデータベースの充実とアーカイブ機能の更新と拡張を図る。	①-1 文化財情報基盤の整備 保守期限切れを迎えるネットワーク機器の更新を実施するとともに、メールシステムとして Google Apps for Business を導入し、利便性を向上させた。	A	順調
6112	① 文化財に関するデータベースの充実とアーカイブ機能の更新と拡張を図る。	①-2 無形文化財に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化 昨年度までに受け入れ手続きが完了した資料の内、経年変化に伴う音質劣化が懸念されるオープンテープのデジタル化を昨年度に引き続き実施した。カセットテープに関しても、将来のデジタル化を視野に、収録内容の確認を含めた整理を行った。	A	順調

6113		①-3 文化財に関するデータベースの充実 文化財情報電子化の研究を通じて、GIS を活用した文化遺産情報の取得・分析に関する最新の手法を開発とともに、研究成果を学会で発表している。開発・改良を継続している各種データベースについて、業務用とともに公開用についても、記載方法の標準化を進めながらデータの充実を図った。	A	順調
6121	② 文化財関係資料や図書の収集・整理・公開・提供について充実するよう努める。	②-1 専門的アカイズの充実(資料閲覧室運営) 資料閲覧室の運営、ならびに資料の登録と情報のデータベース化、またそれを利用した外部公開用 SQL データの更新・運用を行った。	A	順調
6122		②-2 図書の収集・整理・公開・提供 遺跡の発掘調査報告書、歴史的建造物の修理報告書等歴史・考古学分野を中心図書・逐次刊行物の購入及び寄贈による収集を行い、整理された資料をデータベースに蓄積してインターネットに公開した。	A	順調

(2) 研究所の研究成果の発信

【中期目標】 -----		【中期計画】	【主な計画上の評価指標】
処理番号	年度計画	主な実績	自己評価
			年度 中期
6211	(2) 文化財に関する調査・研究に基づく成果について、定期的な刊行物を刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催等により、積極的に公開・提供する。また、研究所の研究・業務等を広報するためウェブサイトの充実を図るとともに、ウェブサイトアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る。	(2)	
6211	① 定期刊行物の刊行 ○『東京文化財研究所年報』 ○『東京文化財研究所概要』 ○『東文研ニュース』 ○『美術研究』(年3冊)	①-1 定期刊行物の刊行(年報、概要、ニュース) 年報 2011 年度版、概要 2012 年度版を編集、発行した。また、東文研ニュースを年 4 回、東文研ニュースダイジェスト(英語)を年 2 回発行した。	A 順調
6212		①-2 定期刊行物の刊行(『平成 23 年版日本美術年鑑』、『美術研究』) 本年度は、『平成 23 年版 日本美術年鑑』及び『美術研究』407~409 号を刊行	A 順調

6213	○『日本美術年鑑』(年1冊) ○『無形文化遺産研究報告』(年1冊) ○『無形民俗文化財研究協議会報告書』(年1冊)	した。 ①-3 定期刊行物の刊行(『無形文化遺産研究報告』、『無形民俗文化財研究協議会報告書』) (1) 無形文化遺産部研究員の業績に基づく論考・報告・資料紹介等を内容とする『無形文化遺産研究報告』第 7 号を平成 25 年 3 月 29 日に刊行した。 (2) 24 年 10 月 29 日に開催した無形民俗文化財研究協議会での事例報告・総合討議を内容とする『第 7 回無形民俗文化財研究協議会報告書』を 25 年 3 月 29 日に刊行した。	A	順調
6214	○『保存科学』(年1冊)	①-4 定期刊行物の刊行(『保存科学』52号) 本年度の投稿件数は 27 件であった。全投稿原稿に対して、外部の査読者も含む査読委員による査読を実施し、報文 4 件、報告 22 件、取下 1 件、計 26 件の掲載を決定した。版型 B5 版、口絵カラー 16 頁、本文総ページ数 320 頁、発行部数 650 部、関係諸機関に約 580 部配布。	A	順調
6215		①-5 第 35 回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会報告書の刊行 24 年 11 月 30 日に報告書『第 35 回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会 染織技術の伝統と継承—研究と保存修復の現状—』を刊行。関係者に配布した。	A	順調
6216	○『奈良文化財研究所紀要』 ○『奈良文化財研究所概要』 ○『奈文研ニュース』 ○『埋蔵文化財ニュース』	①-6 定期刊行物の刊行 紀要等 2 点、ニュース 2 種 8 点、合計 10 点を刊行した。	A	順調
6221	② 公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催等 ○国際シンポジウムの開催(年1回)	②-1 第 36 回 文化財の保存と修復に関する国際研究集会 24 年 12 月 5 日～7 日、東京国立博物館平成館講堂にて、文化財の保存と修復に関する国際研究集会(第 36 回)を開催した。口頭発表による講演と、公募した 23 件のポスター発表が行われた。	A	順調
6222	○公開講座(オープンレクチャー)(年1回)	②-2 平成 24 年度オープンレクチャー 第 46 回企画情報部オープンレクチャー「モノ/イメージとの対話」と題して 4 講演を 2 日間にわたり開催した(参加者数: 176 人、アンケートによる満足度: 78% (回収率: 68%))。	A	順調
6223	○公開講演会 ○現地説明会	②-3 公開講演会、現地説明会等の開催 (1) 公開講演会は、例年実施している定例公開講演会を 2 回、特別講演会(東京)と日中韓国際講演会(奈良)、飛鳥資料館特別展記念講演会を 2 回開催した。また、本年度は創立 60 周年を記念して日中韓の第一線で活躍する共同研究者による日中韓国際講演会を開催した。 (2) 発掘調査に伴う現地説明会等を平城地区、飛鳥藤原地区あわせて計 5 回実施した。このことにより調査研究成果を適時適切に国民に公開公表することができ、事業としては順調に実施できた。	A	順調

6231	③アクセス件数の向上を図るため、ウェブサイトの内容の充実を図る。	③-1 ウェブサイトの運用 ウェブサイトのレイアウトを更新し、毎月の活動報告（和英）の掲載、また適宜イベント情報の公開を行うとともに、それら更新情報についてメールマガジンによる情報発信を行った。	A	順調
6232		③-2 ウェブサイトの充実 WWWサーバを更新したことにより、新たな情報発信が行えることが可能となった。 奈文研ウェブサイト、飛鳥資料館ウェブサイトとともにCMSを導入することにより、ウェブサイトの維持管理が簡単な方法で行えることとなった。	A	順調

(3) 研究所所管の展示公開施設の充実

【中期目標】 -----		【中期計画】	【主な計画上の評価指標】
(3)	平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館については、研究成果の公開施設としての役割を強化する観点から展示を充実させ、調査・研究成果の内容を広く一般に理解を深めてもらうことに資する。来館者数については、前期中期目標期間の年度平均（特別展示等による来館者数の著しい変動実績を除く。）以上確保する。	○来館者数については、前期中期計画期間の年度平均（特別展示等による来館者数の著しい変動実績を除く。）以上を確保すること。	【23年度評価における主な指摘事項】 ○飛鳥資料館及び藤原宮跡資料室に関しては、地理的条件もあるが、来館者増に向けた今後の取り組みが望まれる。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
6311	(3) 平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館については、研究成果の公開施設としての役割を強化する観点から展示を充実させ、調査・研究成果の内容を広く一般に理解を深めてもらうことに資する。来館者数については、前期中期計画期間の年度平均（特別展示等による来館者数の著しい変動実績を除く。）以上確保する。 ① 平城宮跡資料館における展示・公開 常設展（月曜日、年末年始休館） 特別展（年1回） 企画展（年1回） 年間目標来館者数 85, 300人	(3) ① 平城宮跡資料館における展示公開 (1) 常設展の円滑な実施のため、その維持・管理に努め、模型の補修、新たな模型の展示など、内容を充実させた。 (2) 春期企画展「発掘速報展 平城2011／文化財レスキュー展」を24年3月10日～5月27日に開催した。 (3) 奈良文化財研究所創立60周年記念・秋期特別展「地下の正倉院・平城宮第一次大極殿院のすべて」を24年10月20日～12月2日に開催した。 (4) 春期企画展「発掘速報展 平城2012」を25年3月16日～6月2日に開催した。	A	順調
6321	② 飛鳥資料館における常設展示の充実と特別展示の開催 常設展示（月曜日、年末年始休館 有料公開 ただし6月4日～10月18	② 飞鳥資料館における展示公開 (1) 第1展示室、1階ロビーの内装、照明を全面的に改装した。	A	順調

	日、12月3日～平成25年1月21日は、改裝のため第1展示室を閉鎖) 特別展示（年2回） 年間目標来館者数 48, 800人	(2) 春期特別展「比羅夫がゆく—飛鳥時代の武器・武具・いくさー」を24年4月14日～6月3日に開催し、記念講演会を24年5月12日に行つた。 (3) 秋期特別展「花開く都城文化」を24年11月1日～12月2日に開催し、記念講演会を24年11月17日に行つた。 (4) 冬期企画展「飛鳥の考古学2012」を25年2月2日～3月3日に開催した。 (5) 写真コンテスト「遙かなる華の都」（作品展示：24年8月4日～9月17日）、「神々の山」（作品展示：25年3月9日～4月14日）を開催した。 (6) 明日香村活性化事業「光の回廊」（24年9月15・16日開催）に参加した。		
6331	③ 藤原宮跡資料室における展示・公開 常設展（年末年始休館 無料公開） 年間目標来館者数 4, 509人	③ 藤原宮跡資料室における展示公開 常設展示及び発掘調査成果の速報展示などを通年で実施し、展示公開の充実を図った。庁舎エントランスの速報展示コーナーでは、最新の調査研究成果の公開を行い、その他適宜展示解説や各地の博物館への文化財貸与を行った。	A	順調

定量評価	24年度	23年度	目標値	評定
来館者数 平城宮跡資料館 飛鳥資料館 藤原宮跡資料室	124,515 38,854 9,510	132,295 42,479 2,971	85,300 48,800 4,509	A B S

(4) 文化庁が行う平城宮跡・飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力

【中期目標】 -----		【中期計画】	【主な計画上の評価指標】
(4)	文化庁と国土交通省が行う平城宮跡・飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力し、支援を実施する。 また、宮跡等への来訪者に文化財及び文化財研究所の研究成果等に関する理解を深めてもらうため、解説ボランティアを育成するとともに、NPO法人等が自主的に行う各種ボランティア事業に対して活動機会・場所の提供等の支援を行う。	○文化庁、国土交通省が行う平城宮跡・飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力すること。また、ボランティアへの活動支援を行うこと。	【23年度評価における主な指摘事項】

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
	(4) 文化庁と国土交通省が行う平城宮跡・飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力し、支援を実施する。また、宮跡等への来訪者に文化財及び文化財研究所の研究成果等に関する理解を深めてもらうため、解説ボランティアを育成するとともに、NPO法人等が自主的に行う各種ボランティア事業に対して活動機会・場所の提供等の支援を行う。	(4)		

6411	① 文化庁と国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 ○ 文化庁平城宮跡管理事務所の運営への協力 ○ 国土交通省が行う平城宮跡第一次大極殿院復原への協力 ○ 国土交通省が行う平城宮跡展示館（仮称）の建設への協力 ○ 国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地内の体験学習館の建設への協力	①-1 文化庁平城宮跡管理事務所の運営への協力 (1) 文化庁平城宮跡管理事務所が行う文化庁施設の公開・活用等における連携協力、文化庁の各種行事、発掘調査等の連絡調整及び文化庁施設の維持管理及び修繕等に對して提案、助言、連絡調整等協力し、文化庁の平城宮跡等整備事業に協力した。 (2) 関連受託事業：特別史跡平城宮跡及び特別史跡藤原宮跡地における歴史的環境維持・整備事業において平城宮跡の維持管理のために宮跡地内の草刈・植栽業務等を適切に実施した。	A	順調
6412		①-2 文化庁・国土交通省が行う平城宮跡の復原・整備への協力 (1) 第一次大極殿院復原検討会を 17 回開催し、そのための資料収集と整理、検討会記録集を作成した。 (2) 平城宮跡の整備設計・工事等に対して、設計条件の整理、立会調査等を実施した。 (3) 文化庁や国土交通省が開催する会議等に対して、専門的・技術的な援助・助言を行った。	A	順調
6413		①-3 国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地内の体験学習館の建設への協力 (1) 国土交通省国営飛鳥歴史公園事務所、体験学習館展示担当業者と調整会議を行った。 (2) 国営飛鳥歴史公園事務所の依頼にもとづき、キトラ古墳体験学習館の展示に資する奈文研所蔵資料一覧を作成、提示した。 (3) 断続的に担当者間で調整・協議を行った。	A	順調
6414		①-4 国土交通省が行う平城宮跡展示館（仮称）の建設への協力 (1) 実施設計に向けて必要な業務の整理をした。 (2) 実施設計までの業務スケジュールを立案した。 (3) 設計業者からの業務受託を受け作業を実施した。	A	順調
6421	② 平城宮跡解説ボランティア事業の実施	② 平城宮跡解説ボランティア事業の実施 高い知識に基づく解説をより多くの来訪者に効率よく行い、文化財への理解を大いに広げることができた。	A	順調
6431	③ 平城宮跡防災・防犯パトロール「平城宮跡みまもり隊」への参加	③ 平城宮跡防災・防犯パトロール「平城宮跡みまもり隊」への参加 平城宮跡来訪者に、平城宮跡内でのマナーの向上や防災・防犯活動を行っていることを理解してもらうことができた。	A	順調
6441	④ NPO 法人等への支援	④ NPO 法人等への支援 ボランティア団体への支援を通じて、その育成を図るとともに、文化財に対する啓発活動を行った。	A	順調

7 地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

【中期目標】	我が国の文化財に関する調査・研究の中核として、これまでの調査・研究の成果を活かし、地方公共団体や大学、研究機関とのネットワークや連携協力体制を構築し、機構が行った調査・研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を図り、我が国全体の文化財の収集・展示、調査・研究の質的向上に寄与すること。また、地方公共団体等の指導者層を主たる対象とする高度な研修事業や、若手研究者の育成に寄与するため実践的な連携大学院教育を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材を育成すること。
--------	--

【中期計画】		【主な計画上の評価指標】
我が国の文化財に関する調査・研究の中核として、これまでの調査・研究の成果を活かし、国・地方公共団体等に対する専門的・技術的な協力・助言を行うことにより、我が国全体の文化財の調査・研究の質的向上に寄与する。また、専門指導者層を対象とした研修等を行い、文化財保護に必要な人材を養成する。		○文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を行うこと。 ○地方公共団体等で中核となる文化財担当者に対し埋蔵文化財等に関する研修を実施すること。また、保存担当学芸員に対し保存科学に関する研修を実施すること。
(1) 地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本法人が行った調査・研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を行う。		【23 年度評価における主な指摘事項】
(2) 文化財に関する高度な研究成果をもとに、地方公共団体等で中核となる文化財担当者に対し埋蔵文化財等に関する研修を実施するとともに、保存担当学芸員に対し保存科学に関する研修を実施する。		○研修のみならず、研修後に行われる受講者へのアフターケアも充実しており、アンケート調査では高い満足度を得ていることから、今後も継続的な事業の実施が期待される。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
7111	我が国の文化財に関する調査・研究の中核として、これまでの調査・研究の成果を活かし、国・地方公共団体等に対する専門的・技術的な協力・助言を行うことにより、我が国全体の文化財の調査・研究の質的向上に寄与する。また、専門指導者層を対象とした研修等を行い、文化財保護に必要な人材を養成する。 (1) 地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査・研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を行う。	(1) -1 無形文化遺産に関する助言 平成 24 年度は、無形文化遺産の保存・伝承・活用等に関して、文化庁伝統文化課に対する無形文化遺産保護条約に関する助言をはじめ、25 件の助言を実施した。	A	順調
		(1) -2 文化財の修復及び整備に関する調査・助言 本年度は、件数として 40 件を数え、指導助言先やその内容も多岐にわたり、複数回の指導助言に及んだものもある。今後も継続して指導助言を実施し適正に文化財が保存修復されるよう努めるとともに、私たちも新たな知見を得て、的確な指導助言が行えるように努力する。	A	順調
7112				

7113	① 地方公共団体等からの要請に応じ、それへの協力・助言・専門的知識の提供等を実施する。	①-1 地方公共団体等の要請による発掘調査等への協力・援助 対応した計 10 件の発掘調査は、主に個人住宅等の建設にともなう事前調査で、緊急性を要する調査に効率よく対応し、平城宮跡及びその隣接地、あるいは平城京の寺院跡などについての基礎資料を継続的に蓄積することができた。特に第 497 次及び第 504 次調査では、平城宮周辺における奈良時代の土地利用のあり方を考える上で貴重な成果を得た。	A	順調		
7114		①-2 地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への援助・助言 藤原宮跡において地方公共団体が行う発掘調査への援助・助言の事業は 7 件あり、主に工事にともなう事前調査や立会である。緊急性を要する事前調査に効率よく対応し、藤原宮ならびに飛鳥・藤原地域についての基礎資料を継続的に蓄積している。	A	順調		
7115		①-3 地方公共団体等が行う史跡の整備・復原事業等に関する技術的助言 地方公共団体等が行う文化財の調査・保存・修復・整備・活用等の事業について、専門委員会委員への就任等を通して、建造物修理、史跡整備、出土文字資料調査、発掘調査等に関する専門的・技術的な助言を行った。	A	順調		
7121	② これまで蓄積した調査・研究の成果を活かし、他機関等との共同研究及び受託研究を実施する。	② 他機関等との共同研究及び受託研究を実施 地方公共団体等が行う文化財の調査・整備・修復・保存・活用等について、これまで蓄積した調査・研究の成果を活かし、受託研究等を行った。	A	順調		
7131	③ 災害により被災した文化財の保護のため、文化庁の要請を受け、国立文化財機構は東京文化財研究所内に事務局を設置し、東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業（文化財レスキュー事業）を実施する等、地方公共団体等に対する支援・協力を行う。	③ 東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業（文化財レスキュー事業） (1) 東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会事務局を東京国立博物館と共同で担当した。 (2) 被災文化財レスキュー事業を実施した。 (3) 年間の活動を総括した。	S	順調		
7211	(2) 文化財に関する高度な研究成果をもとに、地方公共団体等で中核となる文化財担当者に対し埋蔵文化財等に関する研修を実施するとともに、保存担当学芸員に対し保存科学に関する研修を実施する。 ① 埋蔵文化財担当者研修の実施 専門研修 14 課程、研修人数延べ 160 人	(2) ① 文化財担当者研修 遺跡の発掘調査や保存・整備等に関し、必要な知識と技術の研鑽を図るために、地方公共団体等の埋蔵文化財担当者を対象として、専門研修 12 課程の研修を実施し、延べ 156 名が受講した。 研修受講者全員に対するアンケート調査では、全員から「有意義だった」「役に立った」との回答を得ており、充実した研修が実施できた。	A	順調		
7221	② 博物館・美術館等の保存担当学芸員研修の実施 期間 2 週間、受講生 25 名程度	② 博物館・美術館等保存担当学芸員研修 第 29 回保存担当学芸員研修、保存担当学芸員フォローアップ研修、第 17 回資料保存地域研修を、それぞれの趣旨に沿ったプログラムのもとで実施し、非常に高い満足度を得た。	A	順調		
7231	③ 東京藝術大学、京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育等の推進 ○ 東京藝術大学：システム保存学（保存環境学、修復材料学） ○ 京都大学：共生文明学（文化・地域環境論） ○ 奈良女子大学：比較文化学（文化史論）	③-1 東京藝術大学との間での連携大学院教育の推進 保存環境計画論、修復計画論、修復材料学特論、保存環境学特論をシラバスに則り開講した。また、実習として文化財保存演習を 1 コマ担当した。 これまで中止していた学生受け入れを平成 25 年度より再開するため、平成 25 年度修士課程入学の学生募集を行い、入試の結果、1 名の合格者を決定した。	A	順調		
7232		③-2 京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育の推進 京都大学大学院人間・環境学研究科において 5 名、奈良女子大学大学院人間文化研究科において 3 名の研究職員が、客員教授・准教授として各専門分野に関する講義、演習、実習を通して、大学院生の研究指導を行った。 なお、平成 24 年度の受入学生数は京都大学 28 名、奈良女子大学 3 名であった。 その他、奈良大学と協定を締結し、5 名の研究職員が非常勤講師として、学部生の教育を行った。	A	順調		
		定量評価	24 年度	23 年度	目標値	評定
		埋蔵文化財担当者研修 課程数（課程） 研修受講者数（延べ人）	12 156	13 136	14 160	B B
		保存担当学芸員研修 期間（週間） 受講生（名）	2 30	2 27	2 25	A A

II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 一般管理費等の削減

【中期目標】業務運営に関しては、「独立行政法人の事務・事業の見直しの基本方針」(平成22年12月7日閣議決定)等を踏まえ、国立文化財機構の活性化が損なわれないよう十分配慮しつつ、一層の業務の効率化を推進することにより、文化財購入等の効率化になじまない特殊要因経費を除き、中期目標の期間中、一般管理費については15%以上、業務経費についても5%以上の効率化を図ること。ただし、人件費については次項に基づいた効率化を図る。

なお、19年度の法人統合に伴い、機構の業務運営に際しては、平成23年度までの統合後5年間で、19年度一般管理費（物件費）の10%相当の経費削減を図ること。

【中期計画】

1 中期目標の期間中、一般管理費については15%以上、業務経費については5%以上の効率化を行う。ただし、文化財購入費、文化財修復費等の特殊要因経費はその対象としない。また、人件費については次項に基づき取り組むこととし、本項の対象としない。

なお19年度の法人統合に伴い、機構の業務運営に際しては、平成23年度までの統合後5年間で、19年度一般管理費（物件費）の10%相当の経費を削減する。

このため、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、事務、事業、組織等の見直しや、公用車の運転業務など外部委託できる業務を引き続き精査して計画的にアウトソーシングするなど業務の効率化を図る。

具体的には下記の措置を講じる。

- (1) 共通的な事務の一元化による業務の効率化
- (2) 計画的なアウトソーシング
- (3) 使用資源の減少
 - ・省エネルギー (エネルギー使用量は、5年計画期間中に5%削減)
 - ・廃棄物減量化
 - ・リサイクルの推進

【主な計画上の評価指標】

○中期目標の期間中、一般管理費 15%以上、業務経費 5%以上の業務の効率化を図ること。

○共通的な事務の一元化を図ること。

○計画的なアウトソーシングを図ること。

○エネルギー使用量は、5年計画期間中に5%の削減を図ること。

○廃棄物の減量化を図ること。

○リサイクルの推進を図ること。

○競争性のある契約への移行を推進すること。

○民間競争入札等の推進を図ること。

【23年度評価における主要な指摘事項】

○民間競争入札の推進に当たっては、入館者に対するサービスの向上や苦情に対する対応、収蔵品・展示品等の維持・保管等において信用できる業者の選定が望まれる。

○一者応札・応募の原因は把握されているが、改善方策が公告期間の延長のみであり、さらなる改善方策の検討が望まれる。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
9110	1 一般管理費の削減 <p>(1) 共通的な事務の一元化による業務の効率化</p> <p>1) 財務、人事、企画事務の共通的な事務の一元化を推進し事務の効率化を引き続き図る。</p>	1 一般管理費の削減 <p>(1) 共通的な事務の一元化による業務の効率化</p> <p>1) 財務会計システムを更新し、24年4月より新システムの正式運用を開始した。従来は別システムまたは紙により処理していた購入依頼、科学研究費、旅費処理等の会計処理・管理を一元化し、財務会計事務が効率化した。</p> <p>・web給与明細システム（23年5月給与より正式運用開始）について、より一層の利用を推進した結果、25年3月給与支給日現在の利用率は67.7%（機構全体の職員842人のうち570人）となった。前年同月の45.6%から22.1%増であり、給与事務が効率化した。</p>	A	順調

9120	<p>2) 国立博物館各館における翌年度以降の展覧会企画等について「研究・学芸系職員連絡協議会」において連絡・調整を行い、企画機能強化を図る。</p> <p>3) 機構共通のネットワーク及びシステムにより、業務の効率的な運用及び情報の共有化を引き続き推進する。</p>	<p>2) 国立博物館各館及び各研究成果公開施設における24~28年度の展覧会予定表を毎月更新し、研究調整役を中心に企画調整を継続するとともに、「研究・学芸系職員連絡協議会」を開催し、連絡・調整を行った。</p> <p>3) 機構共通システム運用の基盤となるネットワークである機構VPN(Virtual Private Network)について見直しを行った。25~26年度にかけて、セキュリティ強化、安定性向上を目的とした機構内ネットワークの統合を行うこととし、そのための準備を進めた。各施設内LANは従来通り各施設管理とし、インターネット接続を一元化する方向で検討中である。また、機構共通グループウェア「サイボウズ」の機構全体での運用を継続し、機構内の連絡調整・情報共有を推進した。</p>		
9130	<p>(2) 計画的なアウトソーシング</p> <p>以下の業務の外部委託を継続して実施する。 (東京国立博物館) ・資料館業務の一部 (京都国立博物館) ・看護室内業務及び設備保全業務の一部 ・受付・案内・警備業務、売札業務及び清掃業務 (奈良国立博物館) ・建物設備の運転・管理業務 ・警備及び看護室内業務及び清掃業務 (九州国立博物館) ・建物設備の運転・管理業務等 ・警備業務、看護室内業務及び清掃業務 (東京文化財研究所・奈良文化財研究所) ・警備業務、清掃業務及び建物設備の運転・管理業務等</p> <p>(3) 使用資源の減少</p> <ul style="list-style-type: none"> ・省エネルギー <p>1) 光熱水量の使用状況を把握し、管理部門を中心に引き続き節減に努める。 (エネルギー使用量は、5年計画期間中に5%削減)</p> <p>・廃棄物減量化</p> <p>1) 使用資源の節減に努め、廃棄物の減量化に引き続き努める。</p> <p>・リサイクルの推進</p> <p>1) 廃棄物の分別収集を徹底し、リサイクルを引き続き推進する。</p>	<p>(2) 計画的なアウトソーシング</p> <p>・全ての施設において、電気設備保守業務、機械設備保守業務、昇降機設備保守点検業務、売札業務、各種事務補助作業、清掃業務、構内木製等維持管理業務等について、民間委託を実施している。</p> <p>・博物館は警備・展示室監視等業務の大部分を外部委託している。また、研究所は警備業務の全てを外部委託している。</p> <p>・博物館の来館者サービスについては、インフォメーション業務、図書・写真資料を閲覧等の利用に供するサービス及び図書整理業務等について民間委託を実施している。</p> <p>・東京国立博物館及び東京文化財研究所における施設管理・運営業務（展示等の企画運営を除く）及び東京国立博物館展示場における来館者等対応業務について民間競争入札を実施している。</p> <p>(3) 使用資源の減少</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常の節電節水の周知徹底、クールビズ・ウォームビズの推進、冷暖房の省エネ運転等を行った。 ・廃棄物削減では、ミスコビーの防止及び両面印刷の励行、館内LAN・電子メール等の活用による文書のペーパーレス化を引き続き行っている。 ・リサイクルの実施（廃棄物の分別収集、リサイクル業者への古紙売り払い、再生紙の発注等） <p>使用資源の推移等</p> <p>光熱水料金</p>	A	順調

(千円)事項	23年度	24年度	差額	増減率
電気料	359,663	414,971	55,308	15.38%

		<table border="1"> <tr><td>水道料</td><td>82,330</td><td>83,236</td><td>906</td><td>1.10%</td></tr> <tr><td>ガス料</td><td>127,175</td><td>129,406</td><td>2,231</td><td>1.75%</td></tr> <tr><td>計</td><td>569,168</td><td>627,613</td><td>58,445</td><td>10.27%</td></tr> </table>	水道料	82,330	83,236	906	1.10%	ガス料	127,175	129,406	2,231	1.75%	計	569,168	627,613	58,445	10.27%											
水道料	82,330	83,236	906	1.10%																								
ガス料	127,175	129,406	2,231	1.75%																								
計	569,168	627,613	58,445	10.27%																								
※電気料は全体として使用量ベースでは減少したが、原料高騰及び再生可能エネルギー発電促進賦課金の賦課による契約単価及び燃料調整費の上昇により使用料金ベースで増額となつた。																												
		<table border="1"> <thead> <tr><th>事項</th><th>23年度単価 (円/kwh)</th><th>24年度単価 (円/kwh)</th><th>差(円/kwh)</th><th>単価影響額 (千円)</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>電気料特殊要因</td><td>14.3</td><td>17.1</td><td>2.8</td><td>67,976</td></tr> </tbody> </table>	事項	23年度単価 (円/kwh)	24年度単価 (円/kwh)	差(円/kwh)	単価影響額 (千円)	電気料特殊要因	14.3	17.1	2.8	67,976																
事項	23年度単価 (円/kwh)	24年度単価 (円/kwh)	差(円/kwh)	単価影響額 (千円)																								
電気料特殊要因	14.3	17.1	2.8	67,976																								
※水道料は、京都国立博物館における平常展示館工事業者の水道利用増により、増加した。 ※ガス料は全体として使用量ベースでは減少したが、原料高騰による契約単価の上昇により使用料金ベースで増額となつた。																												
		<table border="1"> <thead> <tr><th>事項</th><th>23年度単価 (円/m³)</th><th>24年度単価 (円/m³)</th><th>差(円/m³)</th><th>単価影響額 (千円)</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>ガス料特殊要因</td><td>73.7</td><td>81.7</td><td>8</td><td>12,670</td></tr> </tbody> </table>	事項	23年度単価 (円/m³)	24年度単価 (円/m³)	差(円/m³)	単価影響額 (千円)	ガス料特殊要因	73.7	81.7	8	12,670																
事項	23年度単価 (円/m³)	24年度単価 (円/m³)	差(円/m³)	単価影響額 (千円)																								
ガス料特殊要因	73.7	81.7	8	12,670																								
特殊要因を考慮した光热水料金 (千円)																												
		<table border="1"> <thead> <tr><th>事項</th><th>23年度</th><th>24年度</th><th>差額</th><th>増減率</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>電気料(※)</td><td>359,663</td><td>346,995</td><td>△12,668</td><td>△3.52%</td></tr> <tr><td>水道料</td><td>82,330</td><td>83,236</td><td>906</td><td>1.10%</td></tr> <tr><td>ガス料(※)</td><td>127,175</td><td>116,736</td><td>△10,439</td><td>△8.20%</td></tr> <tr><td>計</td><td>569,168</td><td>546,967</td><td>△22,201</td><td>△3.90%</td></tr> </tbody> </table>	事項	23年度	24年度	差額	増減率	電気料(※)	359,663	346,995	△12,668	△3.52%	水道料	82,330	83,236	906	1.10%	ガス料(※)	127,175	116,736	△10,439	△8.20%	計	569,168	546,967	△22,201	△3.90%	
事項	23年度	24年度	差額	増減率																								
電気料(※)	359,663	346,995	△12,668	△3.52%																								
水道料	82,330	83,236	906	1.10%																								
ガス料(※)	127,175	116,736	△10,439	△8.20%																								
計	569,168	546,967	△22,201	△3.90%																								
※電気料・ガス料については特殊要因を勘案して算定。																												
廃棄物排出量 (kg)																												
		<table border="1"> <thead> <tr><th>事項</th><th>23年度</th><th>24年度</th><th>差額</th><th>増減率(%)</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>一般廃棄物</td><td>255,976</td><td>245,438</td><td>△10,538</td><td>△4.12%</td></tr> </tbody> </table>	事項	23年度	24年度	差額	増減率(%)	一般廃棄物	255,976	245,438	△10,538	△4.12%																
事項	23年度	24年度	差額	増減率(%)																								
一般廃棄物	255,976	245,438	△10,538	△4.12%																								

9140	<p>(4) 自己収入の増大 独立行政法人整理合理化計画（19年12月24日閣議決定）の方針に基づき設定した外部資金の活用及び自己収入の増大に向けた定量的目標の達成を、引き続き目指す。</p> <p>1) 機構全体において、入場料収入（共催展を除く）及びその他収入について、1.16%の増加を目指す。</p> <p>2) 機構全体において、寄附金226件及び科学研究費補助金76件の確保を目指す。</p>	<p>(4) 自己収入の増大 1) 定量的目標を設定した自己収入については、下表のとおり△2.72%となり、目標を下回った。</p> <p>(単位：千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr><th></th><th>平成22年度</th><th>平成23年度</th><th>平成24年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>自己収入基準額</td><td>884,252</td><td>894,510</td><td>904,886</td></tr> <tr><td>自己収入目標額</td><td>894,510</td><td>904,886</td><td>915,383</td></tr> <tr><td>自己収入実績額</td><td>1,002,524</td><td>821,470</td><td>880,271</td></tr> <tr><td>増加率</td><td>13.38%</td><td>△8.17%</td><td>△2.72%</td></tr> </tbody> </table> <p>※受託研究・受託事業を除く。 ※自己収入目標額は、前年度の目標額から1.16%増加した場合の額。 ※増加率は、自己収入基準額（前年度の目標額）に対する増加率。 ※自己収入実績額は、還付消費税額（260,696千円）を除く。</p> <p>2) 下表のとおり、寄附金及び科学研究費補助金ともに目標件数を上回ることができた。</p> <table border="1"> <thead> <tr><th></th><th>目標値</th><th>平成24年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>寄附金</td><td>226件</td><td>438件</td></tr> <tr><td>科学研究費補助金</td><td>76件</td><td>88件</td></tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr><th>定量評価</th><th>24年度</th><th>23年度</th><th>目標値</th><th>評定</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>一般管理費の効率化(対前年度比%)</td><td>6.44%減</td><td>4.75%減</td><td>3.20%</td><td>S</td></tr> <tr><td>業務経費の効率化(対前年度比%)</td><td>0.89%減</td><td>7.53%減</td><td>1.03%</td><td>B</td></tr> <tr><td>光热水料費の削減(対前年度比%)</td><td>3.90%減</td><td>1.58%減</td><td>1.03%</td><td>S</td></tr> <tr><td>自己収入増加率</td><td>2.72%減</td><td>8.17%減</td><td>1.16%</td><td>C</td></tr> <tr><td>寄附金件数</td><td>438件</td><td>393件</td><td>226件</td><td>S</td></tr> <tr><td>科学研究費採択件数</td><td>88件</td><td>76件</td><td>76件</td><td>A</td></tr> </tbody> </table>		平成22年度	平成23年度	平成24年度	自己収入基準額	884,252	894,510	904,886	自己収入目標額	894,510	904,886	915,383	自己収入実績額	1,002,524	821,470	880,271	増加率	13.38%	△8.17%	△2.72%		目標値	平成24年度	寄附金	226件	438件	科学研究費補助金	76件	88件	定量評価	24年度	23年度	目標値	評定	一般管理費の効率化(対前年度比%)	6.44%減	4.75%減	3.20%	S	業務経費の効率化(対前年度比%)	0.89%減	7.53%減	1.03%	B	光热水料費の削減(対前年度比%)	3.90%減	1.58%減	1.03%	S	自己収入増加率	2.72%減	8.17%減	1.16%	C	寄附金件数	438件	393件	226件	S	科学研究費採択件数	88件	76件	76件	A	B	一部 要注意
	平成22年度	平成23年度	平成24年度																																																																	
自己収入基準額	884,252	894,510	904,886																																																																	
自己収入目標額	894,510	904,886	915,383																																																																	
自己収入実績額	1,002,524	821,470	880,271																																																																	
増加率	13.38%	△8.17%	△2.72%																																																																	
	目標値	平成24年度																																																																		
寄附金	226件	438件																																																																		
科学研究費補助金	76件	88件																																																																		
定量評価	24年度	23年度	目標値	評定																																																																
一般管理費の効率化(対前年度比%)	6.44%減	4.75%減	3.20%	S																																																																
業務経費の効率化(対前年度比%)	0.89%減	7.53%減	1.03%	B																																																																
光热水料費の削減(対前年度比%)	3.90%減	1.58%減	1.03%	S																																																																
自己収入増加率	2.72%減	8.17%減	1.16%	C																																																																
寄附金件数	438件	393件	226件	S																																																																
科学研究費採択件数	88件	76件	76件	A																																																																

2 給与水準の適正化等

【中期目標】給与水準については、「公務員の給与改定に関する取扱いについて」（平成 22 年 11 月 1 日閣議決定）を踏まえ、国家公務員の給与水準等を十分考慮して、検証したうえで、業務の特殊性を踏まえた適切な目標水準・目標期限を設定し、その適正化に取組むとともに、検証結果や取組状況を公表すること。
総人件費についても、平成 23 年度はこれまでの人事費改革の取組を引き続き着実に実施するとともに、平成 24 年度以降は、今後進められる独立行政法人制度の抜本的な見直しを踏まえ、厳しく見直すこと。

【中期計画】

2 国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指數については現状を維持するよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表する。また、これまでの人事費改革の取り組みを平成 23 年度まで継続するとともに、平成 24 年度以降は、今後進められる独立行政法人制度の抜本的な見直しを踏まえ、取り組むこととする。ただし、人事院勧告を踏まえた給与改定分及び競争的資金により雇用される任期付職員に係る人件費については本人件費改革の削減対象から除く。
なお、削減対象の「人件費」の範囲は、各年度中に支給した報酬（給与）、賞与、その他の手当の合計額とし、退職手当、福利厚生費は含まない。

【主な計画上の評価指標】

○自己点検評価、監事監査、内部監査等を行うこと。

【23 年度評価における主な指摘事項】

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
9210	2 給与水準の適正化等 国家公務員の給与水準や手当 등을考慮した役職員の給与の適正化に引き続き計画的に取り組む。また人件費改革の取り組みを今後進められる独立行政法人制度の抜本的な見直しを踏まえ、取り組む。ただし、人事院勧告を踏まえた給与改定分及び競争的資金により雇用される任期付職員に係る人件費については本人件費改革の削減対象から除く。また、削減対象の「人件費」の範囲は、各年度中に支給した報酬（給与）、賞与、その他の手当の合計額とし、退職手当、福利厚生費は含まない。 その際、役職員の給与に関し、国家公務員の給与構造改革を踏まえた、地場賃金の適正な反映、年功的な給与上昇の抑制、勤務実績の給与等への反映等に取り組む。	2 給与水準の適正化等 ・国家公務員の給与水準や手当などを考慮した役職員の給与の適正化に引き続き計画的に取り組む。また人件費改革の取り組みを今後進められる独立行政法人制度の抜本的な見直しを踏まえ、取り組む。ただし、人事院勧告を踏まえた給与改定分及び競争的資金により雇用される任期付職員に係る人件費については本人件費改革の削減対象から除く。また、削減対象の「人件費」の範囲は、各年度中に支給した報酬（給与）、賞与、その他の手当の合計額とし、退職手当、福利厚生費は含まない。 その際、役職員の給与に関し、国家公務員の給与構造改革を踏まえた、地場賃金の適正な反映、年功的な給与上昇の抑制、勤務実績の給与等への反映等に取り組む。	A	順調

3 契約の適正化の推進

【中期目標】契約については、「独立行政法人の契約状況の点検・見直しについて」（平成 21 年 11 月 17 日閣議決定）に基づく取組を着実に実施し、一層の競争性と透明性の確保に努め、契約の適正化を推進するとともに外部委託の活用等により、定型的な管理・運営業務の効率化を図ること。

【中期計画】

3 「独立行政法人の契約状況の点検・見直しについて」（平成 21 年 11 月 17 日閣議決定）に基づき引き続き取組みを着実に実施し、文化財の購入等随意契約が真にやむを得ないものを除き、競争性のある契約への移行を推進することにより、経費の効率化を行う。また「『独法の事務・事業の見直しの基本方針』（平成 22 年 12 月 7 日閣議決定）に基づき、施設内店舗の賃借について、企画競争を導入するなど競争性と透明性を確保する契約方式とする。なお民間競争入札については、現在実施している民間競争入札の検証結果等を踏まえ、一層推進する。

【主な計画上の評価指標】

○情報セキュリティに配慮した情報化・電子化に取り組むこと。
○情報セキュリティ対策の向上・改善のための定期監査等を実施すること。

【23 年度評価における主な指摘事項】

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
9310	3 契約の適正化の推進 1) 契約監視委員会を実施する。 2) 施設内店舗の貸付について企画競争を導入する。 3) 民間競争入札を推進する。 (東京国立博物館・東京文化財研究所) ・施設管理・運営業務を継続して外部委託を行う。 (東京国立博物館) ・展示場における来館者応対等業務を継続して外部委託を行う。	3 契約の適正化の推進 1)「独立行政法人の契約状況の点検・見直しについて（平成 21 年 11 月 17 日閣議決定）」に基づき、外部委員で構成された契約監視委員会を設置し、機構が平成 23 年度に締結した契約の点検・見直しを行った。 第 1 回契約監視委員会（24 年 11 月 30 日開催） 第 2 回契約監視委員会（25 年 6 月 14 日開催予定） 2) 東京国立博物館本館（ミュージアムショップ）、東京国立博物館黒田記念館（カフェ）及び奈良文化財研究所飛鳥資料館（ミュージアムショップ）において、企画競争を実施した。 京都国立博物館（レストラン）、奈良文化財研究所平城宮跡資料館（ミュージアムショップ）、東京国立博物館（レストラン）及び奈良国立博物館（ミュージアムショップ・レストラン）については既に企画競争を実施済み。 今後も、賃貸借期間終了時に順次企画競争を実施予定である。 3) 総務省からの要請に基づき、「独立行政法人整理合理化計画（平成 19 年 12 月 24 日閣議決定）」の一環として、随意契約の見直しを行い、随意契約によることがやむを得ないものを除き、引き続き競争契約に移行している。 ・より多くの競争参加業者を募るため、公告期間をこれまでの「10 日間以上」から自主的措置として 20 日間以上確保するように引き続き努めている。 ・列品等修理契約について、修理契約委員会を設置し、修理可能な業者が複数存在すると判断された契約は企画競争を実施している。	A	順調

一般競争入札件数

年度	23 年度	24 年度	増減
件数	132 件	136 件	4 件

4 保有資産の有効利用の推進

【中期目標】保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、本来業務に支障のない範囲で有効利用の推進を図ること。

【中期計画】

4 保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、有効利用の推進を図るために、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施する。

【主な計画上の評価指標】

○対国家公務員指標について、現状を維持するよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表すること。

【23年度評価における主な指摘事項】

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
9411	4 保有資産の有効利用の推進 (博物館 4 施設) 1) 講座・講演会等を開催する。 2) 講堂等の利用案内を関係団体、学校等に対し積極的に行う。 3) 国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサートなどを実施し、施設の有効利用を図る。	【東京国立博物館】 1)月例講演会等の他、当館主催や外部利用による講演会を実施した。 2)撮影件数増加のためインターネットロケーション検索サイト(ロケナビ!)への登録を継続した。 3)・定期的にコンサート、寄席などの文化イベントを開催した。 ・「国際博物館の日」を記念して上野地区の機関と連携し、ガイドツアーなど実施した。 ・「留学生の日」イベントを行い、ガイドツアーや茶道体験など日本文化の紹介を行った。 ・森鷗外生誕 150 周年を記念して、総長室跡地に記念碑を設置した。	A	順調
9412		【京都国立博物館】 1)平常展示館建替工事期間中のため、展覧会等に関する講演会、土曜講座等は館外の施設を利用して開催した。 2)平常展示館建替工事期間中で講堂を使用できないため、庭園を積極的に活用するなど施設の有効利用の推進を図った。また、外部団体等の講演会・研修会等への施設の貸出を積極的に行った。 3)来館者の拡大を目的としたコンサートや映画野外上映会を実施し、施設の有効利用を図った。	A	順調
9413		【奈良国立博物館】 1)公開講座、サンデートーク、正倉院展ボランティア解説、特別鑑賞会、文化財保存修理所特別公開等を開催した。 2)奈良市教育委員会と連携し、市内の小学校5年生を対象とした世界遺産学習を実施した。 3)・地元自治体等と連携し、敷地内でコンサート等のイベントを実施した。 ・(財)奈良県ビジターズビューローと連携し、「仏像と出逢うセミナー」として、講演及びなら仏像館を閉館後に観覧する特別鑑賞会(有料)を7回行った。	A	順調

9414	【九州国立博物館】 1)文化交流展示室を紹介する講座の開催や各特別展で関連する講演会を開催した。 2)ミュージアムホール、エントランスホール、研修室、茶室等において、館主催事業及び各種団体主催のイベントを開催するとともに、希望団体にはミュージアムホール、研修室、茶室の貸出を行った。 3)国際シンポジウム、アジア諸国に関するイベント、留学生の日のイベント等を開催した。また、ガムランワーキショップや茶道体験、コンサートの開催等を継続的に実施し、施設の有効活用を促進した。	A	順調														
9415	(文化財研究所 2 施設) セミナー室、講堂等一般の利用の供することができる施設の有料貸付を実施するとともに、展示公開施設におけるミュージアムショップの運営委託等、施設の有効利用の推進を引き続き図る。	A	順調														
9416	【東京文化財研究所】 ・セミナー室、会議室等を利用することにより、施設の有効利用の推進を図った。 ・研究成果を広く一般にも公表するためのオープンレクチャーを今年度も開催した。この事業は台東区との連携事業として毎年開催されている「上野の山文化ゾーンフェスティバル」に東京文化財研究所のオープンレクチャーを同事業の講演会シリーズとして実施している。	A	順調														
	【奈良文化財研究所】 <table border="1" data-bbox="539 1538 1191 1684"> <thead> <tr> <th>施設名</th> <th>平成 24 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平城宮跡資料館講堂</td> <td>75 件 (内 有償貸与 8 件)</td> </tr> <tr> <td>平城宮跡資料館小講堂</td> <td>117 件 (内 有償貸与 3 件)</td> </tr> <tr> <td>寄宿舎施設</td> <td>1,107 件 (内 有償貸与 44 件)</td> </tr> <tr> <td>飛鳥資料館講堂</td> <td>10 件 (内 有償貸与 0 件)</td> </tr> <tr> <td>その他(本庁舎・監理棟・収蔵庫等)</td> <td>19 件 (内 有償貸与 13 件)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>1,328 件 (内 有償貸与 68 件)</td> </tr> </tbody> </table> ・一般利用申し出への行政サービスの向上を図る方針のもとに、ウェブサイトでの施設利用紹介等による積極的有効利用(貸付等)の促進を図った。 ・奈良文化財研究所が企画実施する研修等に際して、宿泊施設の有効活用を図った。 ・上記のほか、平城宮跡資料館、飛鳥資料館の各ミュージアムショップ(売店)の運営を外部委託し、図録等の販売を通して来館者の利便に供した。			施設名	平成 24 年度	平城宮跡資料館講堂	75 件 (内 有償貸与 8 件)	平城宮跡資料館小講堂	117 件 (内 有償貸与 3 件)	寄宿舎施設	1,107 件 (内 有償貸与 44 件)	飛鳥資料館講堂	10 件 (内 有償貸与 0 件)	その他(本庁舎・監理棟・収蔵庫等)	19 件 (内 有償貸与 13 件)	合計	1,328 件 (内 有償貸与 68 件)
施設名	平成 24 年度																
平城宮跡資料館講堂	75 件 (内 有償貸与 8 件)																
平城宮跡資料館小講堂	117 件 (内 有償貸与 3 件)																
寄宿舎施設	1,107 件 (内 有償貸与 44 件)																
飛鳥資料館講堂	10 件 (内 有償貸与 0 件)																
その他(本庁舎・監理棟・収蔵庫等)	19 件 (内 有償貸与 13 件)																
合計	1,328 件 (内 有償貸与 68 件)																

5 内部統制の充実・強化

(1) 理事長のマネジメント強化

【中期目標】法令等を遵守するとともに、業務の特性や実施体制に応じた効果的な統制機能の在り方を検討し、内部統制の充実・強化を図ること。

【中期計画】

- 5 (1) 理事長のマネジメント強化のため業務の特性や実施体制に応じた効果的な統制機能の在り方を検討し、自己点検評価を始め監事監査、内部監査などモニタリングを行う。

【主な計画上の評価指標】

【23年度評価における主な指摘事項】

○組織全体で取り組むべき重要な課題の把握・対応のうち、「適切な人員の確保」については、業務補完としてアソシエイトフェローを起用しながら適切に業務運営を実施しているが、今後は、制度を持つ問題点にも留意しつつ、アソシエイトフェローの能力向上や経験値の拡大などの支援体制についての検討が必要である。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
9510	5 (1) 理事長のマネジメント強化 <ul style="list-style-type: none"> 1) モニタリングの実施 <ul style="list-style-type: none"> ・自己点検評価を行う。 ・監事監査を行う。 ・内部監査を行う。 2) リスクマネジメントの実施 <ul style="list-style-type: none"> ・関連する諸規程を整備する。 ・危機管理マニュアルの見直し等を隨時行う。 	5 (1) 理事長のマネジメント強化 <ul style="list-style-type: none"> 1) モニタリングの実施 <ul style="list-style-type: none"> ・自己点検評価を行い、『平成23年度 独立行政法人国立文化財機構自己点検評価報告書』を作成(24年6月)し、評価結果をウェブサイトで公開した。外部評価委員からの意見等を踏まえ、評価のしやすさに配慮した自己点検評価報告書の作成に向けて、作成マニュアルの見直しを行い、各施設の評価担当を対象に報告書作成に関する説明会を実施した。(24年11月29日・30日)。 ・監事による定期監査(24年6月25日)を行った他、臨時監査を本部・東京国立博物館(25年1月10日・31日)、東京文化財研究所(25年2月8日)を対象に行なった。 ・内部監査を、24年10月29日～11月16日の日程で、本部事務局及び各施設を対象に順次行った。 2) リスクマネジメントの実施 <ul style="list-style-type: none"> ・理事長からの指示に基づき、関連する諸規程の見直しを行ったが、改訂の必要はなかった。 ・理事長からの指示に基づき、危機管理マニュアルの見直しを隨時行い、東京国立博物館では来館者・職員・収蔵品のそれぞれを対象とする改訂を行うとともに、簡易版も作成した。 	A	順調

(2) 外部有識者による事業評価

【中期目標】外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ事業評価を実施し、その結果を組織、事務、事業等の改善に反映させること。

【中期計画】

- 5 (2) 外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年1回以上事業評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善を行う。

【主な計画上の評価指標】

【23年度評価における主な指摘事項】

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期

9520	5 (2) 外部有識者による事業評価 <ul style="list-style-type: none"> 1) 運営委員会、外部評価委員会を実施し、その結果を組織、事務、事業等の改善に反映させる。 2) 職員の資質向上を図るため各種研修を実施する。 	5 (2) 外部有識者による事業評価 <ul style="list-style-type: none"> 1) 運営委員会(24年8月1日)、外部評価委員会(研究所・センター調査研究等部会: 24年4月17日、博物館調査研究等部会: 4月27日、総会: 5月30日)を実施し、その結果を機構の事業等の改善に反映させた。 2) (各種研修について詳細は処理番号 0230 参照) 	A	順調
------	--	--	---	----

(3) 情報セキュリティ対策の向上と改善

【中期目標】管理する情報の安全性向上のため、政府の方針を踏まえた適切な情報セキュリティ対策を推進し、必要な措置をとること。

【中期計画】

- 5 (3) 管理する情報の安全性向上のため、政府の方針を踏まえた情報セキュリティに配慮した業務運営の情報化・電子化に取り組み、情報セキュリティ対策の向上と改善を図るために定期監査等を実施する。

【主な計画上の評価指標】

【23年度評価における主な指摘事項】

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
9530	5 (3) 情報セキュリティ対策の向上と改善 <ul style="list-style-type: none"> 1) 情報セキュリティについて定期監査等を実施する。 	5 (3) 情報セキュリティ対策の向上と改善 <ul style="list-style-type: none"> 1) 保有個人情報監査を、本部事務局・東京国立博物館(25年1月31日)、東京文化財研究所(25年2月8日)を対象に実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・個人情報研修を機構内のほぼ全職員を対象に実施した。 ・情報システム監査を、アジア太平洋無形文化遺産研究センター(24年10月11日)を対象に実施した。 ・情報システム自己点検・評価について、今回はセキュリティ対策の実施状況に重点を置いて実施した(24年4月)。 	A	順調

III 予算(人件費の見積もりを含む)、収支計画及び資金計画

<p>【中期目標】入場料収入、寄付金等による自己収入の確保、予算の効率的な執行等に努め、適切な財務内容の実現を図ること。</p> <p>1 自己収入の増加 入場料収入、寄付金等の外部資金、本来業務に支障のない範囲で施設の有効利用により自己収入を確保することで財源の多様化を図り、法人全体として積極的に自己収入の増加に向けた取り組みを進める。 また、自己収入額の取り扱いにおいては、各事業年度に計画的な収支計画を作成し、当該収支計画による運営に努めること。</p> <p>2 固定的経費の節減 管理業務の節減を行うとともに、効率的な施設運営を行うこと等により、固定的経費の節減を図ること。</p>	
<p>【中期計画】管理業務の効率化を図る観点から、各事業年度において、適切な効率化を見込んだ予算による運営を行う。 また、収入面に関しては、実績を勘案しつつ、入場料収入、寄付や賛助会員等への加入者の増加、募金箱の設置などによる外部資金、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなど、施設の有効利用により自己収入を確保することで財源の多様化を図り、法人全体として積極的に自己収入の増加に向けた取り組みを進めることにより、計画的な収支計画による運営を行う。</p> <p>【主な計画上の評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○当期総利益（又は当期総損失）の発生要因が明らかにすること。また、当期総利益（又は当期総損失）の発生要因の分析を行った上で、当該要因が法人の業務運営に問題等があることによるものかを検証し、業務運営に問題等があることが判明した場合には当該問題等を踏まえた評価を行うこと。 ○利益剰余金が計上されている場合、国民生活及び社会経済の安定等の公共上の見地から実施されなければならない業務を遂行するという法人の性格に照らし過大な利益となっていないかについて評価を行うこと。 ○繰越欠損金が計上されている場合、その解消計画の妥当性について評価すること。当該計画が策定されていない場合、未策定の理由の妥当性について検証を行うこと。（既に過年度において繰越欠損金の解消計画が策定されている場合の、同計画の見直しの必要性又は見直し後の計画の妥当性についての評価を含む）。さらに、当該計画に従い解消が進んでいるかどうかについて評価を行うこと。 ○当該年度に交付された運営費交付金の当該年度における未執行率が高い場合において、運営費交付金が未執行となっている理由を明らかにすること。 ○運営費交付金債務（運営費交付金の未執行）と業務運営との関係についての分析を行った上で、当該業務に係る実績評価を適切に行うこと。 <p>【23年度評価における主な指摘事項】 ○利益剰余金はインセンティブになるようにする必要がある。</p>	

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期

予算		(単位：百万円)			
区分	金額				
収入					
運営費交付金		7,602			
施設整備費補助金		6,884			
展示事業等収入		1,309			
受託収入		26			
計		15,821			
支出					
管理経費		1,567			
うち人件費		756			
うち一般管理費		811			
業務経費		7,344			
うち人件費		2,323			
うち調査研究事業費		1,167			
うち情報公開事業費		133			
うち研修事業費		13			
うち国際研究協力事業費		265			
うち展示出版事業費		259			
うち展覧事業費		3,138			
うち教育普及事業費		46			
施設整備費		6,884			
受託事業費		26			
計		15,821			

收支計画

(単位：百万円)

区分	金額
費用の部	6,463
経常経費	6,463
管理経費	1,170
うち人件費	756
うち一般管理費	414
業務経費	4,886
うち人件費	2,323
うち調査研究事業費	596
うち情報公開事業費	68
うち研修事業費	7
うち国際研究協力事業費	135
うち展示出版事業費	132
うち展覧事業費	1,601
うち教育普及事業費	24
受託事業費	26
減価償却費	381
収益の部	6,463
運営費交付金収益	4,747
展示事業等の収入	1,309
受託収入	26
資産見返運営費交付金戻入	351
資産見返物品受贈額戻入	30

資金計画

(単位：百万円)

区分	金額
資金支出	15,821
業務活動による支出	6,082
投資活動による支出	9,739
資金収入	15,821
業務活動による収入	8,937
運営費交付金による収入	7,602
展示事業等による収入	1,309
受託収入	26
投資活動による収入	6,884
施設整備費補助金による収入	6,884

IV その他主務省令で定める業務運営に関する事項

【中期目標】 1 施設・設備に関する計画 各施設の安全かつ良好な施設環境を維持するとともに、業務の目的・内容に適切に対応するため長期的視野に立った施設・設備の整備計画、研究機器の整備・更新計画を作成し、整備を図ること。 2 人事に関する計画 人事管理、人事交流の適切な実施により、内部管理事務の改善を図り、効率的かつ効果的な業務運営を行うため、非公務員化のメリットを活かした制度を活用すること。 また機構の将来を見据え、専門スタッフの配置などの計画的な確保・育成を図ること。	
【中期計画】 1 施設・設備に関する計画 施設・設備の老朽化度合い等を勘案しつつ、別紙4のとおりの施設・設備に関する計画に沿った整備を推進する。 2 人事計画に関する計画 (1)方針 ①国家公務員制度改革や類似独立行政法人等の人事・給与制度改革の動向を勘案しつつ、職員の能力や業績を適切に反映できる人事・給与制度を検討し、導入する。 ②人事交流を促進するとともに、職員の資質向上を図るための研修機会の提供を行なう。また、効率的かつ効果的な業務運営を行うため、非公務員化のメリットを活かした制度を活用する。 ③機構の将来を見据え、専門スタッフの配置などの計画的な確保・育成を行なう。 (2)人員に係る指標 給与水準の適正化等を図りつつ、業務内容を踏まえた適切な人員配置等を推進する。 中期目標期間中の人件費総額見込額 13,087百万円 但し、上記の額は、役職員に対し支給する報酬（給与）、賞与、その他の手当の合計額であり、退職手当、福利厚生費を含まない。 3 中期目標期間を超える債務負担 中期目標期間を超える債務負担については、機構の業務運営に係る契約の期間が中期目標期間を超える場合で、当該債務負担行為の必要性及び資金計画の影響を勘案し、合理的と判断されるものについて行なう。 4 積立金の使途 前中期目標期間の期間の最終年度において、独立行政法人通則法第44条の処理を行なってなお積立金があるときは、その額に相当する金額のうち文部科学大臣の承認を受けた金額について、次期へ繰り越した経過勘定損益影響額等に係る会計処理に充当する。	【主な計画上の評価指標】 ○職員の能力や業績を適切に反映できる人事・給与制度の検討・導入を図ること。 ○人事交流の促進、職員への研修機会の提供等を図ること。 ○専門スタッフの配置などの計画的な確保・育成を行うこと 【23年度評価における主な指摘事項】

処理番号	年度計画	主な実績		自己評価																			
		年度	中期	A	順調																		
0110	1 施設・設備に関する計画 別紙のとおり施設・設備に関する計画に沿った整備を推進する。 施設・設備に関する計画 (単位：百万円) <table border="1"> <thead> <tr> <th>施設・整備の内容</th> <th>予定額</th> <th>財 源</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東京国立博物館 黒田記念館耐震補強改修等工事 表慶館バリアフリー化工事</td> <td>614 59</td> <td>施設整備費補助金 施設整備費補助金</td> </tr> <tr> <td>京都国立博物館 平常展示館建替工事 (19年度～24年度)</td> <td>5,050</td> <td>施設整備費補助金</td> </tr> <tr> <td>奈良国立博物館 防災設備等改修工事</td> <td>1,141</td> <td>施設整備費補助金</td> </tr> <tr> <td>奈良文化財研究所 本庁舎地区再開発計画の推進</td> <td>20</td> <td>施設整備費補助金</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>6,884</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	施設・整備の内容	予定額	財 源	東京国立博物館 黒田記念館耐震補強改修等工事 表慶館バリアフリー化工事	614 59	施設整備費補助金 施設整備費補助金	京都国立博物館 平常展示館建替工事 (19年度～24年度)	5,050	施設整備費補助金	奈良国立博物館 防災設備等改修工事	1,141	施設整備費補助金	奈良文化財研究所 本庁舎地区再開発計画の推進	20	施設整備費補助金	合 計	6,884		1 施設・設備に関する計画 ・黒田記念館の障がい者用エレベーター、段差解消機及び多目的トイレ設置の改修工事を含めた耐震補強改修及び書庫棟傾き補修附属書庫傾斜補正等の工事を進めており、25年7月完了を予定している。 ・表慶館に障がい者用エレベーター及び多目的トイレ設置の改修工事を進めており、25年6月完了を予定している。 (京都国立博物館) ・平常展示館の建替工事は、平成24年度末に展示制作等を除く本体工事を完了し、引き渡しを受けた。 (奈良国立博物館) ・防災設備等の改修として、収蔵庫ガス消防設備工事、防犯設備工事（センサー・監視カメラ）、発電機設備工事を進めており、25年度未完了を予定している。 (奈良文化財研究所) ・本庁舎の建替に向けて、仮設庁舎建設工事の設計及び現庁舎取壊工事の設計を24年度末に完了した。			
施設・整備の内容	予定額	財 源																					
東京国立博物館 黒田記念館耐震補強改修等工事 表慶館バリアフリー化工事	614 59	施設整備費補助金 施設整備費補助金																					
京都国立博物館 平常展示館建替工事 (19年度～24年度)	5,050	施設整備費補助金																					
奈良国立博物館 防災設備等改修工事	1,141	施設整備費補助金																					
奈良文化財研究所 本庁舎地区再開発計画の推進	20	施設整備費補助金																					
合 計	6,884																						

処理番号	年度計画	主な実績								自己評価		
		年度	本部・東京 国立博物館	京都 国立博物館	奈良 国立博物館	九州 国立博物館	東京文化財 研究所	奈良文化財 研究所	アジア太平洋無形文 化遺産研究センター	年度計 (人)	A	順調
0210	2 人事計画に関する計画 (1) 職員の能力や業績を適切に反映できる人事・給与制度を検討する。										A	順調
0220	(2) 近隣大学等との交流を進め、優秀な人材を確保する。										A	順調

0230	(3) 各種研修を積極的に実施し、また、職員を外部の研修に派遣するなど、その資質の向上を図る。	21	大)	北九州高専	総地研)								
		18(文化庁、東大、東近美、政研大、京博)	13(京大、民博、奈良博、東博)	10(文化庁、阪大、京大、北九州高専、京博)	8(東大、医科歯科大、東博、奈文研)	8(京大、阪大、滋賀大、総地研、奈女大)	—						
		18(東大、東近美、政研大、京博)	14(京大、阪大、民博、奈文研、東博)	8(九大、本部)	5(医科歯科大、東博、奈文研)	11(京大、阪大、総地研、奈女大)	—						
		17(東大、東近美、政研大、奈文研)	14(京大、阪大、民博、奈文研、東博)	12(阪大、京大、京博、本部)	8(九大、本部)	12(文化庁、京大、阪大、奈女大)	1(奈文研)						
		17(東大、学士院、奈文研)	14(京大、民博、奈文研、東博)	9(阪大、京大、京博、本部)	7(医科歯科大、東近美、東博、本部)	8(京大、阪大、奈女大、京博)	1(奈文研)						
<p>※表中の人事交流者の人数は、各年度末現在でカウントした。(機構に受け入れている人数) ※平成 21 年度から機構内の人事交流中の人数を含めた。合計欄の()内の人数。 <研究系職員> ・職員の適性・能力、年齢構成及び業務の効率化などを総合的に勘案し、新規に研究職員を 8 人採用した。 ・また、文化庁から 9 人の受け入れ及び文化庁への出向を 14 人行っている。 ・機構内での人事交流を図るために、各施設にて計 9 人の交流を行っている。 (3)・機構職員としての資質向上を図るために、新任職員や職員を対象とした各種研修(3 件)、施設系の職員を対象とした研修(1 件)、個人情報管理に関する研修(1 件)及びハラスメントに関する研修(1 件)を行った。 ・その他、他機関で実施する研修にも積極的に参加した。 </p>													
0240	(4) 非公務員化のメリットを活かした制度の活用方法について引き続き検討する。	研修名称	日程	受講対象者	受講者数								
		新任職員研修会	24 年 7 月 18 日～20 日	平成 23 年度以降の新任職員等	34 人								
0250	(5) 専門スタッフの配置などの計画的な人材の確保・育成に向け、検討を進める。	接遇研修	24 年 7 月 18 日	平成 23 年度以降の新任職員等	34 人								
		個人情報保護についての講演会	24 年 7 月 19 日	平成 23 年度以降の新任職員等及び本部事務局、東京国立博物館、東京文化財研究所全職員及び近隣独立行政法人職員	約 100 人								
		施設系職員研修会	24 年 7 月 26 日～27 日、25 年 2 月 7 日～8 日	機構内の施設系職員	延べ 20 人								
		個人情報管理研修	24 年 12 月 20 日～25 年 2 月 8 日	各施設の常勤職員、特別研究員、アソシエイトフェロー、有期雇用職員	約 600 人								
		ハラスメント防止に関する研修会	25 年 2 月 5 日、21 日など	各施設の職員、ハラスメント防止等委員会委員及び相談員等	約 230 人								
<p>(4) 平成 19 年度において、技術職員及び技能・労務職員について、機構独自で採用可能とする規定の整備を行い、平成 20 年度に施設の維持管理を行う職員を適用範囲とし、平成 24 年度において、事務職員を適用範囲とした。 平成 20 年度において、常勤の研究職員に準じた有期雇用職員の人事制度(アソシエイトフェロー)を新たに整備し、専門的事項の調査研究を行う研究職と高度な専門知識と経験等を有する専門職を対象として採用可能とした。平成 24 年度は東京国立博物館で 5 人、京都国立博物館で 3 名、九州国立博物館で 2 名、東京文化財研究所で 2 人、奈良文化財研究所で 4 人及びアジア太平洋無形文化遺産研究センターで 3 人を採用した。(計 19 人)</p> <p>(5) 高度の専門的知識経験又は優れた識見を一定の期間活用して行うことが必要と認める業務に雇用する者とした任期付専門員制度を活用し、平成 23 年度において 1 人採用した。平成 24 年度において、柔軟かつ多様な人材の確保のため、任期付専門員制度に準じた任期付専門職員制度の検討を行った。</p>													
<p>A A</p>													